

264号



山口+新宿発

ミレニアムの 国際女性フォーラム



ミレニアムの国際女性フォーラムに参加して
芦澤礼子／斎藤千代／斎藤美栄子

ワークショップ i n ニューヨーク
山口の女は日本国憲法をどう見るか
〈北京+5 グローバルフェミニストシンポジア山口〉

北京宣言及び行動綱領実施のための
更なる行動とイニシアティブ（成果文書）

変わった？変わらない？女性の状況

メキシコ・コペンハーゲン・ナイロビ・北京・ニューヨーク

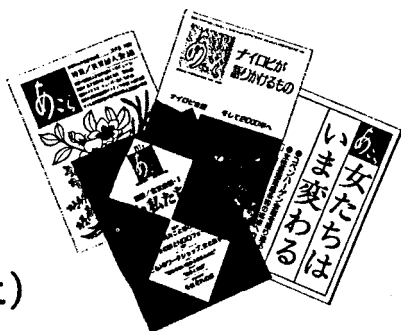
5回の世界女性会議に 参加して見えたもの

講師・斎藤千代さんは月刊誌「あごら」を約30年間発行され、日本と世界の女性の情報の発信を続けておられます。その間すべての世界女性会議でワークショップを開催され、日本の女性の状況を世界へアピールされてきました。特にメキシコでは日本人としては唯一のワークショップでした。

世界女性会議の変遷と日本政府の対応などを語っていただき、どうすれば21世紀男女平等な社会が実現できるか、参加されるみなさんと一緒に考えませんか。

講師・斎藤 千代

(ジャーナリスト・あごら編集者)



「あごら」とはギリシャ語でひるば、
欄のないひるばを意味します。

日 時 2001年2月10日(土)
午後1:30~3:30

場 所 大阪市立婦人会館

定 員 100名(応募多数の場合は抽選となります。)

資 料 代 300円

申込方法 ◆往復バガキに、講座名・住所・氏名(フリガナ)・年齢・電話番号(勤務先も)・応募動機を明記の上、1月29日までに下記へお申し込みください。
◆一時保育(2歳から学齢前まで)ご希望の方は子どもの名前(フリガナ)・性別・年齢をご記入ください。

主 催 大阪市立婦人会館・夕陽丘女性史グループ

協 力 自主グループ連絡協議会

お問合わせ・申込先

大阪市立婦人会館

〒543-0042

大阪市天王寺区烏ヶ辻2丁目5番18号

TEL 06-6772-0061

FAX 06-6772-6341



JR「桃谷」駅、市バス「桃谷駅前」下車、徒歩5分
駐車場がありませんので公共交通機関をご利用ください。

ミレニアムの国際女性フォーラム 斎藤千代／斎藤美栄子／芦澤礼子

女性学ジェンダー研究国際フォーラム 〈あごら新宿〉 ワークショップから 2

ワークショップ・in ニューヨーク 山口の女は日本国憲法をどう見るか

〈北京+5 グローバルフェミニストシンポジア山口〉 27

はじめに 28

ワークショップ「女性と紛争」二〇〇〇年六月六日の記録から 30

ベアテ・シロタ・ゴードンさんのお宅にお邪魔して 70

北京とニューヨークに参加しての雑感 勝又瑞枝 72

ニューヨーク二〇〇〇年会議から 金子瑞穂 72

「戦争」を深く考えさせられた 栗崎啓子 73

日本も「文化を輸出する」時期に來たのでは 荒土悦子 74

見て 聞いて 歩いて 北京+5 グローバルフェミニストシンポジア 松藤東明子 75

「女性問題は人権問題」こそ重要と実感 吉鶴尚美 76

「体感する学習」を学ぶ 益田徳子 77

女性問題提案の本場に乗り込んで 中川忍子 78

女性二〇〇〇年会議を体感して 小柴久子 79

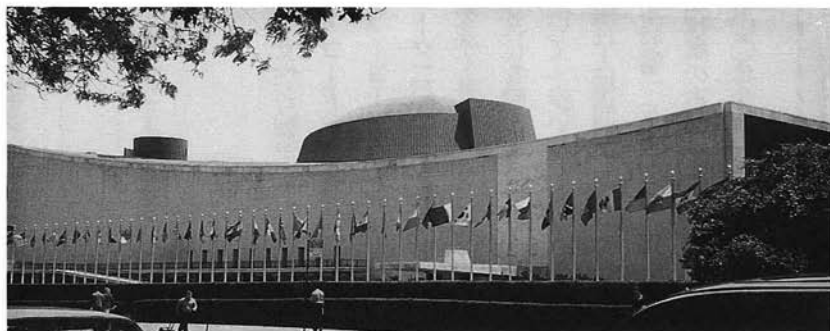
参加者の感想

北京宣言及び行動綱領実施のための更なる行動とイニシアティブ (成果文書) 総理府仮訳 81

ミレニアムの国際女性フォーラム

2000年8月5日 国立婦人教育会館
女性学ジェンダー研究国際フォーラム

〈あごら新宿〉ワークショップ



司会（澤田和子）女性二〇〇〇年国連特別総会が開かれたミレニアムの今年、いろいろな国際会議がありました。（あごら）では、国連特別総会と、それに先立って三月にボルチモアで開かれた世界フェミニスト会議（フェミニスト・エキスポ二〇〇〇）と、沖縄の女性サミットに参加しました。その三つに参加された斎藤千代さん、前半二つにご参加の斎藤美栄子さん、沖縄に参加された芦澤礼子さんの三人に、その概況をお話したいと思っています。

斎藤千代 今日、前半は千代と美栄子、斎藤コンビでお話します。同じ斎藤、外国ではよく親子かと聞かれます。美栄子さんは米国でもお暮らしになった英語が堪能な方で、こんな娘がいれば嬉しいのですが、残念ながら何の関係もありません。でも美栄子さんは大学生の時にBOCに入られたので、もう三十四年のおつきあいです。

まずニューヨークの国連総会ですが、新聞などには、日本の方が七百人も八百人もニューヨークに来られたと報道されています。本当に日本の方がたくさんいらしたなあ…と思ったんですけれども、私どもは今回はNGOフォーラムは開かれないうことは承知しておりましたので、も

し開くとしたら、それよりは沖縄に世界の皆様をお招きしようということですと動いておりました。へあごろ」としてはニューヨークツアーは組まず、六月末に沖縄ツアーを組んでいました。そのためワークショップの準備などはほとんどしないうで、取材を中心に、二人で出かけ、へあごろUSAの今野望さんと三人で動きました。

実は二人とも非常に忙しくて、お互いに帰ってからまだ話を突き合わせていないんですね。ですから、対談のかたちで互いに思い出しながら話を進めていきたいと思っています。国連特別総会については、この嵐山のフォーラム初日にも橋本ヒロ子先生の立派なお話がありましたが、私どものほうはNGOという立場を貫いて参りましたので、ちょっと目線が低い、そういう立場でお話をしたいと思っています。

一九七五年、メキシコ会議から始まった

斎藤美栄子 九五年に北京会議がありましたね。最初の世界女性会議は一九七五年？

千 そうです。メキシコ会議ですね。ちなみに、国連の会議というのは、国家の名前でなくて開催都市の名前をつけ

て呼ぶんですね。コペンハーゲン会議、ナイロビ会議、北京会議というふうに。七五年はメキシコ市で開かれた。国名のメキシコではなく、都市名のメキシコです。

美 どうしてメキシコ会議に行かれることになったかという……。

千 そのお話から始めたほうがいいかもしれませんね。経緯をご存じない方が意外に多いのですが、第一回世界女性会議の開催は、その三年前、一九七二年に決まったのです。その前、一九六〇年に国連決議として「女性差別撤廃宣言」が成立した。これは実に画期的なことでした。しかしこれが宣言ですから、法的拘束力がない。この宣言に基づいて毎年各国で差別撤廃の状況を調査した結果、一九七二年に法的拘束力を持った「条約」を作ることと、女の問題を大キャンペーンするために「国際婦人年」を設けようということに決まりました。一九七五年を起点に十年間を「国連婦人の十年」とし、最初の年を「国際婦人年」として第一回世界女性会議を開くことになりましたが、実は開催地がメキシコに決まったのは一九七四年なんです。それまではコロンビアと言われていましたが、急に辞退、メキシコになったようです。しかし、こうした動きは日本のマ

スメディアはほとんど報道せず、その頃、女性問題を統括していた労働省の婦人少年局も情報がなかったようで、私どもの所に度々問い合わせがあったという状況でした。私どもも情報は不十分でしたが、田中寿美子先生や海外の活動家から若干の情報を得て、戦後すぐに女性運動にかかわっていた私としては、「柱の陰からでも見たい」と、血が騒いだのです。

ただ、その頃は女性問題をやっている人はそんなに多くはありませんし、印刷媒体も電波媒体も情報を流さないので、関心は低く、日本から女性たちが行くと行ったとき、あの市川房枝さんでさえも「英語もろくにわからない日本の女性が行って何になるんだ」とおっしゃったんです。

今ではメキシコもかなり近いところのように思われるでしょうが、七五年当時の感覚で言えば、地球の裏側のような遠い所にどうしたら行けるのか、わからない状況でした。旅行社を使えば簡単なんですけれども、その頃は日本中の主な旅行社はみんな「キーセン観光」に関わっていたのですね。最初はそれを知らなくて、私たちもある大手の旅行社と契約が決まりかけていたんですけれども、ボーイコットすることになり、〈あそこ〉は全部手作りでやることにしま

した。それでとても大変だったんですけれども、だからこそ良く見えたこともありました。

女性会議と戦争との関わり

千 私自身は一九四五年の敗戦のときに十代でしたが、ある日突然、焼け焦げて真っ黒だった東京が真っ赤や真っ黄色などの極彩色に変わったんですね。原色の町になぜ変わったのか……米軍慰安婦でした。それまでは地味な色の服しか着ていなかった日本の女性たちが、けばけばしい服を着て米軍の兵士と連れ立って歩いている。兵士の中でも白い人は若くてきれいな女性と歩いていて、黒い人ほどお年を召した人と一緒に歩いているんです。私は性の知識がまったくなかったから、何ごとかわからなかったんですけれども、頭を殴られたような、すごくいやな感じがしました。

その一方で、ものすごいインフレでした。戦争中、女性はいみんな軍需工場に駆り出され、私たち学生も十二歳以上ならみんな学校の授業はやめて、旋盤を回したりリベットを打ったりしていたんです。ところが、戦争が終わって男たちが復員してきたら、女は、職場を追われました。

インフレ下、収入を得たくても仕事がないから、子どもを持つている女性たちはほとんどみんな内職をしました。ミシンを踏んで服を縫って。着るものがないので作れば売れた時代です。でも、その低賃金といったら、一週間足がはれ上がるほど働いてお米五合がやっと買えるくらいなんです。今考えれば、女たちを低賃金で働かせて儲けていた人たちも当時からいたんですね。病気になるくらい働かされて……。「どうしてそんなことするの、病気になったらどうするの」と知人に言っただんですが、「子どもがおなかをすかして泣いている。お米の研ぎ汁でもいいから飲ませたい」と言う。何で戦争で女がこんなな苦しい思いをするんだらう。その頃は日本が加害者であったことは知りませんでしたので、被害者という立場からでしたが、「女と戦争」が生涯のテーマになりました。

ところが、国連の世界女性会議と戦争というのは、日本の「女と戦争」と重大な関わりがあったのです。実は私はメキシコ会議から帰って、山のような国連の資料を読んで初めてわかったのですが、一九四六年の国連発足と同時に「女性の地位委員会」が設けられたのは、日本の戦争が深く関わっていたのです。

国際連合というのは戦勝国の集まりです。第一次大戦後に発足した国際連盟を第一次国連とすれば、国際連合は第二次国連とも言うべきものです。国際連盟は第二次大戦を止める力がなかったから、それに代わるものとして発足したのが国際連合です。発足したとき、真っ先に戦争の原因について分析しました。ドイツの場合は「民族差別」——ユダヤ人差別に象徴されます。日本の場合は何でしょうか。本当に驚いたんですけれど「女性差別」なんです。日本の女性差別が戦争を招いたと、国連が明確に指摘していたのです。資料を読んで、なんとという素晴らしい指摘だろうと感嘆しました。

戦前、日本の女性は明治の厳しい民法の下で、個人の財産も持てないなど非常に偏った状態に置かれていました。古い因習の中で「女は下働きするもの」という考え方が強く、今言われているドメスティック・バイオレンス、DVもかなり日常的に日本の各地で行なわれていた。女房をぶん殴ったり、女房がいても公然とお妾さんを置いたりということが日常的であった日本の男たちだったからこそ、中国なり南方なりに行った時に、そこで女を犯すことも人を殺すこともできたのでしょね。だから、国連のこの指摘

は、まさに問題の核心を衝いていたと思います。

ところが、この指摘について、世界各国から「自分の国にも女性差別がある」という声があがった。それで「女性の地位委員会」が出来、世界各国の女性の状況を調査した結果、これは由々しいことだと、女性差別撤廃宣言まで出すようになったのです。そして、第一回女性会議が七五年にメキシコで開かれたわけですが、「南北問題」を激しく訴えていたメキシコで開催されたのは、実に意味深いことでした。

南北問題というのは観念では知っていましたが、メキシコでは、それがどんなにひどい状況であるのか、痛切に感じました。街のどの通りにも、一メートル置きくらいに春をひさぐ女性が立っているんですね。さらにシヨックだったのは、夜の公園には五歳か六歳くらいの子どもが多数いたこと。大の男が女の子をマントに抱え込んで次々に闇の中に消えていく。大人の女が一日働いても二百円ぐらい、子どもが相手をする一回で二千元。どんどん低年齢化する児童買春のすごさ。それが南北問題の現実でした。第一回をメキシコで開いたのは、その意味で本当によかった。自分自身を切り刻まずにはいられませんでした。

美 斎藤さんは戦争のシヨックを受けて、それ以来ずっと女性の問題・平和の問題を考え続けているということですが、このままお話ししていると一晩たっちゃうんですね（笑）。ですから、このお話は私も個人的にはもっと伺いたいんですけど、このくらいにして、次のデンマークに行かないとニューヨークに着かないかもしれない（笑）。

私は北京会議に、初めて行っただけです。その辺から私もやっと出番になれるんですけど。デンマークやナイロビ、北京会議のことは『あごろ』のバックナンバーに詳しく特集を組んでおりますので、そちらをご覧ください。あるいはあとで斎藤さんをつかまえて、詳しい話をお聞きください。お若い方々には、そのようなお話は珍しいことだと思えます。何しろ斎藤さんは、メキシコ、デンマーク、ナイロビ、北京と全部いらしてらるんですね。

コペンハーゲン、ナイロビ、そして北京

千 メキシコ会議にはイラン国王の双子のお姉さんがいらして、「次はどうぞテヘランに来てください」と、何十万ドルという小切手をサラサラと書いて渡し、次は八〇年

にテヘランと決まったのですが、七九年に突然イラン革命が起きて、テヘランでできないことになりました。そこで、突然浮上したのがコペンハーゲンでした。

メキシコ会議のときは国を挙げて「この機会に南北問題を問いかけよう」というので、メキシカン・ピンクと呼ばれるシヨッキング・ピンクの国際婦人年の旗が空港から町中に張りめぐらしてあったんですけど、コペンハーゲンへ着いたら、ポスター一つ貼ってないんです。どこに行ってもないので、本当にここですの？と思ったほどでした。

NGOフォーラムの会場はコペンハーゲン大学でしたが、大学といっても、日本の中学校くらいの大さきで、とても質素でした。その講堂が開会式の会場でしたが、そこへ行ったら、何もない。たった一つ、白い布に「Women」とだけ書いてあった。そのOだけが赤い♀マーク。本当におしゃれですね、感動しました。

会場などごく簡素でしたが、各ワークシヨップでも、シンポジウムでも、議論の内容は実に質が高く、心くばりは隅々まで行き届いていて、それぞれの会場で議決したことは、その日のうちに国連本会議の会場、ベラセントーまでみんなでデモしながら届けに行きました。国連にNGO

の声が必ず届くという印象。いま思い出しても胸の中が温かくなります。今までのすべての会議の中で、コペンハーゲン会議が最高だったと思います。

フェミニズムの領域が大きくひろがって、女の問題の中に「エコ・フェミ」という言葉（エコロジー&フェミニズム）が出てきたのもこの会議の頃です。そのほか、アフリカの女性からは「今でも私たちの国では、女性が牛馬のように売られている」といった話が出たり、例の割礼の話も、初めて公にされました。

その次が八五年のナイロビ。これはまた、うって変わって「アフリカン・パワー」を爆発させての大キャンペーンでした。ちょうどアフリカ各地の植民地が解放されて十五周年くらい。アフリカの方たちは本当に陽気で、歌って踊って、もう体の大きさからして違いますね（笑）。でも、その反面例えば「煮炊きをするときに、かまどを二つにしたら家事が半減した」などということをやークシヨップで話している。ナイロビ大学の周りのテントでもいろいろなキャンペーンがあり、アメリカで発売禁止になっている避妊薬を公然と勧めているテントもあって驚きました。私たちのワークシヨップでその危険性を話したら、現地の人に感謝さ

れました。

ナイロビには日本から二千人くらい参加したでしょうか。(へあ)は五つワークショップを開きましたが、日本の参加者は、地方の名流婦人が多く、ワークショップよりはお買い物。現地の人の食事はトウモロコシ半分なのに、御馳走を食べ余す。「日本」という国のさまざまなしくみを感じ知り、とてもつらい、哀しい気持ちになりました。

その十年後の北京は、NGOの参加が三万人。メキシコ三千、コペンハ根、ナイロビ一万五千と、倍々の参加者増でしたが、これはもう徹底したナシヨナリズムでした。いかに中国を売り込むかということ、徹底的な統制。残念ながら、私たちが泊まった所にも盗聴装置がありましたね。しかし、日本人は八千人も参加して、参加した人たちもほとんど普通の女性。すっかり「世界女性会議ファン」になったようでした。

美 その北京で「北京世界女性会議行動綱領」が採択され、十二項目(女性と貧困、教育、健康、暴力、紛争、経済、権力、機構、人権、メディア、環境、少女)が改革目標として掲げられたことはご承知のとおりです。そして、五年後に北京15として北京後の成果を問うことになりました。

民間の大会議「フェミニストエキスポ2000」

美 それで五年後の二〇〇〇年にNGOフォーラムがあると思っていたらそれが無い。それではと、三月末から四月初めまで、米国ボルチモアでアメリカのフェミニスト・マジョリティ・ファウンデーションというNGOが行なった「フェミニストエキスポ2000」に参加したんです。

千 アメリカの友人たちが、アメリカのNGOは必ず何かやるよ、とは言っていたのですが、その後連絡もないうまま、ある日突然招待状が来て、「日本の代表としてぜひ参加してほしい」ということでした。急だったし、時間もお金もないし、どうしようかと思いましたが、沖縄の問題を何とかPRしたいと思って、沖縄とチェチェンのビデオとチラシを持って、結局美栄子さんと二人で参りました。

美 この会には六千人くらい集まったんですが、日本人はほんの数名でした。外国人も思ったより少なく、大部分はアメリカの方でした。

千 招待された方は四百人くらいの方でしたなね。

美 でも、アメリカは人種のもつぽですから、皮膚の色も



Feminist EXPO 2000大ホールで、スピーチと、ブースの情況

さまざまですし、中国系とかインド系とか、見たところは本当にインターナショナルな感じでした。テーマもいろいろあって、面白かったです。そのときのサマリーは、『あら』258号の「集会から」に出ています。

千ボルチモアとは、ニューヨークから車で一時間半くらい、ワシントンの東側の小じんまりした都市で――。

美 会場はシティホールの巨大な会場でした。大きな部屋では大きな集まり、小さな部屋では小さな集まりで。

千 全員が集まるのは体育館三分という感じの広いところでしたね。そこに何十というブースが出ていました。今アメリカでやっているいろんなグループがそれぞれのブースも出しているわけで、そこを歩いてみるだけで、今のアメリカの女性運動の状況がわかるんです。それはとても面白かったですね。

アメリカのフェミニズムの底力を見る

美 プログラムは三月三十日から四月六日までですね。

千 今配った資料にありますので、ごらん下さい。

美 ここには百六項目が載っていますが、その他に飛び入

りもあつたりしました。

千 本当にたくさんさんの催しがあつて……ただ残念なのは、「平和」というテーマでは一つしかなかったことです。

美 ボルチモアの感想として最も印象的なのは、若い人たちが半分以上だったことです。それと、男性が多かったこと。「男性がこんなに女性会議に来るのは珍しいですね」と、ある男性に声をかけたら「まあね、僕も驚いている」と言っていました。開催が週末だったので、学生さんも多かったです。女子大生がボーイフレンドを連れて来ていたり、高校の先生が生徒を引率して来たり、若い人たちが一所懸命話を聞いていたんです。それを見て「ああ、いいなあ」と思いました。地元の若い人が気軽に来られるのはいいですね。北京では若い人はそれほど集まらなかったし、女性問題の集まりという年齢が限られてしまうことが多いんですけどね。

千 その若い方たちもどんどん発言なさったし。それから面白かったのは、初日にも最終日にも、歴代のアメリカで女性運動に関わった有名人たちや、今活躍している方たちが次々に登場して、ちょうどこの五十年間を回顧する形になったこと。グロリア・スタインナムはじめ、著名な女性運

動家たちが次から次へとスピーチして……。

美 皆さん、すごくスピーチがお上手でしたね。圧倒されました。その間にビデオを流したり。そしてそれを受けて、最後に小学生の女の子が力強くスピーチしたんです。

千 「先輩たちのすばらしい仕事を引き継いでいく」と。大拍手でしたね。意気盛んなアメリカ、どの人もすごく元気でバイタリテイもあるし、自分たちの行動に絶対の自信を持っている。話の結びは必ず「ヴィヴァ！フェミニズム！」フェミニズム万歳！するとみんながスタンディング・オーベーション。

話し手は、壁面いっぱいくらいの画面に映し出されます。大会場なので、画面が二つあって、みんなに見えるようになってるんですね。迫力満点でした。

美 世界中から人が駆けつけて……。

千 さすがにみんなプレゼンテーションがうまいですね。

特に最終日には、いろんな国の方が発言されて。雰囲気はメキシコ会議にとてもよく似ていたんです。すごくエキサイティングで。会議場だけでなくどのブースも盛り上がりついていたのもメキシコに似ていました。メキシコ会議の特集号はもう残っていないのですが、図書館でも一度お読み

下さると思います。

メキシコのときは、私たちも何が何だかわからなくて、とにかく山のように資料を持ち帰りました。そのリストを見ますと、今問題になっていることが全部出ているんですね。私たちはメキシコへ行くのさえもやっとという状況でしたけれども、あとでアメリカの友人がたくさん出来たので聞いてみたら、その何年も前から小さいグループごと、女の問題をどういうふうにして世界に訴えるか、それぞれのグループで話し合いを重ねて、厚さ一メートルくらいの書類ができるほどの討議を重ねた結果を、メキシコ宣言とか世界行動計画の中に盛り込んだ、ということを知りました。日本はその時点では何十年も遅れていたと言ってもいい状況だったんです。まるで明治の人間がまぎれ込んだようなものですね。しかし、その時にもうたぐさんの問題が出ていた先進国アメリカの会議だったのに、ボルチモアで失望したのは、その域を超えていなかったことです。

メキシコの隣の、ニューメキシコ州はアメリカが侵略して米国領になったところ。地続きですから、メキシコ会議のときにはアメリカの若い女性たちが車やオートバイに乗ったりしてわーっとやってきたんです。地元の人よりア

メリカの人のほうが多いくらいでした。そのとき中南米の人たちが何て言ったか。口を開けば「アメリカ帝国主義」。「あなたたちは平等平等と言っているけど、その陰でどれほど私たちは搾取されているか。私たちは赤ん坊にお乳を飲ませたいのに、栄養失調でお乳が出ないから赤ん坊が腕の中で死んでいくんだ」と。

その一方、ベティ・フリーダンなどは丸太のような腕を振り回して“*Michelle's right*”（力は権利！）と叫び、その迫力にはどきもを抜かれましたが、力のフェミニズムのようで、私は何となく違和感がありました。そしてアメリカのフェミニズムは第三世界からさまざまな批判を受けた。けれども、やっぱりアメリカ人は本当の意味では反省していません。たとえばボルチモアの壇上にはいろんな人が出てきたのに、ネイティブ・アメリカンの姿は一人もなかったんです。これは、日本に照らしても言えることです。日本人は日本の犯している差別を知らないんじゃないかと、アジアの方たちから厳しい目で見られています。そういう目で見るとアメリカもそうで、メキシコ会議から二十五年経ったのに、アメリカには期待したような進歩はないのかな、と残念でした。

美 「アメリカは進歩していいのでは」とおっしゃいま

したが、アメリカの差別の種類の多さといったら大変なものです。男女差別だけではなく、人種差別も、とにかく多種多様な差別があります。だからこそ、その中で団結もしやすいのかと思いました。参加者の中には、弾圧されている当事者や弁護士さんもらして、サリーを着た人であったり……「私たちはここまで来ました」「We can do! 女性

いんです。ただ、ブラックの方は人数も多いけれども、ネイティブ・アメリカンの方はマイノリティーだし、居留地はリザベーション、つまり囲い込みですね。ウランの採掘場とか、そういうひどいところに追いやられて、危険な作業をさせられて、しかも、ものが言えない……。

美 ぜんぜん見えないところに追いやられて、目に触れないようにされていますものね。

千 アメリカの女性に聞いてみても、「学校で教えないから私たちは全然知らない」と。そういうことに女性運動が触れないのはどうかと思つたのです。ただ、アメリカの女性運動が公民権運動とともに闘つたというのは、日本の女性運動と比べて腰の強さを感じます。

政府間会議の傍聴で考えたこと

千 次は、六月のニューヨーク国連特別総会。私は、本当はニューヨークで開かれるのは良くないと思つていたんです。世界のいろいろな国、できれば小さな国で開くといと……。北京の次はなぜか、みんな二〇〇〇年はシドニーと言つてましたね。五大陸の中で今まで世界女性会議をし



国連ビル前でアピールするNGO

ていないのはオセアニアだから、そう思っていたんでしょ
う。でも、引き受けないと聞いて、私は今こそ日本が名乗
り出て欲しいと祈る思いで、関係者に申し上げたんですが、
ダメでした。そしてニューヨークということになり、どう
ぞ国連本会議の傍聴を、という招待が、日本では〈国際婦
人年連絡会〉と〈あごら〉の二つにまず来たようです。し
かし、ニューヨークではNGOフォーラムは開かない。各
国のNGOから「何でやらないんだ」というクレームが殺
到したので、開会前の三日間、国連の施設を開放しますと
いう書面が来たのは、出発の一週間くらい前でした。

美 それで行ったんですけど、〈あごら〉は沖縄のほうに力
を入れるということで、ニューヨークでは特にプログラム
を用意していなかったんです。向こうへ着いても、まず国連
に入るのがすごく大変だったんです。あとでアルバムをご
覧になればわかると思うのですが、IDカードを何重にも
首にぶら下げなければならぬんですね。

この写真(P2)は国連ビルで、その前に百八十八本の旗
が立っています。このビルに厳重な門番がいて、ここを通
らないと入れない。国連に入るのに空港のようにボディ
チェックをされるんです。各NGOから二人だけというこ

とで。それも、毎回開かれる半日前にまた他のところでカードをもらうことが必要な場合もあり、とても嚴重だったんですね。

千 それはニューヨークに限らなくて、政府間会議は過去のどの会議でもそうでしたよ。各国の要人が集まるので。美 日本のNGOで入ったのはわずかでしたね。

政府間会議の会場はアルファベット順に席に国名が書いてあるんですけども、日本はJ、隣がヨルダン(Jordan)です。アルファベット順に、北京後の五年間でどのような成果が上がったか連日スピーチするんです。しかし、具体的に新しくすばらしい動きが出たとは、どこも言っていないかったですね。

千 ナショナルレポートというのは、いつもあまり面白くはないんです。で、私は頭のほうしか傍聴しなかったのですが、今野望さんは、ずっと聞いていて、国によつては大きい国ではなくて小さい国だったそうですけれども——とても感動的な報告もあったと話していました。

私が聞いてて感じたのは、これは以前もそう思ったのですが、使用している言語の大部分が英語、フランス語、スペイン語。中小国はほとんど全部、その国の言語ではない

言語です。国連というのはまさに、過去の欧米人の侵略を象徴していると思いました。私たちは韓国の言葉を奪ったということ、今に至るも恨まれているわけですけども、三十年どころではないわけですよ。二百年以上も自国の言葉を奪われて、スペイン語とか英語しか話せない。それは自国の文化を奪われてきたということなのに……と、複雑な気持ちになりました。

美 政府代表の席は、椅子が二重になっているんですよ。後ろに通訳さんがいてイヤホンがある。日本人が一番多く行っていたのに、日本語は入っていないんです。

千 大勢行っていたという以上に、国連に一番多くお金を出しているのは日本なのに、国連の公用語は六か国語だけです。なぜかと言えば、公用語は第二次大戦の戦勝国の言葉なんです。英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、アラビア語、中国語ですが。

美 正式の会議場ではそういうことでしたが、国連の構内や、国連の門前では、いろんなアピールが繰り広げられていました(写真を示す)。これは地下の大ホールで、政府代表以外のNGOの人たちも入ってアピールしているところです。これは国連の前に立つて、ウガンダの女性がケニア

の兵士にレイプされたことをフランス語で訴えていました。そのほかにも、在米の韓国人兵士たちが、「化学兵器でやられたこの姿を見てください」と、車いすに乗って写真を持って、国連の前でアピールしていましたね。

NGOのワークショップを走り回って

司会 ニューヨークに七百人とか八百人とか、日本人が行ったという話をしてほしいという要望が強いのですが、千 確かにたくさんさんの日本の方がいらして、話題になりましたね。それなりにご苦労もなさったし、ずいぶん頑張ったワークショップをなさった方も多かったんですけれども、今までのようなNGOフォーラムは開けないというところとは、残念だけど現実でした。だから、決められた一定の場所、ほとんど日本人を中心としたワークショップになったのは、もったいなかったですね。UNCCなどはIDカード無しでも自由に入れて、NGOフォーラム小型版をしていましたから、もうちょつとほかのところにもいらっしゃれば、生の情報に触れたのにと残念でした。私はジャパン・グローバル・フォーラムとグローバルフェ

ミニストシンポジアに一コマずつ参加しましたが……。
美 国際的な広報が不十分でしたね。

千 NGOのプログラムは印刷物はなく、ウェブサイトで探したのですが、日本のワークショップはウェブに載っていないんです。載っているのはUNCCでやるものを中心なんです。だから、そういう意味でも損をしたというか、もったいなかったと思います。私たちは「沖縄で世界会議をやりましょう」と言い続けていたので、何が何でもニューヨークに行くということにはちよつとウーンという感じがあったのであまり協力しなかったんですけど、もつと協力して、いろんないい方法を考えればよかったと、現地に来て、日本から来られた方々の熱意を知って胸が痛くなりました。「コロンビア大学でいいのをやりますよ」とか「ニューヨーク大学でいいのをやりますよ」とか情報を送ったけど、その方たちはぎつしりスケジュールが決まっていますけど、いけない。もったいないなあニューヨークまで来て……ほかの所にもいらっしゃいと思ってしまうたのですけど、皆さんそれぞれ精一杯、とても苦労されて、達成感是十分だったことを、いくつかのワークショップに参加して痛感しました。山口の方がなさったワークショップなど、私も参加

して、とても感心しました。

美 私たちが協力できなかったのではなくて、国連のほうにNGOに対しての協力サイトがなくて、NGOの場所がない。私たちがワークショップをやったUNCCは、ここだけはNGOの組織委員会が置かれているということで、インターナショナルにいろんな人たちが入れたんですけど、他の日本人は、個人的にニューヨーク州立大学等と交渉して場所を借りるとかして、そこだけでやっていたので、一般にはわからなかったんです。

千 UNプラザというのも探し歩いたけど、なかなかわからなかった。UNプラザというのがすごく広い地域に何か所もあるのです。タクシーが着いたところがぜんぜん違うところで、ここに行けと言われたところに行く違う。また別のところへ行ったら違うところに回されて、結局一時間半もかかってようやくたどりついた始末でした。

良かったのは、アメリカ側が用意したコロンビア大学でのNGOのオープニングでしたね。各国の、世界のトップレベルの学者や活動家が世界地図をバックに非常にいい話をなさった。そして最後の結論として出てきたのが、こういう問題を解決するためには行動だと。「アクション」とい



ジュニアの集まり（6月8日）

う文字が流れたんです。テーマがまた非常に良かった。
“Women's right is human rights”という、〈あつら〉が言い続けていたテーマだったんです。

日本のワークショップでダントツに良かったのは二つ。一つは松井やよりさんたちVAWW-NETがUNCCで開いた「慰安婦」のワークショップでしたね。これは何年もかけて準備されてきて、非常にグローバルな立場で、それぞれの国の方がそれぞれの立場できちんと理論的に話されたんです。そして女性国際法廷へきっちり結びつけた。北京では日本が責められるばかりで、望さんなど、「慰安婦

問題のワークショップにはもう出たくない」と言っていたくらいでしたが、このワークショップは全然違って、慰安婦問題をまさに国際問題として位置付け、すばらしかったと思います。国際会議を何度も積み重ねてきた成果で、まさにグローバルなフェミニスト会議でした。これからの日本のワークショップのモデルになる会議だと思いました。

もう一つ良かったのはニューヨーク大学でWINが開いた住友裁判のワークショップでした。ニューヨーク大学とコロンビア大学はニューヨークの端から端なんです。私たちは少ない人数で限られた日程の中で飛び回って目が回りそう。ご飯食べる暇もないくらいでしたが、こどもも参加して本当に良かったと思いました。ニューヨーク大学の教授がお世話して下さったそうで、会議場もすばらしく、住友裁判の原告の白藤さんと、それにかかわった福岡大学の林弘子先生と弁護士の前野早智子さん、ニューヨーク市立大学のゲルプ教授が、告訴を裏付ける国際的なサポートを、きっちりとなさった。これもやっぱり何回も何回も国際会議を重ねていらしたようで、皆さんの英語もとてもお上手だし、日本語の解説もついていて、参加した全員が充足感を味わったと思います。しかも、会が終わってから、ちよっ

としたパーティふうにお食事が出て、ワインも出て、皆さんと歓談できて、至れり尽くせりの会でしたね。あれも、本当にこれから日本のワークショップのモデルになるものではないかなと思いました。

急ぎよ開催したへあぐらぐのワークショップ

美 へあぐらぐでは、申し上げたように、「二〇〇〇年は沖縄を最重点に」ということで、ニューヨーク向けのワークショップなどは準備していなかったんですけれども、急ぎよ空いてる会場はないかと探しまして、最終日に場所を確保することができたんです。

千 私たちが国際的に一番訴えたかったのは沖縄のことでした。沖縄差別は女性差別どころではない、日本の中の最大の差別です。私たちが犯している差別ですから、沖縄の問題を解決しなければ、女性差別など口にできないと思っています。いるんですね。ボルチモアのときもフィルムを持っていったんですけど、機会がなくて。その無念を美栄子さんが察して奔走し、国連の前にUNCCCという、国連の付属機関の一つ「チャーチセンター」があるんですね。そこが

唯一、国連が公認したNGOフォーラムをやっていましたので、その中でワークショップをやりました。

テーマは「軍隊とレイプ」です。時間が一時間しかなかったものですから、沖縄のフィルムは映せない。チェチェンのもので、すごいレイプの、未公開のビデオを切り口として、つまりレイプするということは普通の男が軍人になったとたんに凶器と化すという共通の問題、それは現に沖縄でも起こっている、そういうメッセージを届けようと、三人で努力しました。時間切れになって、満足のいく結果ではないながらも、見た方たちがそれなりのショックを受けて帰られたので、最後まであきらめなくてよかったと思いました。

美 チラシもポスターも急造で大変でしたね。

千 それを三人で配り歩いて……。おかげで何とか集まりましたね。私、実はそのチェチェンの映像を見たときに、初めて、レイプというものはこういうものだったのかとわ



UNCCで開いた〈あごろ〉のワークショップ

かりましたので、何とかこれを切り口に沖縄を、と必死で……。

美 レイプのこともそうですけど、「女性に対する暴力」は、ボルチモアでもニューヨークでも北京以上に増えていますね。DVも根っこは同じだと思うんです。

千 そうなんです。日本軍が戦地で女性を犯したのは、日本の国内にDVに象徴される女性差別があったからですよね。延々と。

美 そういうことが平気という感覚は、日本だけではないですよ。ボルチモアでアメリカの男子大学生に「大学にフェミニズムのコースはありますか」ときいたら、「学部として持っている大学は少ないけれども、科目としてはありますよ」ということでした。それで「大学の中でレイプは？」ときいたら「けっこうしょっちゅう」という答えでした。あっちの大学は広いですからね、木の陰とか……。

UNCCのバイオレンスのワークショップでも、みんなで話していたら、一人の女性が急に泣きながら外に出ていったんです。あとを追って話を聞いたら、「戦争で夫を殺されて、自分自身もレイプされ、アメリカに逃げてきた」と言うんです。私は言葉もなくて、ただ肩を抱いています。

た。そういうことは国際会議ではよくありますね。チェチェンから逃げてきたとか。そういうのもみんな「沖縄を差別する」という感覚とつながっているんでしょね。

千 私たちへあこらは、ずっと「沖縄」と言い続けているんですけど、いわゆるフェミニストの方たちでも、必ずしも動かないんですね、沖縄のことで。それが本当に残念なんです。私たちが加害者でありながら、どうして自分たちの加害性に気づかないのだろう。まず自分たちの加害の反省から始めない限り、女性差別の本当の解決はないと思います。

国際会議を日常にどう活かすか

美 私は、北京会議のときもそうだったんですけども、行つて何かがすつきりと解決したということではなくて、いっぱい宿題を持って帰ってきたという感じです。これらの問題、女性会議全体の問題、日本での問題点などをいっぱい感じちゃつて。思いついたままメモしたんですけどね。その一つは、女性の間で嵐山のような女性会議にいらした方たちと、そうでない方たちの間でギャップを感じるという事です。皆さんどうでしょうか。地元に戻つて近所の

奥様方に「嵐山に行つてきて、こういうことをして、こういう話を聞いた」と、お茶飲み話でも話せるかどうか。更に北京会議だとかニューヨークとか行っているうちに、どんどんギャップが開いていくような気がするんですね。それで連帯できなくなつたら、問題だと思います。

千 それは、とても大切な指摘ですね。地方ではそういう声をよく聞くのです。今度ニューヨークに行つた方々が、問題に目覚めて成果文書などを英語で一心に読み始められた。それが近所のお茶飲み話にもなることが大事ですね。

美 第二に、もうそろそろ男の人も一緒にいいんじゃないかなと。私はオーストラリアに行つたことがあるんですが、そのときに「女性問題は男性抜きにしたら考えられないよ。男性を敵に回さないで、手を組まなきゃ」と言われたんですね。私も、女の言い分だけではなくて、男の言い分も入れてやっていかなければと思います。政府のほうでも「男女共同参画」と言っていますが、男女一緒にやっていったほうがいいと思います。

第三は、行政との関係です。「日本のNGOは、しっかり勉強しているから、私たちが手を貸さなくてもやっていけるわね」と、行政側の人でそういう言い方をなさつた方

があつたんですね。手を貸してもらうものにも、一緒にやらなければどうしようもないわけですよ。行政の中にも人によつては「もつと民間の人がどんどん言つてください。私たちも問題を感じているんだけど、上のほうには私たちの力ではなかなか伝えにくい。皆さんが言つてくだされば、もつとブッシュできるんだから、どんどん言つてください」と言うひともあるんですが。

女性同士も、このように集まると、「ああ、同じようなことを考えている人つて、いっぱいいるんじゃない」と感じるし、もつとつながつていけると思うんです。今はインターネットもあるし、ちよつと意識を持ちはじめた人もベテランの人も、一緒になつて活動できたらいいと思います。

第四として思うんですが、これだけやっているのに、なんでニュースに出てこないんでしょう。マスコミはなんで毎日毎日あんなつまらないニュースばかり流すのでしょうか。私は北京でもメディアの人をつかまえて、「いっぱい報道してください。特別な人がやっているんじゃないんだということを、ぜひ報道してください」と言つただけで、千メキシコの場合は、初めてなので派手に報道しましたが、美 そうですか。北京では女性の記者が多かつたですね。

千 コペンハーゲンでは、下村満子さんとか増田れい子さんなど、各社選りすぐりの記者がいらしてたけど、残念ながら政府間会議が併行して開かれていたので、NGOフォーラムにはほとんどいらつしやらなかった。NGOは『毎日新聞』は私、『中日新聞』は河野貴代美さんが依頼されてルボを送りました。ナイロビ以降は、電波のほうも女性が増えだして、小宮山洋子さんなどもいらしてましたね。北京のときはびっくりするほど女性が増えたなあと感じたのですけど、今回はNGOフォーラムがなかったから、プレスはほとんど政府間会議の取材ばかりでね。

美 マスコミには、普段から女性の問題を取り上げてほしいですね。

千 そうですね。それがポイントですね。

美 大きな会議ではなくても、地域でいろいろな活動をしていることをメディアが取り上げるように、働きかけるといいと思います。

千 日常的にね。それはぜひお願いしたいですね。

語学以上に大切な「思想」

美 第五として、どこへ行っても困るのが英語なんですよね。日常会話はコミュニケーションが成立すればそれでいいんでしょけど、国際会議でのスピーチなどは、英字新聞を話すスピードで読めるくらいでないとい理理解できないし、北京の時には同時通訳があつても「訛りがひどくて通訳できません」とか、「前提の情報が入っていないので通訳しにくいので、要点をかいつまんで通訳します」ということがあつて、プロでもそういうことがあるんだと思います。よほど慣れている人でないと完璧には理解できないということですね。

千 そのとおりです。最低五年は猛勉強しないと。日本人は「英語を話せなければ」と、一所懸命に努力していますけれども、まず大切なのは「いい表現者になる」ということだと思ふんですね。「表現者になる」ということは、「いい受信者になる」こと。自分がどれだけちゃんとした思想を持っているかということ。思想がなくて口先だけでしゃべっても、何も通じないと思ふんですね。だから、自分をどれだけ鍛えていくかということで、英語にかける時間があつたら、まずそこをやつて、間に合わなければ英語は専門家に任せてもいいと思ふんです。そうでないと、まず英

語ができることが外国に出かける前提になつてしまふし。美 バックグラウンドが理解できていないと。ただ英語ができて女性運動のことを何も知らなければだめですよ。千 多少下手でも、一生懸命言えば思ひは伝わる……。美 英語ができないのは日本人だけではないんですよ。フランス語しかわからない、スペイン語しかわからない、という人もいます。

あるアフリカ人の方で、戦火をかいぐぐつて出てきた方なんですけど、発言を求められた時に「フランス語しかわからない。英語は少しだけ」と言つたんです。「どなたかフランス語の通訳ができる方はいませんか」と呼びかけがあつたのですがいなくて、しかたがなくて「何でも知つてゐる英語で話して」ということになつて、彼女はとつとつと身振り手振りを交えながら、知つてゐる言葉で話したのです。「We can understand! わかるよわかるよ」とみんなが応援して、彼女、泣きながら話してゐました。それだけの熱意があつたら伝わるんですね。

千 メキシコ会議の時、大会議場で「日本人が三百人来たそうだが、何のために来たのか、誰か話せ」という呼びかけに誰も答えないというので、キューバに行く交渉のため

にその場にはいなかった私を、人が呼びにきた。何か言つてほしいと……。で、人前でスピーチなど一度もしたことがない私でしたが、やっぱり何か訴えなきゃと思つて会場に行つた。通訳はお願ひしてあるスペイン語の通訳の方がやつてくださると思つて安心していたんですけど、たまたまその前に日本のリブの方が、日本語でワーワーと長い間しゃべつたら、すごい怒りを買つちやつて。「何を言つているのかわかりません」つて同時通訳には流れたそうです。それが影響したのでしょうか。私の番になつたらいきなり「Don't speak Japanese! Speak English only! in two minutes!」とまくしたてられたんです。私は日本語の吹き替えの仕事もしていたので、「二分だつたら百ワード」とかいうことは頭にひらめいた。どうしよう。もうしようがないから、「日本は憲法では平等をうたつてゐるけれども、現実はそのすごい格差がある。そのために半年分のお給料を貯めて来ました」とたどたどしく言う、たくさんの人が、駆け寄つてワーツと抱き締めてくれた……。必死の思いが何とか通じたんですね。

私が自分の無力も忘れて話そうと思つたのは、メキシコへ行くときに、土壇場まで行くと言つていた人のほとんどが

行けなくなつたんです。夫が反対する、親が反対するつて。その人たちが、私の背中を押したような気がした。男女平等を言い続けていた母も、押したような気がしたんですね。美 コミュニケーションをどうはかるかということよりも……。

千 それより、自分の中にふつふつたる思いがあるかなにかなんじゃないかと、その後いろいろな会議に出て感じました。

美 海外に行かなくても、国内問題はまだまだいっぱいあるんですよ。

第六にメモしたことです。教育が大事ということです。それこそ生まれたときから必要ですよ。レイブしない男の子を育てなければいけない。ボルチモアでの会議の暴力の問題で、大学の先生が『暴力をしない男の子の育て方』という本を書いて、研究しているんですね。私も買つてきてこれから読もうと思つてゐるんですけど、本当にいろんな宿題を持つて帰つてきました。

千 今回ボルチモアとニューヨークに行つて思つたのは、外国に行くときよく見えるんですけど、日本のNGOが世界各国に比べてすごく弱いということです。日本のGOは、

NGOに対して排他的ですが、世界の各国はNGOがGOと対等な力を持っていて、その知恵と勇気と技能を政府がどんな活用しているんですね。日本からは政府間会議に三十九名の方が代表団で参加されましたが、NGO代表はほとんど入っていない。ご自分はNGOだとおっしゃる方もいますが、私たちと一緒にデモに参加なさったわけでもないし、地べたを這うような運動をしてきた方は、その中には入っていない。首席代表の岩男寿美子さんは英語もお上手だし、国際女性学会の会長もやってらっしゃる方ですから、もちろん完璧なスピーチですけれども、もつとずっと低い視線で、日本の女の心の声を代表できる人がスピーチをしたら、もつと世界の人びとの心を動かせただろうと思うんです。それだけの運動の積み重ねがある人を、代表団にもできるだけ加えてほしいと、今度もつくづく思いました。たとえば「顧問」の中村道子さん（国際婦人年連絡会）が話されたら、伝わり方はずつと違つただろうと残念でした。

私が五回の会議に出て、一番思つたのは、これから世界はインターナショナルからインターピープルの時代になるだろうということでした。世界の女性たちは、国という垣根を取り払つて、それぞれの人間が、集団が、自分の生き

方をすがすがしく貫くことを着々と実行しています。国連は、今はユナイテッド・ネーションズですが、国の垣根をできる限り低くしていくとき、いつかは国ではなく、民が主体になる。ユナイテッド・ピープルが実現した時、世界には本当の平和が訪れるのではないかと思います。

二ニューヨークにも劣らなかつた沖縄国際女性サミット

司会 それでは、次に沖縄の話をお聞きしましょう。

千 私たちは、沖縄でNGOフォーラムを開きたいと、何回も沖縄の方々には話をしたんですが、沖縄の方たちは「私たちはもう一時間も一分も余裕がない。ちよつとでも手を休めたら、政府が押してくる」と言うんですね。沖縄はサミットで頑張らなければ、あと二百年基地が続く。だからできないと言うんです。それで残念ながらやめたんですけれども、沖縄の方たちが何年もかけて積み重ねてこられた国際女性サミットに参加しよう、そしてNGOミニフォーラムも開こう、と、出かけました。

芦澤礼子 〈あごろ〉事務局の芦澤です。国際女性サミットは六月二十二日から二十五日まで、沖縄県総合女性セン

ター「ている」で開催されたのですが、その事務局を担ったのは〈基地・軍隊を許さない行動する女たちの会〉です。この会の名前は皆さんもご存じだと思うんですが、北京会議でワークショップを開いた沖縄の女性たちが帰国された九月八日の四日前、一九九五年九月四日に何が起こったか、皆さんもよく覚えていらっしやると思うんですね。米兵三人による少女暴行事件が起こったんですね。それがあっただけで作られた会です。それから今までに二回、アメリカヘビース・キャラバンに行つて、直接アメリカの人たちに対して沖縄の現状を訴えてきました。フィリピンや韓国、米国の女性たちとネットワークを組んで、この国際女性サミットの原型となる国際女性ネットワーク会議を開いたのは一九九七年。九八年に第二回目を開き、今度が第三回目です。実はフィリピンで行なわれる予定だったんですね。けれども、沖縄でこういう「国際女性サミット」という形で行なわれたのは、まさにG8サミットが沖縄で開かれると決まったからですね。

ボルチモアの会議や国連女性二〇〇〇年会議は女性問題を網羅した大きな会議ですが、この国際女性サミットは問題を絞って、「安全保障の再定義に向けて」というのがテー

マです。G8サミットが言う「軍備や武器による、国家間の安全保障」ではなくて、「武器によらない安全保障」を、民間で、私たちの手でどう創っていくかということ一本に集中した会議でした。斎藤さんはこの会議をどう感じになりましたか？

千 すばらしかったですね。まず着いた晩が前夜祭で、ウェルカムパーティーの雰囲気がとてもステキで、コペンハーゲンの雰囲気を感じ出しました。この会議は「国際会議というのはこのようにあるべきだ」という見本のような感じでした。テーマがシングルの 이슈 シューで、「平和」の問題に絞りこまれていたということもあって、問題を深く深く掘り下げることができた。しかも女性国際会議ですから、基調はフェミニズム。軍隊という暴力装置の下で、女性がどんな暴力を受けるか、どうすれば解決できるかが、くつきりと浮かび上がり、女性戦犯法廷につながる道も、きっちり敷かれました。

韓・英・日の通訳がつき、少人数でしたので、それぞれの立場で全員が発言できて、とてもいいコミュニケーションができたんです。ニューヨークの会議に参加しても、皆さんこれほどの満足感を得られたかどうか……。大枚はた

いてニューヨークに行くのも方法ですが、沖縄にもっと集中して来ていただければと思いました。

会議の成果を、はつきりと「声明」というかたちで世界に広く訴えようと、具体的に集約できたことはすばらしいです。それは「思い」があるからなんです。それぞれの国の代表たちが「ああ、これは私のところも同じ状況だわ」って。責任を問われているアメリカの女性学者も、基本的に軍事力による安全保障は、民衆の安全を保障するものではないではないこと、武器で安全は守れないということ、きちんと論評なさいました。ただ残念だったのは、こんなに内容のある会議がほとんど報道されていないし、ヤマトから行った女性が少なかったことです。

芦（ふえみん）へあごら、あと、松井やよりさんや、日出（ひで）生台（なだ）とか米軍基地のある地域の女性、反基地運動に携わる女性が参加していました。

千 ニューヨークへ行ったような大集団というわけにはいきませんでしたね。この会議のすばらしさについて、もうちよつと私たちもアクティブに宣伝すれば良かったなと反省しました。この会議の内容に関しては、いずれ『あごら』に詳しく掲載する予定です。この会議のあと、私は『あご

ら』の編集があつたので帰ったのですが、芦澤さんは沖縄に残って取材をしてきたので、その話をしてください。

芦 「民衆の安全保障」という国際フォーラムが、六月二十九日から七月二日まで行なわれました。これはタイのNGOと日本の「ピープルズプラン研究所」などのNGOが主催したものです。この会議も意義深いものでしたが、女性中心の会議ではないので、ここでは詳しく話しません。国際女性サミットの前段階での沖縄の状況については、あごら257号『いま、動かなければ沖縄は……』などの特集号を、沖縄の女性の運動を知る意味でも、ぜひお読み下さい。

それから、国際女性サミットのまさに一週間前に朝鮮半島の南北首脳会談が行われましたが、それが女性サミットにも、民衆の安全保障にも、大きく影響していました。

女性サミットでは、海外では韓国からの参加者が一番多かったんです。最初は二、三人ということだったらしいのですが、蓋をあけてみたら二十三人、それも若い人が多かったんです。中には沖縄が気に入ってその後ホームステイしている方もいらつしやいます。南北朝鮮が和平に向かうということ、沖縄の米軍基地がどうなるかということは非

常に密接な関係がありまして、「朝鮮半島の和平が少しでも沖縄の基地の減少につながれば」と期待する方もいますが「そんなにダイレクトにはつながらない」のが実態のようです。韓国では金大中政権になってから米軍基地反対運動が高まっているのは確かなんです、それを政府が容認しているはずはないわけで、反基地闘争に対する非常な弾圧が始まっています。七月十六日に「満月まつり」が沖縄の名護と韓国の梅香里^{メヒャンリ}とヤマトの各地で同時に開かれましたが、梅香里では六人、不当逮捕されました。韓国の米軍反対運動にも、ぜひ注目していただきたいと思っています。

最後に七月二十日、沖縄G8サミット前日の嘉手納基地包囲ですが、新聞でもご存じのように二万七千人集まりました。これは決して少ない数ではありません。名護市民の数が約五万人、その半数に当たる人数が基地包囲に参加したわけです（もちろん基地包囲は名護市民だけの参加ではありません）。これには外国のプレスもたくさん来ていました。沖縄県民の本当の気持ちを世界に発信できたという意味でも、画期的な行動だったと思います。ニューヨークだけではなく、沖縄の運動もぜひ心にとめていただければと思います。千 沖縄の問題は、沖縄という土地に立ち、「基地の中に住

民が住んでいる」ようなひどい状況を、ご自分の目で見なければなかなかわからないと思います。その意味でも、二〇〇五年の世界女性会議は、ぜひとも沖縄で開きたい。高里鈴代さんたちにそのことをお話ししたら「五年あれば開ける。やりましょう」と。（大拍手）

私も、これからの五年を、その準備にかけたいと思います。北京のような大規模な会場でなくていい。コペンハーゲンのような、本当にいいコミュニケーションのできる会議を開きたい。その時、沖縄の基地問題にも、必ず光明が射すと信じます。

準備を手伝って下さる方、お帰りがけにぜひご連絡下さい。お待ちしています。

司会 これからますます盛り上がるところで時間になり、残念です。これをご縁にいつそう交流を深め、二〇〇五年世界NGO沖縄会議を成功させましょう。ではまた、お元気で！（拍手）

（誌面の関係で質疑応答等、割愛しましたことをお詫びします。アンケートにはほとんど全員が「二〇〇五年沖縄会議の実行委員になります」と記入され、とてもうれしく思いました）

ワークショップ in ニューヨーク

山口の女は日本国憲法をどう見るか

What Yamaguchi Women Think About
The Constitution Of Japan

北京+5 グローバル フェミニスト シンポジア山口

荒古悦子／勝又瑞枝／金子瑞穂／栗崎啓子／小柴久子

中川忍子／益田徳子／松藤東明子／吉鶴尚美



後列左から 金子さん、小柴さん、中川さん、ベアテさん、栗崎さん、松藤さん、
吉鶴さん
前列左から 荒古さん、益田さん、勝又さん

はじめに

私たち九名は女性二〇〇〇年会議のNGOとして、六月三日―十日、ニューヨークに行ってきました。国連主催のNGOフォーラムは開かれませんでした、あの多くのNGOが参加し、画期的な内容となった北京会議後五年目の女性二〇〇〇年会議がどのような内容になるのか、世界の女性たちはNGOも含めてどのように動こうとしているのかを知りたい、無関心ではいけない、身近に感じてみたい、国連本部のあるニューヨークってどんなところだろう、ニューヨークの女性たちはどんな生活をしているのだろうか、そのようなさまざまな動機で参加しました。

ちょうど気持ちを同じにする人たちが「北京+5グローバルフェミニストシンポジア」という企画をしましたので、それに参加しました。そこではシンポジウムに参加し、ワークショップも開きました。今回、国連主催のNGOフォーラムは開かれませんでした、日本のNGOは自分たちでNGOフォーラムを作ってしまうだけの力をつけていることを証明しました。そして、きっと北京+10では大きな力を発揮していくことでしょう。

私たちはワークショップを実際に企画するにあたって、どういうテーマで世界の女性たちに発信していくかを考えました。今回「グローバルフェミニストシンポジア」のグループでは北京行動綱領の十二の重大領域に沿ってワークショップを持つことになりました。そこで「女性と紛争」の分野に取り組むことにしました。内容的には大変重いものです。

この分野に取り組むにあたって、私たちは、昨年から話題になっている日本国憲法問題を私たちなりに検証してみる必要性を話し合いました。そして、各自どのように考えているのか、自分の体験などが

ら話し合っていくうちに、「山口の女は日本国憲法をどうみるか」という題名に決まりました。昨年五月にベアテ・シロタ・ゴードンさんを山口に迎えた実行委員のメンバーも多かったので、彼女の話をもう一度聞きたいし、ベアテさんがどのような気持ちで憲法起草に関わったのかは、外国の女性たち、特にアメリカの女性には聞いてもらう価値があると思いました。日本国憲法第九条には、コスタリカ以外の国の憲法にはない武力放棄があります。これは空想に近い問題かもしれませんが、この理想に向かう努力をすべきだという結論に至りました。これを、世界の女性たちに発信していくことを、今回の目的にしました。

武力に頼った平和は、本当の平和ではない。それは民族紛争でも言えるし、日常生活でもいえるのではないのでしょうか。お互いの信頼を築く努力をすれば、武力は要らないのではないかと。

実際のニューヨークでのワークシヨップは、成功とも言えるし、失敗とも言える結果になりました。とにかく発信だけはできました。アメリカの女性の参加がなかったのは残念でしたが、参加された日本人の方々には、国内に持ち帰って頂けたのではないのでしょうか。

参加された方、参加できなかった方々のために、参考になればと願ってテープ起こしをしました。

ベアテ・シロタ・ゴードンさんをはじめとして、ワークシヨップに至るまで資料提供して下さいました方々、ワークシヨップでお世話になった方々、また、ご助力くださいました斎藤千代さんに、感謝申し上げます。

二〇〇〇年八月

北京十5グローバルフェミニストシンポジア山口 一同

ワークシヨップ「女性と紛争」

山口の女は日本国憲法をどう見るか

二〇〇〇年六月六日 一五時〜一七時三〇分 ニューヨーク市立大学大学院C-202

司会（小柴久子）本日、ニューヨーク市立大学大学院でワークシヨップを開くことができますことを、大変光栄に思います。私たちはアメリカの女性たちと「平和」について交流することを目的に来ました。ところが、運がいいというか、悪いというか、今日お集まり頂いた方は日本女性ばかりですので、急遽、昨晩まで練習していた英語をやめて日本語にすることになりました。急にリラックスしています（笑）。私たちはこのシンポジウムに参加するために山口県内から応募し、この九人でどのようなワークシヨップをするか相談しました。

今、日本では女性たちの権利が少しずつ認められるよう、法の整備も進んできました。しかし、このように女性たちが権利を主張でき、安心して暮らせるのも平和であるが故です。多くの日本人は戦争はしたくないと思っています。あの第二次世界大戦でこりこりしています。第二次世界大戦終結後、日本は、戦争へ突入した反省のもとに日本国憲法を制定し、武装放棄してきました。しかし、実際には自衛隊があり、武装への道をすすむのではないかと、危惧する声もあがっています。昨年、ベアテ・シロタ・ゴードンさんを山口に迎えて、憲法制定の際のご努力を伺いました。ここで、私たちは日本国憲法を改

めて認識しました。

今回は、紛争解決のでだてということで、武力放棄、日本国憲法をアピールしたいという思いで、このワークショップを開くことにしました。

本日のワークショップの運営メンバーをご紹介します。

勝又瑞枝（本郷村）、栗崎啓子（徳山市）、吉鶴尚美（新南陽市）、中川忍子（山口市）、益田徳子（小郡町）、荒古悦子・小柴久子（宇部市）金子瑞穂・松藤東明子（下関市）の九人です。司会進行を小柴久子が担当いたします。

本日の進行ですが、まず、前半の第一部で、日本国憲法制定に深く関わられましたベアテ・シロタ・ゴードンさんに、中川忍子が質問するというかたちで、憲法制定前後のお話を伺いながら、日本国憲法誕生のご理解をいただきたいと思います。そして、後半の第二部で、憲法第九条の論議を深めて参りたいと思います。ベアテ・シロタ・ゴードンさんのプロフィールは、松藤東明子から紹介します。

第一部 日本国憲法制定前後の事情

——ベアテ・シロタ・ゴードンさんに聞く ききて 中川忍子

ベアテ・シロタ・ゴードンさんのプロフィール 紹介 松藤東明子

一九三三年、リストの再来と謳われましたロシアのピアニスト、レオ・シロタのひとり娘としてウィーンに生まれる。五歳の時、父の東京音楽学校（現在の東京芸術大学）赴任に伴い、来日以来十年間の少

女時代を日本ですごした後、一九三九年留学のため単身渡米。大学卒業後、戦争情報局やタイム誌で働く。米国で終戦を迎え、一九四五年G・H・Q民生局のスタッフとして再来日。民生局では政治問題担当の調査専門官となる。日本国憲法起草の際には、人権に関する小委員会に所属。そして、男女平等に関する条文を起草。ベアテさんのご健闘は憲法第十四条、二十四条として結実。二〇〇〇年五月二日、参議院憲法調査会において参考人として新憲法制定当時の詳細を証言されました。

(ベアテ・シロタ・ゴードンさん登場 拍手)

ベアテさんの発想の基本と憲法草案作成の実情

ベアテ・シロタ・ゴードンさんは五歳で日本に來られましたが、日本でのご両親の教育方針や、お育ちになった背景についてお話しください。

(ベアテさん) 皆様方が私を呼んで下さったことを光榮に思います。ありがとうございます。

私は、五歳半のときに、オーストリアのウィーンから東京へきました。父がピアニストとして演奏するために六か月だけのつもりでしたが、父はその後十六年間、日本で活動しました。

私は、神戸に着いた時に、それまでアジア人というものを見たことがなかったので、みんなが真っ黒な髪で黒い眼なので、私は母に「みんな兄弟ですか」と尋ねました。私が馬鹿なことを尋ねたので、母はどうしても日本の社会の中に入れたいと思ったのでしょう。最初から隣の子どもや家族に紹介してくれて、小さい時からずっと日本の方といっしょになつて育ちました。



それは、父母が進歩的だったからです。その頃、ドイツクラブ、フランスクラブ、イギリスクラブ、アメリカクラブなどがあり、西洋人はクラブに入っていましたから、その子どもは日本語はほとんど喋りませんでした。しかし、父によると、私は三か月で日本語を喋ったそうです。子どもの会話ですから、そう難しくもなかったのですが、最初から日本人の社会に入っていたので、他の西洋人の子どもよりは、日本のことがよくわかったと思います。

母は日本の女性に大変興味を持っていましたから、いろんな日本の女性が家に来ていました。ヨーロッパから帰った日本の女性は「ヨーロッパでは女性の地位が高い。日本の女性と較べれば西洋の女性は自由を持っている」ということをずいぶん母に話していました。六十年前のことですが、私は子どもでありながら大人と一緒にいることが多く、お客さんが来た時も母と一緒にいましたから、そういうことが耳に入り、日本の女性の状態が心に残ったのだと思います。

また、家庭教師のエストニア人も日本の女性のことを勉強していました。私にもいろんなことを教えてくれました。お手伝いさんの美代さんも自分のことを話してくれ、自分の村にも連れて

行ってくれたので、日本の女性のことが分かりました。

私の家庭では何でも習わなければなりませんでした。母は「女性は特別に経済的に独立しなければならぬ。経済的独立があれば何でもできる。経済的に独立するためには、一生懸命に勉強して職業にかなければならぬ」と言いました。ヨーロッパでは第一次大戦後、インフレがありました。母によるとピアノを売ったとき、次の日には、インフレで、そのお金でパン一つしか買えなかったという経験をしたそうです。それで、母はお金というものに価値をおきませんでした。「お金というものは出たり入ったりするが、頭に入っているものはいつまでも残る。それが教育であり、教育というものをとても大事にしなければならぬ」ということだったのです。だから与えられた教育カリキュラムは、全部習わなければなりませんでした。オーストリアではドイツ語を喋っていましたから、大森にあったドイツ学校に行き、厳しい教育を受けました。十二歳までその学校に行き、フランス語、英語、ラテン語も習いました。そして速記も習いました。家庭では家庭教師について、フランス語、ロシア語も習いました。そのほかに、ピアノはピアニストになるということではなく、教育として習いました。好きなものはダンスだったので、バレエもモダンダンスも、そして日本舞踊も習いました。日本舞踊はあまりに難しかったのでやめました。私も自分の子どもにいい教育を与えました。何でも。

「両親のもとでいい教育をお受けになったということですが、単身アメリカに渡られて大学に入学された当時のアメリカの女性の状況、学校の状況をお話しいただけるでしょうか。」

私は、十五歳半で日本から離れてミルズ・カレッジというサンフランシスコの近くのオークランドの大学に入りました。それは女子大でした。当時フェミニズムというものはなかったのですけれど、プレ・

フェミニズムでしたね。ミルズ・カレッジの校長は女性で、女性ということはまだ珍しいことでしたが、大学の先生たちも、独立していて強い女性でした。彼女らは私にいろいろな影響を与えました。

第二次世界大戦が始まって、男性が戦場にいましたから、女性は様々な仕事につきました。戦前のアメリカの女性は外に働きにいかずに家にいましたから、台所から出て社会の中で働くことができる、このことは大喜びでした。というのは、自分で仕事を見つけ、お金を儲けることができる。誰にも制約されずにお金を使うことができるからです。その時、私は十六、七歳でした。母がよく言っていた「経済的自由があると、ほかの自由も手に入れられる」ということがよくわかりました。しかし、仕事内容では女性はまだ差別されていました。

例えば、私はニューヨークでタイム誌に勤めましたが、女性にはリサーチ（調査・取材）だけが許されていました。私たち女性は、記事を書くことは許されなかったのです。同僚の女性は大変有能でしたが、なぜ、この女性たちが記事を書くことができなかったのか不思議でした。そういう規則でした。そういう女性たちが、私にすごく影響を与えてくれました。その女性たちは、ヨーロッパから来た移民で、タイム誌はリサーチをするためにそういう女性を雇っていました。フランス、ドイツ、オーストリアなどから来た女性はヨーロッパでいい教育を受けていましたので、当時のアメリカの女性よりも地位は高かったと思います。そういう女性が一番若かった私にいろんなことを教えてくれました。彼女たちは、アメリカはひどい男性社会だと言っていました。タイム誌では自分の経験から分かりましたが、他の工場でも本当にいい仕事は女性には与えられず、給料が男性より低いということを教えてくれました。

再度日本に來られて、日本国憲法の草案にあたられるわけですが、その時の女性の権利と、教育の問題を担当

されたところをお話してください。

私が終戦後すぐに日本に帰ってきたのは、父母に逢いたかったからです。父母は戦争中、ずっと日本にいたのです。だからできるだけ早く、日本に帰ってきたのです。しかし、普通のアメリカ人は日本に行けなかったのです。占領軍の軍属として行くより方法がなかったのです。そういう仕事を探して雇ってもらいました。直ぐに雇ってもらえたのは、私が日本語を喋ることができたのと、日本に住んだことがあるからです。その時に、日本語がわかる人は全米に六十人だけだったのです。だから、私のようなものは珍しかったので、すぐに雇われました。

日本に着いて、父母を探して軽井沢に行き、第一生命ビルにあった総司令部の民政局に勤めました。一か月だけ女性の政治運動と小政党について、いろんなリサーチをしました。その当時、小さい政党がたくさんあり、五人や十人で政党を作ったりしていましたから、百ぐらいあったと思います。

一か月後、一九四六年二月四日の朝十時に民政局部長ホイットニー準将が私たちを呼んで次のことを発表しました。

「あなたたちは、今日から憲法草案制定会議のメンバーになりました。これは極秘です。あなたたちは、マッカーサー元帥の命令で新しい日本の憲法の草案を作るのが任務です」

これを聴いたのは二十人ぐらいだったんです。そういう仕事が出てくることは想像していなかったのです。私たちは随分びっくりしました。その発表が終わったあと、ケーディス大佐が憲法草案の仕事を振り分けました。人権に関する草案は三人に与えられました。男性二人と女性一人。その女性は、私だったのです。「なぜ、あなたが選ばれたのか」と、よく聞かれますが、ちょうどそこにいたから選ばれたのです。その三人で人権に関する草案を作ることが任務だったから、その三人で相談したら、二人の男性

が私を見て「あなたは女性ですから、女性の権利を書けばいい」。私は、「もちろん、そうしたい」と。私はもう一つしたいことがありました。その時二十二歳でした。二人の男性に言ったんです。「女性の権利はもちろん書きたいですけども、学問の自由についても書きたい」。大学を出たばかりですから、生意気だったんです。

「いいですよ」というわけで、女性の権利と学問の自由を書くことになりました。

私はタイム誌に勤めていて、リサーチを訓練されていました。最初、憲法を書くにはどうしたらいいか、何か参考になるものはないかと思ひ、すぐに図書館に行くことにしました。その時の東京は破壊されていまして、ジープに乗って日本人に案内されて、一か所の図書館ではまずいと思ひ、三か所ぐらいを廻りました。どこをどう行つたのかわかりません。確かにありました。何語で書いてあつたかと、よく聴かれるのですが、覚えていません。私はその時にフランス語、ドイツ語、英語、ロシア語、スペイン語、日本語を知っていましたので、五十年前のことですから忘れました。図書館がどこにあつたかも忘れました。

とにかく、その本全部を司令部に持つて帰つたら、みんながそれを見たりしました。運営委員会の三人はみんな弁護士でしたが、他の人たちは憲法を書いたことはなく、私たちのメンバーは弁護士は少なく、大学の先生や政府に勤めていた人でした。みんな憲法についての専門家ではなかつたのです。だからみんな喜んで、朝から晩までそれを読みました。

欧州の憲法にずいぶん女性のことが書いてあつたのです。みなさまご承知のように、アメリカの憲法には女性という言葉は入っていません。欧州の憲法をみたら、基本的な自由だけではなくて、いろんな社会福祉のことなどの権利などが書いてあつたのです。ドイツのワイマル憲法にも、ソ連の憲法にも、

スカンジナビアの憲法にも、いろんな女性の権利が書いてあったのです。私はそれをよく読んで、どういう権利が日本の女性のために必要であるかと。また、日本に十年いた間に自分の見た経験から権利について随分考えました。当時の日本の女性は全然権利を持っていなかったから、私はできるだけいろんな権利を憲法の中に入れたかったです。私が詳しく、強く入れたかったわけは、憲法にちゃんと書いてなければ、民法を書く官僚的な男性が民法に書かないと思ったからです。できるだけ皆さんの権利が憲法の中に入れば、官僚的な男性がどうしてもそれを民法にも入れなければならないと思ったのです。

どうして官僚的な男性のことが私の頭に入っていたかというと、私は若かったのですが、官僚的な男性ということについてはちよつと詳しかったのです。というのは、父母は日本語をしゃべれなかったのです、私が父母の通訳だったのです。父母に何かあった時、警察や何かに行かなければならない時は、私がいつも行って通訳したのです。だから、官僚的な考え方を自分の目で見て、自分の耳で聴いていたから、そういう人たちはきつと民法に女性のことを書いてくれないと思ったのです。

しかし、これがすごい議論になったのです。草案にいろんなことを書いていたら、草案担当の二人の男性は「とてもいい!」と言いました。一人の男性は、アメリカのWAC (Women's Army Corps) というアメリカの軍隊) に入っていた女性と結婚していたのです。当時男性は、軍隊に入った女性と結婚したくなかったので、そういう女性と結婚するのも進歩的だったのです。もう一人は女性が大好きな男性だったのです。だから私が何を書いてもいいと言ったのです(笑)。

私は、喜んで書いた草案を運営委員会に見せたのです。運営委員会に見せたら、大変な議論が出たのです。みんなアメリカの憲法を基本にする弁護士です。アメリカの憲法をよく知っていたのですが、西洋の憲法については、何も知らなかったのです。だから、アメリカの憲法にはそういう詳しいものは無い

てないのです。その三人は、「基本的な自由、権利、それは憲法に合う。あなたの書いた内容はすごいですが、憲法には合わない。基本的な権利だけを入れて、他の社会福祉の権利は民法に入れなければならない」と言いました。私は官僚的な男性の話をして、「これを憲法に入れないと民法には入らない」と言ったのです。そのことを運営委員会の人たちに詳しく説明したのですけれども、どうしてもわかってくれなかったのです。その人たちが悪いということではなくて、本当にアメリカの立場から見て、「憲法」というものは、大きい権利だけを入れるべきだ。それを入れるだけでいい」と言ったんです。私はとても感情的になって、泣いちゃったんです。軍人だけの間で泣いて、とてもきまりが悪かったです。三人にとつて、私の態度は何か印象を与えたようです。三年前運営委員会の会長のケーデイス大佐に聞いたのですが、「あなたの書いた社会福祉の権利をすぐにカットすることをその時に決めないで、その前にホイットニー準将と相談して決めたのです」ということでした。ホイットニー準将も弁護士で、アメリカの憲法から出て来た人だったから、その方も「憲法に合わない」と言われました。社会福祉の権利は民法のことになると決めたのです。

だから、私の書いた草案は随分縮められました。草案に書いたものは十四条、二十四条に残ったのですが、私の書いたものは二ページぐらいあります。私は最も基本的な権利が入ったということで満足しなければならなかったのです。しかし、私がここで説明したのは、残った二十四条についてはもっと強く書いたということです。今の二十四条と較べて下さい。わたしが書いたのは、「家庭は人類社会の基礎であり、その伝統は、善きにつけ、悪しきにつけ、国全体に浸透する。それ故、結婚と家庭とは法の保護を受ける。結婚と家庭とは、両性が法律的にも社会的にも平等であるとの考えに基礎を置き、親の強制ではなく、相互の合意に基づき、かつ男性の支配ではなく両性の協力に基づくべきことを、ここに定め

る。これらの原理に反する法律は廃止され、それに代わって、配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚ならびに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない」ということです。

「相互の合意に基づき、かつ男性の支配ではなく、親の強制ではなく」をカットしたのは、運営委員会だとずっと思っていたのですが、最近わかったのですが、実は日本の政府だったのです。それは知らなかったのです。私が書いたのは、「教育のこと、私生児（婚外子）のこと、財産のこと、養子のこと、妊婦と幼児を持つ母親は国から補助されること」など。詳しいことは柏書房から出した『一九四五のクリスマス』という本に書いてあります。そういうことが全部カットされたのですね。

いま、日本の女性に会うと、「あれがねえ、憲法にちゃんとあれば、民法を書く男性たちもちゃんと書かなければならなかったのにねえ」とよく言われます。残念ながら、書かれなかったのです。

すばらしいご努力によって日本国憲法が書かれたわけですね。敗戦は私が小学校に入った時でした。この世の中は、男と女は平等であるという意識で過こし、女性も仕事をもってやっていくというのが私の生きかたとなりました。こういう私の意識を作っていたいたということ、ベアテさんに出会ったときにものすごい感激をいたしました。ベアテさんは、この五十年間、日本の女性をどう見てこられましたか。

私の目でみれば、日本の女性はすごく進歩したと思います。私が子どもの頃には、女性が男性の後ろを歩いて、自分の家の中で食事を作り、お給仕していました。女性は夫が友達と家に帰ると、食事のもてなしはしますが、会話に参加しないで、子どもと一緒に台所で食事をとっていました。そういうことは今はあまりないでしょう。私はいろんな女性の実行委員会などを見て、そう思うのですが、どうですか。

とにかく、五十年前と大きく変わっていると思います。でも、あなたたちは満足していないと思います。多分家族の中ではないんなむずかしいことがあると思います。習慣というものは、あまり早く変わらないうです。五十年は長いと思われるでしょうが、歴史的にみれば全然長くないです。五十年でパツと変わることは不可能と思います。

しかし、随分変わったということは感じています。女性は今、自信をもっていると思います。東京、大阪を歩いてみても、随分自信を持って歩いています。女性も大学に行つて教育を受けています。もちろん以前も大学に行つていましたが、今は女性が随分海外に出て教育を受けたり、いろんな仕事をしています。ファッション・デザイナーのハナエ・モリのような人は以前にはなかったのです。講談社の社長野間さん、すごいエンパイアーです。郡山の千七百のベッドを持つ病院の太田翠子さんは八十三歳で経営しているのですよ。また、メディアでは新聞記者にも随分女性が増えたでしょう。ドキュメンタリー・フィルムを作るなど、いろんな女性がいます。そういう立場からみれば随分進歩したと思います。会社の中ではまだ大変だと思えます。まだ会社でお茶汲みがあつたり……。この間パリで飛行機を待つていたときに、アメリカ人の女性のエンジニアと話をしました。彼女はよく日本に行くそうです。男性のエンジニアの中に一人の日本の女性のエンジニアがいたのですが、その人が一番よかったそうです。ところが、食事になると、その女性が男性に食事を持つていくのだそうです。私はそのことを聞いて、びっくりしました。このアメリカ人がすごくびっくりして、「私、手伝います」と言うと、「いいええ、それは必要ないです。これは習慣です」

それを聞いて私もびっくりしました。この方はちゃんと職業を持つているにもかかわらず、女性の役割をやっている。こういうことはあると思います。しかし、これも変わると 생각합니다。そして、早く変

わると思います。インターネットがあつて、世界に発信して、世界が小さくなつて、他の国の女性の状態もみんなわかるから、だんだん早く進歩して、あと十年でみんなが満足すると思います。

日本の女性が進歩したと言いましたが、まだ女性が選挙できない国もあります。議員に出られない国もあります。全然権利を持つていない国もあります。そういう人たちに日本の女性たちは進歩を伝えなければならぬと思います。これに関して、忘れられないことがあります。市川房枝先生、八十六歳の時に先生の通訳をした時「先生、今から何をなさいますか」と尋ねたら、「あした、イラクに行く」とおっしゃいました。何故かと尋ねたら、「イラクの女性に投票することを教えなければならぬ。女性が投票できないから、投票することについて講演をしなければならぬ」とおっしゃいました。八十六歳ですよ。そして、行きました。帰国後一年でお亡くなりになりました。そういうことを日本の女性はしなければならぬ。あなたたちは若いから、長くそういうことができるから幸せです。女性の問題というのは、全世界の女性の問題です。日本の女性だけの問題ではありません。

アメリカの女性は八十年前に投票権をもらいました。あなたたちは五十年前ですね。アメリカにはデモクラシーは前からありましたが、今でもまだ差別されています。男性に一ドル支払うとき、女性には八〇セントですよ、日本よりはいいですが。アメリカは八十年前からやっていて、アメリカにはデモクラシーがあるのにですよ。日本には古い習慣があるにもかかわらず、日本の女性はすごく進歩しました。まだ、自分たちは満足していないと思いますが、他の国の人たちと較べれば、ホントによく進歩しました。日本の女性はちゃんと動いていると思います。

では最後の質問として、五月二日の参議院憲法調査会の参考人としてご意見を述べられましたが、その時に述

べられた意見を、再度、私たちに直接お話しただきたいと思っています。

参議院であのような席は初めてでした。今日、この会場にもおられる森木さんが来てくれました。心強かったです。二百から二百五十人の傍聴があり、参議院議員は二十五人か三十人くらいでした。傍聴の人たちが私をサポートしてくれました。参議院議員は五人ぐらいいだけ私のことを喜んだと思います。

時間がないので、私が一番最後に言ったことだけあなた方に読みたいのです。その時に言ったのは、憲法をどういうふうに書いたか、極秘のことなど、全部話しました。参議院憲法調査会での原稿を読みます。

ある方は、この憲法は外から来た憲法であるから改正されなければならないと言います。日本は歴史的にいろんな国から、ずっと昔から、よいものを日本へ輸入しました。漢字、仏教、陶器、舞楽など、他の国からインポートしました。それを自分のものにしました。だから、他の国から憲法を受けても、それはいい憲法であれば、いいではないですか。若い人が書いたか（日本の保守的な学者と新聞記者が私が二十二歳で書いたことを非難していましたから付け加えました）、歳をとった人が書いたか、誰がそれを書いたかということは、本当は意味のないことでしよう。いい憲法だったならば、それを守るべきではないですか。この憲法は五十年以上もちました。それは世界で初めてです。今までは、どんな憲法でも、四十年の間に改正されました。私は、この憲法が世界のモデルとなるような憲法であるから、改正されなかったと思います。日本はこのすばらしい憲法を他の国々に教えなければならぬと思います。平和を他の国々に教えなければならぬと私は思います。他の国々がそれを真似すればよいと思います。一九九九年五月十五日にオランダのハーグに「ハーグの二十一世紀の正義と平和のためのアジェンダ」が国連の事務総長コフィ・アナンとオランダの市長ウィルコクと他の国々の代表者に渡されました。その重点のアジェンダの中で最初に出る点は次のことです。

『世界のそれぞれの議会は日本の憲法の九条と同様に、政府が戦争に参加することを廃止しなければならない、という条文を採択すべきである』そういう強い言葉ができました。今の世界の状況をみれば、平和はありません。小さな戦争がいっぱいあるので、だんだん人種と信条のための戦いが激しくなっています。他の国々も日本みたいに戦争を放棄すれば、将来みなさまが平和的に暮らすことができると思います。

日本の女性是最初から、一九五二年から、平和憲法を守りたかったのです。それは私は前に参議院議員であつた市川房枝先生に教えてもらいました。何故だかわかりませんが、女性の方が男性より平和的であると思います。だから、日本の女性の声を聞かなければならないと思います。私は、日本の女性をすごく尊敬しています。日本の女性は賢いです。日本の女性をよく働きます。日本の女性の心と精神は強いです。

私は、専門家ではありません。私はシロタと申しますけれども、シロウトです(笑)。私はお母さんであり、おばあさんです。だから、私は子どもと孫の将来について心配しています。平和がないと安心して生活ができないと思います。私は外人ですから、みなさま日本人は私の声を聞かなくてもいいと思います。私は日本で投票できません。しかし、日本の女性の声を聞いて頂きたいのです。私の耳に入っているのは、日本の女性の体質がこの憲法がいい、日本に合っている、と思っていることです。

日本の憲法のお蔭で、日本の経済がすごく進歩しました。武器にお金を使わないで、そのお金をテクノロジー、教育、建築などのために使つて、日本が世界の中で重要なパワーになりました。隣のアジアの国々も日本について、安全な気持ちを持っています。日本の女性はそれをよくわかっています。

だから、私は一つのお願ひがあります。「日本の女性の声を聞いて下さい」。(拍手)

司会　ゴードンさん、中川さん、どうもありがとうございます。日本国憲法がどういいうきさつでどのような思いでつくられたのか、おわかりいただけだと思います。

第二部　日本国憲法と武力について考える

司会　では、第二部として、私たちは武力についてどのように考えるのかを山口県の現状からお話ししましょう。まずは山口県についての地理的な説明からします。私たちは当初アメリカの女性を対象に考えていましたので、資料と大きく異なりますが、お許しください。益田徳子が説明します。

米軍海兵隊基地と四か所の自衛隊基地を持つ山口　益田徳子

私たちは山口県から来ました。山口県は本州の西南端にありまして、大きな町は、西から下関、宇部、山口、防府、徳山、岩国と瀬戸内海側にあります。私たち九名は全県からやってきました。

特に今回訴えたかったのは、山口県に自衛隊が四か所あることです。下関海上自衛隊、小月航空自衛隊、山口陸上自衛隊、岩国航空自衛隊があり、防府航空自衛隊学校もあり、岩国にはアメリカ軍の海兵隊の航空基地があります。

あらためて山口県の中に、こんなにも軍事に関する基地があることに驚きました。

司会 一九四五年に第二次大戦が終わりました。日本では沖縄が戦場となり、悲惨な最期を迎えた人たちが大勢います。そして、未だ基地の問題は解決されていません。また、広島・長崎は原子爆弾が投下され、多くの人が放射能の後遺症で苦しみました。

比較的戦争の被害の少なかったといわれる山口県でも、探してみるといろいろな問題があります。きつと、皆様がたのところでも同じような問題があるのではないかと思います。瀬戸内海側というのは、軍事に関する工場がたくさんありましたから、大きな町はほとんど空襲を受けています。住民は知らなくても米軍の方はかえってよく知っていて、空襲を行なっています。また、山口県は広島の隣として被爆した人はたくさんいます。私たちのメンバーにも被爆関係者、夫が被爆二世という人もいます。この会場のなかにも、被爆された方もいらつしやるのではないかと思います。

徳山市でも二度の空襲がありました。当時十一歳だったので、当時の状況をよく覚えている栗崎啓子が語ります。

戦時下、二度の空襲を受けた徳山市 栗崎啓子

私は戦争という感覚はなく、これが当たり前という生活をしていました。だからちようちん行列に行ったり、兄がりんご箱の上に立ち出征兵士として「ばんざい。ばんざい」をやったりは当たり前でした。私の住んでいる徳山市には海軍燃料廠がありましたので、一九四五年に二度空襲がありました。私はこの時、国民学校（今の小学校）の五年生でした。写真にもありますように、徳山市は全部やられました。この写真は日本が撮った写真ではなく、全部アメリカ軍が撮った写真を徳山市が購入したものです。

五月には昼間に空襲がありまして、真つ昼間というのに、空がまっ黒の闇におおわれてしまいました。なぜ、真つ暗になったかということは、大きくなってからわかったのですけれども、その時私たちは防空壕は持っていないでしたので、町内会の防空壕に行きました。私は、兄弟八人おりまして、下に一歳、四歳とおりました。母は店の守りをし、父は市役所の戸籍係でしたので、その守りに行きましたので、下の弟と妹の手を引っぱって防空壕にもぐり込んで、解除になると引っぱって帰っていました。家に帰ると母にひどく怒られました。というのは、大人になって考えると大変危険な状態だったということだったのが今になってわかります。

海軍燃料廠が焼けて、小学校五年生でしたが、一駅越えて爆弾の穴を埋めに毎日いきました。勉強というのは、鋤をもって運動場を耕してさつまいもを植えることで、成績表はさつまいもの苗がまっすぐに植えてあったら優でした。林には炭俵を持っていき、それに落ち葉を入れて持って帰って運動場に積んで肥料にしました。なんでこんなことをしなくちゃならないの、という思いはちよつとありました。七月二十七日、徳山市街が空襲で燃えました。アメリカの方はとても頭がよく、市街の外から爆弾を落として、だんだん中にむかって落としていきました。

何時でも夜空襲があれば探照灯という赤い光がシャーと流れるのを見て起きていたのですが、毎日毎日なので、疲れてその日は、蚊帳の中に入って寝ていましたら、母や姉が「火が出た」と叫ぶ声で、私は蚊帳の中を手さぐりで妹を探したのを今でもはつきりと覚えています。妹はいませんでしたから、外に出て、家の庭に掘られていた防空壕に入りました。ものすごい音がしていたのです。叔母がひよいと出て行って、母に連れ戻された時は怪我をしていました。爆風でやられたそうです。一面火の海となり、母の大声で防空壕を出て、あたり一面まっ昼間のような世界に大布団一枚の中に五人入りまして、母の

命令であっちへ行ったり、こっちへ行ったりして家の裏の二百坪ぐらゐのキャベツ畠を右往左往しまして、最終的に牛が二頭いるのを見て、ここなら大丈夫とおちついた時は朝でした。疲れはてた妹と弟をトタン板の上になにかを掛けて寝かせていました。そこを通る人たちが、「こんな小さな子が死んだか。かわいそうにのう。南無阿弥陀仏」と言つて通つて行きました。

私たちがいたすぐそばの溝には人が死んでいますし、朝、ほつとする間もなく、再びBが折り返してくるということで、山を越え、村までいきました。気がついたら、右足と左足は違う下駄をはいていました。途中、馬が死んでいたりしました。その側を鼻をつまんで通つたので、息が苦しかったのを覚えていいます。食べ物はありません。知りあひの田舎の家に部屋を借りて一時落ち着きました。

それから、防空壕に埋もれた叔母の救出作業がはじまりましたが、三日目に姉がボケツトに叔母の手の骨を入れて帰つて見せました。それはショックというか、異様でした。そういうことがあつて学校が始まつて、いろんな人から寄せられた茶碗やお砂糖などをもらいました。教室も川の中の木陰で勉強をしたりという状態でした。

戦争が終わつたと聞いた時、幼いながら眠れぬ毎日に、「ゆつくり眠られる」ということの喜びが大きかったことは、今も忘れません。

私の家は四つ角で雑貨店を開いており、軍服の若い男の人が練炭火鉢の前に座つて、ぼそうつとしていました。この人、なんているのかなあ、と思つていました。ずいぶんあとでわかったことは、私の町の沖にある大津島は回天の特攻隊の基地があつて、そこから出撃した特攻隊の人たちだったのです。彼らは出撃したら二度と帰ってくることはありませんでした。

五十年たった今でもよく覚えています。一番せんない思いをするのは、子どもであり、女です。私は

全く戦争は嫌いです。日本国憲法ができて、戦争をもう日本はしないんだということを知った時は、もうあんなせんないことをせんで済むという気持ちがあったのをよく覚えています。

※回天 一人乗りの魚雷のようなものに特攻隊の若い青年がのって、敵の軍艦に体当たりした。出撃した青年将校は二度と帰ってくることはなかった。その基地が徳山市沖の大津島にあった。今も記念館として残っている。

司会 一九四五年八月六日、九日に広島、長崎に原爆が落とされましたが、山口県には広島隣の県ということもあって、被爆した人がたくさんいます。広島県で育った荒古悦子が、被爆を語ります。

広島原爆の記憶 荒古悦子

私の生まれた所はあの被爆地広島から五十キロメートルはなれた静かな田舎町の竹原市です。

私の幼なじみの荒川道雄ちゃんと和雄ちゃんはお父さんが国鉄マンでした。彼らの家は私の家のすぐそばでしたから、朝、お父さんの足音が聞こえて起きるというぐらいの距離でした。お父さんは朝早く仕事にでかけていました。私が初めて出会った葬式は彼のお父さんのものでした。小学校二年生だったと思います。死因は胃ガンでした。棺桶を見て、人はこういうふう死んでいくものだと思いました。

道雄ちゃんは私と同級で、和雄ちゃんは私の弟と同級でした。ラジオ体操を道雄ちゃんの家でしましたし、そこは遊び場でもありました。鉄棒やブランコや木登りのできる木もありました。児童会では道雄ちゃんが会長で私が副会長でした。頭もよく、習字や絵も上手でした。道雄ちゃんが呉の工業高等専門学校に受かって喜んでいたら「二十歳で道雄ちゃんが白血病で死んだのよ」と聞いて、体が弱く、お

父さんも早く死んだしなあ、ぐらいにしか思っていないませんでした。それからずいぶん経って、和雄ちゃんが三十四歳で死んだ時はショックでした。私は三人の子どもがいて、和雄ちゃんも結婚して子どもがいました。それなのに死んだというのがショックでした。なぜ、和雄ちゃんは死ななければいけないかったんだ。原因は道雄ちゃんと同じ白血病でした。お父さんが広島の国鉄時代、原爆にあっていたのです。原爆投下から四十年も経っているというのに、それが原因で亡くなったのです。私を含めて多くの人が、原爆のことを忘れかけている時に、改めて、原爆のおそろしさを知りました。そういうことで、平和は大事です。ベアテさんが言われたことも伝わるし、みんなで憲法のことを真剣に考えていかなければならないと思います。

日本の女性も政治に参画して、もっと声を大にして「憲法を変えないで!」と言っていく責任があるのではないかと思います。結果が出てからでは遅いですし、結果が出て元に戻すのにどれだけ時間がかかるか、と考える必要はないと思うのです。私も和雄ちゃんが死ぬまで原爆がこんなにも影響があるということを身近に感じませんでした。このような例はいっぱいあるんです。私も今まではそう深くは感じなかったのですが、和雄ちゃんの死はすごくショックでした。平和に慣れていて当たり前になっていたのと、戦争の犠牲者がこんなにいたんだということを忘れていたと思うのです。忘れてはいけないと言ふ時がきていると思います。

ついこの間、核拡散防止条約が国連で採択されました。この条約の加盟国はできるだけ早く批准されるように熱望していました。私は、世界中のすべての人が平和であることを望んでいます。

司会 核拡散防止条約は国連で採択されましたが、アメリカは加盟国になっていません。現在の核の威

力は広島、長崎の原爆の類ではなく、百倍ぐらゐの威力を持つてゐるということで、核の問題は日本でも訴えていく必要があると思います。

沖縄では普天間基地の移転問題がありますが、山口県では岩国の米軍基地の拡張問題があります。私たちも、同じ県なんです、日本の国内では大きな問題になりきれていないし、同じ県内の問題としてなかなか手を繋いでいけません。しかし、岩国で頑張っている人にリサーチしまして、この問題はいへんな問題だということがよく分かりました。そのことについて勝又瑞枝が報告します。

拡張を続ける米軍岩国基地 勝又瑞枝

私は一九四四（昭和十九）年に台湾で生まれまして、終戦で小倉に引き揚げてきました。原爆は本当は小倉を狙ったらしいのですが、その時、雲があつたとかで、長崎に落としました。私は生まれた時から運がよくて、本当だとちようど帰つて来たころ原爆にやられていたんですけれども、お陰様で会わないで済みました。親たちは長崎出身でしたので、原爆が落ちた後の長崎に行つて長いこと暮らしました。その後、一九八五（昭和六十）年に山口県の山奥の本郷村に入村しました。

私にとって一番近い町が岩国です。仲間と岩国に見学に行きまして、初めて岩国の現状というのを知りました。岩国基地は拡張工事をやっております、山を崩して海を埋め立てて一・四倍の広さにするということです。最初の約束は、広げた分だけ沖合に移動して残った所は岩国市に返すという話だったらしいんですが、返還しないまま拡張ということになりました。そこへ、沖縄の普天間からいろんなものが引越して来る、ということは、この基地が充実してくるわけです。日本で一番りっぱな基地がで

きそうだという感じですが。その分、沖縄が楽になるなら、しかたがないのかもしれませんが。(会場より、「沖縄は楽にはならない。沖縄の基地が軽減されないまま、日本の基地も重厚になっていく」という声あり) 岩国基地には四千六百人の米兵、その他従業員、家族がいます。特に米兵の犯罪ということで調べてみました。以前は強姦殺人などいろいろありましたが、最近は基地の中の教育も徹底して、治安はずいぶんよくなっております。一九八五年から一九九五年までの十年間の刑法犯、逮捕書類送検された人は九十九人、殺人・暴行・強盗の凶悪犯は十二人となっています。最近では、〈米兵の犯罪を許さない会〉などができまして、市民が監視していますので、幸い大きな事件は起きておりません。

しかし、基地が存続する間は、事故や騒音、人身などの危険や不安はこの上なくあります。だからこの世に基地があるということが問題だと思えます。岩国基地がなくなればいい、という問題ではなくて、地球上のすべての基地がなくならないと安心できない、と思えます。夢のようですけれども、「地球上のすべての基地をなくそう」とアピールさせて頂きたいと思えます。

司会 それでは、もう一点、私たちの意見としまして、日本国憲法について吉鶴尚美が発表します。

日本国憲法を考える 吉鶴尚美

私たち日本人は日本国憲法についてよく知っていますけれども、この憲法はいい条文を含んでいるので、世界中の人に、特にアメリカの人に知ってもらいたいという思いで一生懸命英語を勉強してきたのですが、それが今回役に立たなくて、とても残念に思います。

今まで先の人たちが述べてきましたように、戦争というものは、たくさん苦しみを生みます。戦争

については日本人が被害を受けた話もあるし、日本人がいろいろなことをしてきて加害問題になったり。この間、森首相がとんでもないことを言って国際問題になっています。今朝のシンポジウムでユーゴスラビアやボスニアの話聞いて、皆さんもどんなに戦争が大きな被害をもたらすかということを感じられたと思います。日本人には、染みついている部分もありますが、私たちのように若い世代は勉強していかなければなりません。ところが、新しい日本の歴史観などが出てきて、私は本当に困惑しているような状況です。皆さんも同じではないかと思っています。

戦いをしている理由はないと、私は思います。戦いの結果がもたらすものとはとても大きいと思います。ベアテさんが「アメリカから押しつけられた憲法でもいいものはいい」とおっしゃいましたが、私も安心しました。いいものは、本当にいいのだから、押しつけられた憲法であっても、この憲法を守っていくべきだと思うし、「押しつけられた」とよく言われますが、私たちが五十四年前に選んだ憲法でもありますから、もつとそのことに責任を持つてもいいのではないかと思っています。

憲法の前文の中で、「人間はすべて平和に生きる権利がある」と謳っています。平和は決して恐怖からは生まれません。冷戦の間は平和だったかというところ、お互いに牽制しあって全然平和ではなかったということが言えると思います。これが、国どうしだけではなくて、人間の間でもいつか殴られるのではないのか、いつか何か起こるのではないかと思っただけで怯えていることは、戦いがなくても平和とは言えないのではないですか。やっぱりそこは、みんなが手ぶらで話ができて、平和に解決できるという手段があつてこそ本当の平和だと思います。

九条はこのことを謳っています。これは国どうしだけではなく、人にも当てはまります。それを謳っている大事な憲法です。武装できる国を考えてみたら、経済力があつたり強い国であつたりして、弱い

国はどうしても武装することができません。人間も同じです。子どもが武器を持つことができなかったり、貧乏な人が武器を買うことができなかったり、力をもっている男の人やお金をもっている人が武装することができ、そういったなかで、平和が生まれるでしょうか。本当にお互いの人権を守っていると言えるでしょうか。

私は、いま本当に女性問題としても、武装することの危なさ、平和に対する意味ということで、九条の大事さを訴えていけたらいいと思っています。

司会 以上が私たちの提案です。このアメリカでこういう主張をすることは、大変勇気の要ることです、私たちも随分ディスカッションしてきました。今から討論をしていきたいと思っています。

会場発言から

憲法があつたからこそ、今の私がある。平和がある。

●大阪から参りました〈憲法九条を守る会〉の橋本幸子です。

この憲法を作っていたいたベアテ・シロタさんに、私たちの感謝の気持ちを拍手で表したいと思います。(二斉に拍手) どうもありがとうございます。

憲法のことを話す前に、日本がアジア太平洋戦争で負けてくれてホントによかったと思います。これが勝っていたらどんなに怖いのか、私たち女性の参政権はありませんよ。ベアテさんがおっしゃったよう

に男性より三步下がって……。勝っていたら男女共学もありません。「男女七歳にして席を同じうせず」。女学校は中学校より下！ 叔母の女学校の教科書を見たら、掛け軸の掛け方、お茶の入れ方、そんなんばっかり教科書にある。そんな、どうでもええやないか。それが女学校で教わることだったのです。良妻賢母教育だから。

私は小学校の一年から大学の四年まで、男女共学でやってこれたから、「女って損やなあ」ってわかったんです。何で女が損やというかと、ここに男の子がいて、ここに私がいて。勉強を平等にやったんやから、男も女もあれへん。成績が上か下かだけなんです。ね。（今はジェンダー問題がありますけどね）でも、社会に出たら女は下、男は……と厳然とあるんです。これは、憲法に男女同権というのがあったからこそ私は「おかしいやないか、男がなんで上やねん、おかしいな」と思うたんです。「男が上って、おかしいで」言うたら、「おまえはアホか」と言われた。「なんで、アホや」と聞いたら「女は下にいてるもんや」こう言うんです。これが結婚したらなおのことでした。学生結婚だから一緒に勉強してたんですよ。ところが結婚したら、私のご飯作らなあかん。向こうは勉強やつてた。なんでやねん。「俺は男やからええねん。お前は女やからやれ」そんなんおかしいでと、思ったんです。私が女学校で男女別の教育されてたら、これ当たり前やと思うんです。でも、憲法に保障された男女同権というのがあったから、おかしいで、と思ったんですよ。みなさんわかつて頂けますか。（拍手）そうでしょう。

「女ってなんでやねん」これ言うたら「お前はアホか」といつも言われていたんです。そやから、私はアホやと思うていたんですが、ある時「違うねん、これ当たり前のこと言うてるねん。ちゃうか」とこう思うたんですよ。それから私は自信を付けて「わたしはアホと違う。当たり前のこと、言うてるんや」と、こう思いました。

これも、男女平等という憲法があつたからこそなんです。皆さん、この憲法をなくしたらだめです。戦争放棄、この憲法を、世界に広めないけません。なんでや言うたら、日本の封建親父ネットワークが、君が代、国旗掲揚を出してきましたね、教育基本法の抜本的改革も出ています。こんなことで私たちの力が抹殺されることは絶対あつてはいけません。みなさん。従軍慰安婦問題は私たちが一生懸命取り組んでいる。でも自由主義史観の人たちは何と言っていますか。「商業行為」言うんですよ。そんな馬鹿なことないでしょう！ ホントに。従軍慰安婦には、日本からも行っています。だけど、日本の従軍慰安婦は何も言いません。日本のフェミニズムの力が弱いから言えないのです。アジアの女の人たちがちゃんと声をあげてるんです。私たちはアジアの女の人たちと一緒に女性運動、フェミニズムをやっているかなければならないんです。

憲法九条、守りましょう！ ベアテさんに作っていただいたこの憲法を骨抜きにはしてはいけません。絶対守りましょう。ここに居てる人が一人ひとり言つて頂いたら、きつと、きつと、守れると思います。みなさん、一緒に頑張つていきましょう。(拍手)

十八年間「八の日行動」を続けて

●徳島から来ました高開千代子です。シロタさんには、去年徳島に講演に来て頂きました。私は徳島で「八の日行動」と言つて毎月八日に徳島駅前でビラ配りをしたり、マイクを握つての街頭宣伝をしたり、という行動を十八年間やってきました。それは、一九四一年十二月八日に日本が太平洋戦争に突入していったパール・ハーバー。この十二月八日を忘れないようにしようということで、反戦行動を毎月八日にやっています。

さきほど人間魚雷の話がありましたけれども、二十何年前にオーストラリアを訪問する機会がありました。キャンベラの国会議事堂の前にある戦争記念館の中庭に人間魚雷が二点飾られていました。私はその時、全然知らなくて、何でこんな所に日の丸がついた人間魚雷があるんだろうというように思いました。あとで、日本がシドニー湾に人間魚雷で侵攻してシドニーの市民十九人を怪我をさせたり、殺したりしていたということを知りました。私たちは国際交流とかいろんなことをよく言うんですけど、そういうことを知らずに、うわべだけで仲良くしようと言っても、本当の国際交流や国際親善にはならないな、と思います。だから、この反戦行動をやってきました。けれども、今ほど平和憲法が危ない時はないと思います。だから、全国で、みなさんができる手段は違うと思うんです。私はマイクを握ったり、ピラを配ったりしますけれども、芸術家の方は芸術という形であらわせるだろうし、今日ここに参加しているみなさんは、いっぱいいろんな方法があると思うので行動に起こしていきましょう。是非、お互いに頑張っていきましょう。(拍手)

実質的に空洞化された憲法をどう守りぬくか

●東京から参りました斎藤千代です。『あごろ』という雑誌の編集をしています。今日、市立大学の催しのタイトルを見ましたら「山口の女たちが憲法を語る」。よく見たら、小柴さんのお名前がある。これは何が何でも伺わなくっちゃあ、と来ましたらシロタさんがいらして、びっくり仰天。この間日本にいらした時、何とかシロタさんのお話を伺いたいと思って、追いかけてまわしていただけたんです。ホントにいいお話がなくて、劇場の公演の後でちょっと一言おしぎさせて頂いただけだったのです。ホントにいいお話を頂いて、今日は宝くじで何億も当たったような嬉しい気分です。憲法については、私も心から心配し

ているのですけれども、お仲間がこんなにくさんいらつしやるということがうれいすね。

「今の憲法は悪い、変えなくては」という声もありますが、百十年前の「大日本帝国憲法」明治憲法」と比べてみますと、どんなに良くなっているか、よくわかります。

明治憲法は山口出身の伊藤博文が中心になって、プロシアの憲法を基にしてつくられたことは、ご承知のとおりです。「明治維新の精神を成文化した憲法を」という動きは、維新以来、早くからあり、日本各地で五十種以上もの草案が創られたのですが、結果的には政府案が通ったわけです。

しかし、とにもかくにも憲法が出来たことで、国民が狂喜したという話を、私は父からよく聞かされました。憲法が施行されるという日、父は旧制高校の学生だったそうですが、下駄の歯が宙に浮くほどの空前絶後の人出だったそうです。明治憲法というのは、明治の人にとっては光だったのです。明治憲法は、現在の日本国憲法に比べると非常に劣っていますが、明治憲法の中にも、いろいろないい理念はあります。人びとが移動する自由、集会・結社の自由などが書かれているということは、それ以前には、そうした自由がなかったこと、今後はそれを保障することを示しています。

徳川幕府の藩幕体制を倒して、四民平等を掲げ、明治憲法も制定したのにもかかわらず、それが、なぜ惨憺たる戦争にまで発展していったか。憲法を具体的な政策にするのは、明治憲法で初めてできた国会で決められるということになっていました。ところが、その国会がなかなか力にならない。しかも民法が作られましたが、これが非常に悪い民法です。女性の人権などほとんど認めていない悪い民法でした。そのうえ治安維持法をはじめ恐ろしい法律、悪法が国会で次々につくられて、ついに戦争になったのです。これはちょうど今の状況とよく似ています。

シロタさんたちが苦労してつくって下さった現在の憲法は残っています。けれど、本当に残っている

のでしょうか。私はすでに八割くらい死にかかっている状況ではないかと思っています。

この前から、いろいろな悪法が、成立しています。悪い法律が量産されて、憲法はありますけれども、実質的に憲法が空洞化されかかっている。憲法を読み直しますと、一番大切にしているのが国会なんです。ところが、この国会に残念ながら私たちの望むような人を選び切っていない。この間シロタさんがいらした時でも、保守党の党首である婦人は「憲法によって日本の女性の美徳が失われた」と言ったということを聞きました(シロタさん、苦い顔でうなずく)。何とも残念ですが、そういう状況なのです。この六月二十五日には待ったなしで新しい政権ができますが、今のところほとんど夢がないのです。多くの日本人に草の根保守主義みたいなものがあつて、せっかくシロタさんがいい憲法を作って下さったのに活かしきっていない。守りきっていない。それが今最大の問題ではないでしょうか。なぜ、私たちの代表を出せないのか。これが、私たちの課題だと思います。

今日は本当にすばらしい会を開いて頂いて、持つて帰れないほどのものを頂きました。こんなにもたくさんの方々が元氣あふれて、行動するとおっしゃっている。先日、コロンビア大学で二十一世紀に向けてのグローバルな展望として、世界の女性たちについて各国のいろんな方からお話がありました。最後の言葉は「アクション」でした。本当に「アクション」以外ないのではないか。私たちは、自分ができることをしましょう。歌がうたえる人は歌をうたうし、絵を描く人は描くし、病氣の人でも何かできることがある。元氣で生きていることだけでも、何かできることがあるでしょう。

私は編集者ですから、ちょうど今、『憲法があぶない』という特集を作っております。今日のお話を聞いていて、是非この素晴らしいお話を、もし皆様のご了解を得られたら、私どもの雑誌にも載せさせていただきますと思います。是非この熱い思いを広めたいと思います。今日は大変感激しました。あり

がとうございます。(拍手)

大人の戦争ごっこ「自衛隊」をやめさせよう

●静岡からきました池ヶ谷道子と申します。山口の方には昨年静岡の〈北京JACシンポジウム〉環境の分科会でお世話になりました。『ゴミゼロ、ゴミを出さないお祭りをしよう』それになりました。早速、仲間が地域ぐるみで始めました。昨年夏、今年の春と効果をあげています。今年はこのツアーでお世話になりました。

私は学校に勤めています。校長に年休を求めました。「最高でも三日しかやれない、前例がないから七日はやれない」ということでした。先輩のアドバイスで、一九七三年の最高裁の判決^⑤を入れ、八項目を掲げて年休を申請しました。「印は押さないよ」との対応でした。組合の方でバックアップするからもっと強固に主張するように助言をされ、やろうとしておりました。校長も先輩に聞いたらしくて、次の朝「私もあなたほどではないけれども、女性のことも分かるし、環境のこともわかつているつもりだ。行つてきて下さい」と。こんな思いをしてやってきました。今日ここに来て本当によかったと思っております。

五月二日の憲法調査会をテレビや新聞で見たり聞いたりして、ベアテさんにお会いできないのが本当に残念でしたが、さっきのお話を伺って、涙が出て、日本の母だと感動しました。ワシントンのホワイトハウスの前で平和のために居すわっているスペインから帰化されたリシヨットさんにもお会いできて、校長にいい土産ができたと思っています。胸を張って帰れます。

自衛隊は大人の戦争ごっこだと思っています。なんとか早く大人の戦争ごっこを止めさせて欲しいと

思っています。微力ながら頑張っていきたいと思います。(拍手)

(注・一七七三年最高裁：年次有給休暇に関する判決)

男女共同参画社会基本法による市条例づくりを勉強中

●三重県の桑名市から来ました中村実穂と申します。このシンポジアのことを知ったのが遅く、申し込んだ時点ですでにワークシヨップは締め切られていましたので、ワークシヨップが開けなかったのですが、行政のものから千羽鶴を預かっておりまして、どこかでご紹介をさせていただきたいと思っており、またところ、鶴が平和の象徴ということもありまして、山口県の方が快くお引き受けくださり、このワークシヨップで少しお時間をいただくことになりました。

まず、この千羽鶴の紹介をさせていただきます。この千羽鶴は、一枚の紙から折るという珍しいものです。よく千羽鶴と言うと、千羽折った鶴だと思われていますが、桑名の千羽鶴は、いくつかがつながっている鶴のことを言うのです。是非この鶴をお知り合いの方や、今回出会われるアメリカの方などに紹介下さい。

次に少しだけ、この場をお借りまして、私どもの活動をご紹介させていただきます。私はへくわなウインという女性グループで、女性が生き活きと暮らせる社会をめざして活動をしております。

現在、三重県では、男女共同参画社会基本法に向けての条例づくりを進めておりまして、私の住んでおります桑名市でも何年か計画ではありますが、条例づくりをしようかとがんばっております。条例に向けての勉強会を私どものグループで計画中です。

この千羽鶴も条例づくりの勉強会をいっしょに計画中の職員がつくったものです。彼女の作った千羽

鶴がうしろに飾ってありますので、どうぞ自由にお持ち帰りください。

ありがとうございます。(拍手)

戦争で苦しみ抜いた人びとの悲しみと怒りの結晶が日本国憲法

●私は北海道の美瑛町からやってきました岸伸子と申します。私は五月二日の憲法調査会でシロタさんがお話された八日付の『赤旗』の新聞記事を見まして感動しました。是非お会いしたいと思って憲法調査会に問い合わせてシロタさんに連絡をとりまして、「ニューヨークでお会いしましょう」という約束をいただき、こうしてお会いできて感謝しています。

シロタさんに何を聞きたかったかというと、憲法調査会で「日本の進歩的な男性と少数の目覚めた女性たちは十九世紀から国民の権利を求めて闘ってきました。この憲法は国民の押さえつけられていた意志をあらわしたものです」と証言され、決して押しつけの憲法ではないということを主張されました。私は、この「進歩的な男性と少数の目覚めた女性たち」について、もう少し詳しくベアテさんがとらえていた内容をお聞きたいのです。柏書房の『一九四五年のクリスマス』という本にも書かれているように、ベアテさんがワイマール憲法やソビエト社会主義共和国連邦憲法など、各国の憲法を集められたということも事実ですが、ご自分のご親戚の中に、ナチの弾圧のもとで、ヨーロッパを逃げ回った人たちがおられます。そこで私は、日本国憲法というのは、世界のそういう人びとの苦しみと願いが託され、近代の世界の民主主義と人権宣言などの精神が引き継がれ、血肉化されて、たまたまそれらを吸収できるベアテさんが憲法に盛り込むチャンスに恵まれた、その場に遭遇したのがベアテさんだったと思います。盛り込んだというより、居合わせた、遭遇した方だったと私は思います。

また、二十二歳の時ではなく、後年、居合わせたということではアテさんご自身がびっくりされたことがあるのではないかと思います。その事の重大さに気づいたと推測するのですが如何でしょうか。その二つを聞かせてください。

なお、私は〈新日本婦人の会〉のメンバーの一人ですが、旭川の遠藤事務局長から、百歳を越えた榎田ふきさんが訴えたメッセージ「沈黙は共犯、戦争反対、母の声よおこれ」という書を託されました。これをベアテさん、お受け取りください。「日本の主権というのは、国民にあるのであって、天皇にあるのではない」ということを主張して犠牲になってきた人びとがいます。治安維持法の犠牲になった人びとの国家賠償を政府へ要求している一人として、関連した文書（国連人権小委員会発言）を持ってきました。どうぞお受け取り下さい。

司会 では、最後にもう一度ゴードンさんにご登場頂いて、質問に答えて頂きましょう。

聡明な日本の女性が憲法を守ってほしい　ゴードンさんの答え

日本国憲法は押しつけたのではなく、戦前から日本にあった運動を成文化したものです。押しつけるということについて、一つには、その時、日本政府では松本丞治という人が草案を作ったのです。マッカーサー元帥は日本側がちゃんとしたものを作ってくれればいいと思っていたのです。一九四五年十月でした。

ところが、松本恭治の草案は、明治憲法と全く変わらないので、マッカーサー元帥は「これはだめです」と言って、書き直しになった。書き直したのもまた同じことで、全然明治憲法と変わらない、多分三回ぐらい頼んだんですね。この頃私はまだ日本にはいなかったのです。私は、一九四五年の十二月の末に日本に着いたのです。私が日本に来る前のことだったのです。

二月になると、松本恭治の草案が全然だめだから、マッカーサー元帥が自分のスタッフで今度それを作ることに決めました。ケーディス大佐とホイットニー準将とは日本の他のところから出てきた草案を読んだのですよ。その時憲法研究会という会があったのです。その人たちは、割合い草案を持ってきたのです。社会党もいい草案を持ってきたのです。

そして、運営委員会はちゃんと読んで、そこからわかったのは、ずっと前、一八八五年からいろんな日本の男性と女性が人権のために戦っていたんですね。女性は特別に参政権のことなどで戦っていました。ずいぶんいろんなことがあったのです。二十世紀になると市川房枝とか加藤シズエとかいました。しょ。日本では人権について誰も何も考えていなかったということはありません。前から戦っていたのです。

だから、あの人たちからみれば、日本の国民が望んでいた人権を私たちは実際に憲法草案に入れたのですよ。全部外から来たというものではないんです。その時まで、日本政府はそれを与えなかったようですが。私たちは日本で作った草案、社会党と憲法研究会の分を使いました。だから、私たちが「押しつけたというものではない」とケーディス大佐がそれを実際言ったのです。あの方は二年前に九十二歳で亡くなりましたが。ケーディス大佐とはずっとお友達だったのです。私の草案を随分カットしましたけれども、お友達でした。

もう一つ、押しつけるということについては、押しつける時には、自分より悪いものを他の人か他の国に押しつける。しかし、この日本の憲法はアメリカの憲法よりいい憲法ですよね。平和憲法でしょう。アメリカの憲法は平和憲法でもなく、女性という言葉も入っていないから、日本の憲法のほうがいいのです。だから、その立場からみれば、アメリカがそれを日本に押しつけたとは言えないと思います。

それでもう一つ、前にも言いましたが、これは西洋から来たものであるということに対して、日本は、伝統的にずっと前からいろんなものを他の国から輸入して、それを上手に使ってもっと素晴らしいものを作りました。その立場からみれば「外から押しつけられたから」と言っても、ホントに素晴らしい憲法であるから守らなければならない、と私は思います。何か変化したかったら、民法でそれを変化させることもできると思うのです。憲法を改正することとは大間違いです。改正が始まると何を改正するかわからないです。もちろん第九条も問題なのですね。これは私は一番いい条項ではないかと思えます。（もちろん第二十四条も大好きですが）平和がないと私たちはこれで終わりだと思えます。

今の状態はとても危ないと思います。全世界で。だから、この憲法を宣伝しなければならぬ。他の人たちにこれを教えなければならぬ。だからこれはとてもいいチャンスだと思います。日本の政府と日本の男性がそれが分からない



ければ、日本の女性がそれを分かっているのですから、一生懸命やらなければならない。市川房枝先生みたいに。

平和のために、戦争放棄をしているのは、日本とコスタリカだけです。今のところ、そういう憲法を持っているのは。コスタリカは陸軍も全然もっていません。日本は自衛隊がありますが。ディフェンスのことはマッカーサーは最初の草案には「全く陸軍をもつてはいけない」としていたのですが、ケーデイス大佐が「どうしても、他国から何か来れば、自分の国が守れない」と、そのためにそれを許したので。よく読めばディフェンスはできるとありますが、それを放棄してないんですよ。ケーデイス大佐が私に言ったのは、ケーデイスが自分で入れたのです。そして、それが入ったのはなぜだかわかりません。マッカーサーがそれを見なかったか、いいと思っただか、それもわかりません。もう二人とも亡くなったから聞けないのです。しかし、それはケーデイスのアイディアだったのです。

事の重大さに気がついたのは、六年前

日本の憲法にかかわったという事の大きさをいつ頃改めて認識したか、ということですが、私たちが書いた時に、かかわったみんなも同じと思いますが、他のことを考えるひまがなかったのです。憲法の草案のことに朝から晩まで、そのことだけだったのです。その後、極秘でしたから、誰とも話をすることもできず、頭から出てしまいました。誰とも話せんから。それから、私たちみんなアメリカに帰って、私はキャリアの違う道に行きました。私は文化交流をずっとやりました。それも大変な仕事だったので、当時そういうことをやっている人はアメリカではいませんでした。私は全アジアの文化のことを習わなければならなかったのです。当時いろんなアジアの国の文化についての専門家がいなかったの

で、私は一生懸命あっちこっちに行つて、アジアの国の舞踊やお芝居とか、音楽とか、全部自分で探さなければならなかつたんです。三十五年の間、その仕事だけをやっていたのです。そして、結婚して子どももいるし、すごくフルライフでした。すごくいろんなことをやっていたから。

だから、日本の女性のことは知っていました。一九七〇年から毎年来ました。全アジアを廻つて必ず日本にも行つたんです。だからそういう時は必ず市川房枝先生に会つていろんなことを話しました。先生から、選挙のこと、日本の女性が何をやっているかを聞きました。すべてみんな私にとって喜びでした。

しかし、ホントのことを言えば、六年前まで、私が書いたということについて、あまり私の頭に入つていませんでした。六年前に大阪のドキュメンタリー工房の鈴木昭典さんがアメリカに来て ケーデイス大佐にいろんなことを聞いたのです。その時にケーデイス大佐が「女性の権利の問題については、ベアテ・ゴードンに聞いたほうが詳しいから行きなさい」と言つたのです。その時に、ニวยอร์กの私の家に鈴木さんがきたのです。私にいろんな質問をして。その時から、日本の憲法のすばらしさがだんだん分かつてきました。私の頭に入つたんですよ。

でも、それを私が書いたつて、自慢することはないんです。『真珠の首飾り』を書いたジェームズ三木さんが「日本の憲法は、全世界の歴史的才能から出たものだ」と、とてもうまく言いました。それは本当だと思うのです。私を書いたということではなくて、私は非常にいいリサーチャーだったのです。それはタイム誌が私を訓練してくれたから。私がいろんな国の憲法を探しに行つたこと。それだけを私は自慢しています。ホントです。それは私の仕事だったです。そのリサーチということ。それは私には、当たり前だったのですが、他の誰もその時の事務所ではしなかつた。それだけが自慢できることです。

(大きな拍手、いつまでも)

司会 どうもありがとうございました。とても謙虚なベアテ・シロタ・ゴードンさんです。まだまだ伺いたいことは山ほどあるのですが、時間の制限がございますので質問や発言はこれでおしまいにします。今日は本当にいいワークショップができましたこと、また皆さんとの出会いができたということに私はとても感激しています。今回ベアテ・シロタ・ゴードンさんが、私の下手な英文に応えて下さったということ、私のように実績も何もない無名の一女性にベアテさんが応えて下さったということに非常に感激しています。この会でみなさんに出会え、この場を提供できたということが嬉しいです。

最後に私たちはベアテ・シロタさんのお気持ちを反映し、ハーグ会議での宣言文も考慮して、「私たちの宣言」を作ってみました。では最後に金子瑞穂から読ませていただきます。

私たちの宣言 話と朗読 金子瑞穂

このニューヨークを歩いて見ますと、どのアベニューを通っても美術館が並んでいるようなホントに素晴らしい街並です。どうしてでしょうか。ここは戦場にならなかつたからです。今は、ヒロシマ・ナガサキの原爆の百倍もの力をもった原水爆があります。あの原爆でいまだに後遺症で苦しんでいる人たちはたくさんいます。もし今、このニューヨークにその一つでも落ちたら、どうなるでしょう。家どころか、人類も無くなってしまうと思うのです。

是非、女性の力で戦争はくい止めたいと思います。スウェーデンは二百年も戦争がなく、平和が続い

たので女性の権利が確立して来ました。女性も男性も五分五分いるのですから、もともと女性も社会に出て社会の福祉や社会の安定のために役立てると思うのです。女性は子どもを生みます。自分の子どもを戦争に送りたいと思う人はひとりもないと思います。戦争のない、世界平和が続きますよう、頑張つて、九条そして二十四条を守り通したいと思います。その決意を新たにして、宣言文を読みます。

〔宣言〕 私たちは、平和のために日本国憲法第九条の武力放棄が世界各国の政府に反映されるよう訴えています。

司会 今日、皆様方とここでお会いできましたこと、そして、これを私たちの役目として日本国憲法の精神を世界に広めていきたいと思ひます。今の日本は、非常に危険な状況にあります。六月二十五日の総選挙にもこの意思を反映しましょう。今この熱意を日本に持つて帰つて日々の活動にいかしましょう。また、みんなで手をつないで頑張つていきましょう。(共感の大きな拍手)

後日談

ワークショップの参加者は、日本人ばかりでした。これは、私たちのテーマの作り方に国際性がなかったのかもしれませんが、また、会場の条件、広報の仕方に問題があったのかもしれませんが、とにかく日本人ばかりになりましたので、当初の目的「海外に発信する」ことができませんでした。

最終日の六月八日のホスト委員会のパーティでは、いろいろな国の人に会えるだろう、ということで、急ぎよ日本国憲法前文、九条、私たちのワークショップの宣言文の英語版をリーフレットにし、配布することができました。二百枚のリーフレットは、あつという間になくなりました。ここで、やっと目的の一つを達成することができました。

ベアテ・ミロタ・ゴーズンのお宅にお邪魔して

ベアテさんのお住まいは、ハドソン川沿いに北に上ったリバーサイドにあるマンション群の中になりました。そこは、ミドルタウンやダウンタウンとは全く雰囲気とは違って、閑静な落ち着いた町並みでした。マンションに入ると、ガードマンがいて、天井は豪華なレリーフが施され、全体がとても落ち着いた重みのある待合室でした。エレベーターに乗って十二階へ。彼女の部屋番号を見つけて、ベルを鳴らしました。

出てこられたのは、ミスター・ゴードン。丁寧に案内されて応接間へ。そこには、棟方志巧の版画がかかっていました。

『ゴードン女史より受けし花を絵にして捧ぐ』と書いた花の版画と、『FUGENBOS



抹茶を味わうゴードン夫妻

ATU』と書いた仏像の版画が掛けてあります。また、年代物のグランドピアノ、日本やアジアの物が飾られています。若かりし頃のベアテさんの写真も飾られています。日本語はほとんど忘れたというミスター・ゴードンは、私たちに優しく相手をして下さいました。その時ベアテさんは、お手伝いさんが病気で休みでしたので、台所で私たちのランチを手作り中。しばらくして来られた彼女は紺色の作務衣姿に、畳み地のぞうりばきでした。

ちょうどその時、愛知県の「ベアテさんと語る会」の方たちもみえられ、私たちと合流しました。総勢十五人の客人となりました。ベアテさんへプレゼントを渡して記念撮影を。

いよいよ、ランチタイムに。まずは、ワインで乾杯。バイキング方式で典型的なニューヨークの家庭料理。冷たくしたサーモン、ハム、ポテトサラダ、生野菜（ホテルの朝食では野菜は食べられなかったのが嬉しかった）チーズ、黒パン、ベーグル。ベアテさんからベーグルの食べ方を教わる。まず、半分に切って、チーズや野菜、ハムをはさんで食べる。

昼食の後は、おいしいクッキーもあり、売っているお店を教
えてもらいました。ベアテさんは、大勢のお客が着た時しか使
わないというコーヒーマーカーでコーヒを入れて下さいまし
た。私たちは、抹茶の接待をし、愛知の方の井上流の「松」を
鑑賞しました。おしゃべりをして、楽しい時を過ごしました。
ベアテさんに「ぜひ、またいらっしゃい」と言われながら一足
先に帰りました。

ベアテさんは、この大都会のニューヨークで日本文化やアジ
アの文化を紹介する事業に取り組まれましたが、実際にニュー
ヨークに行つて見て、この事業がとてつもなく大変なことが分
かりました。いかに彼女が優れたプロデューサーであつたかが、
よくわかりました。「長年私はプロデュースしてきました」と
おっしゃるとおり、ワークシヨップの打ち合わせに大阪で会つ
た時も、「平和をアメリカ人に訴えるためには、広島の大原爆被害
者の写真を展示し、視覚に訴えることを。米軍基地では、女性
の被害はどうなっているのか、この部分を訴える必要がある」
などと、的確に、簡潔におっしゃいました。

彼女は憲法起草でも活躍されましたし、日本やアジアの文化
をアメリカに紹介する素晴らしい仕事をこなしてきた方です
が、誰にも親切で飾らない人だということが、ワークシヨップ
にご協力頂けたことからでもよく分かります。お住まいも、簡

素ですが、彼女と交流のあつた方々の作品に囲まれて、温かい
雰囲気がありました。



山口メンバー全員とベアテさん

参加者の感想

北京とニューヨークに参加しての雑感

勝又瑞枝

一九九五年の北京会議は、国連会議史上最大といわれる四万七千人が参加し、その内NGO三万人は、まさに一九九五年となって爆発した感があつた。そして、私は全くの初心者ながら会議期間中の全体的雰囲気と、出会った人物によって、女性問題に対する意識を確立できたような気がする。あれから充実した五年間を経て、二〇〇〇年の六月、ニューヨークはわたしにとってどのような影響を及ぼしてくれるであろうか。答えはこれからである。

ただ、ニューヨークという世界一の都市、そして国連本部の中まで見ることができて、この国連による世界女性会議の性質が体で理解できた。国連主導でないと、このような世界女性会議の開催は望めない。弱者である女性にとつては、小国と同様、国連が唯一のたよりどころであつた。

また、将来的には、世界の女性が一つになって力をあわせ、男女平等の地球社会を実現することが待たれるところであるが、日本女性にとっては言葉の壁が厚すぎて、意志の疎通がままならず、残念である。この点をなんとか女性運動の課題の一つとして短期語学留学等の形ででも解決できないものだろうか。

最後に印象に残ったシンポジウムとして、六月六日のシンシア・エッカーさんの「政治は選挙とか政党とかの小さな話ではなく、大きな概念である。政治を大きな観点から見ると、力強い考え方を持つてすることが大事である」という主旨の発言が、今回の一番の収穫であつた。

ニューヨーク二〇〇〇年会議から

金子瑞穂

私が北京十五グローバルフェミニストシンポジアに参加したいと思つたのは、世界一の大都会と言われている

ニューヨークに世界各国から集まってくるNGOの元氣な女性たちに会って、その知恵とパワーを頂きたいと思ったからです。

昨年ロンドンの「十字路センター」でお会いしたパトリシアさんは北京女性会議にも出席され、国連二〇〇〇年会議にも出席すると言われていました。彼女は「人を殺すための軍事予算を、人をケアするために使おう」と呼びかけていらつしやいました。私も、新世紀への平等・開発・平和の現実のための活動を理解して、社会の発展のために何かできるかもしれない。希望に胸を膨らませて参加しました。うわさどおりにニューヨークは素晴らしい都市でした。国連、エンパイアステートビルからの景色、美術館、驚いてばかりでした。

何と言っても、一番の収穫は、世界から集まった女性たち、日本全国から集まった女性たちといろんな場所でお話したことです。またベアテ・シロタ・ゴードンさんには私たちのワークショップにゲスト出演していただきました。昨年、「カリエンテやまぐち」や「海峽メッセ」での憲法に女性の権利を書き入れた講演を聴き、再度ニューヨークでお会いできました。日本とは違ったニューヨークで聴くお

話は彼女の思いが一層感じられました。このようにして、あらためて日本を振り返ることができました。

グローバルな物の考え方で、足もとから固めていくこと、ジェンダー的な見方を変えていくとか、などなど。まずは、自分から少しずつでもいいから変わっていくということです。ローカルからグローバルへ。再会を約束して別れました。

「戦争」を深く考えさせられた

栗崎啓子

この度のニューヨークで開催されたシンポジウム参加を、北京「AC山口の一会員」として、自分自身の考えを深める為に、迷ったうえ参加申込みをしました。

山口より九人の参加があることを知り、彼女たちとワークショップを開き、「女性と紛争」を選択することになりました。

私は母の介護中ですので、準備の打ち合わせに時間を取られることは、母に申し訳ない思いでした。夫の協力でなんとか解決することができました。

ワークショップは、いろいろな予定が、本番になって番

狂わせもありましたが、皆の力で、素朴で力強く訴えることができました。また、会場の参加者の積極的な意見もあり、いい結果であつたと考えます。お陰で私自身、憲法により深く関心を持つことができましたこと、生まれてはじめて空襲体験を人前で話す機会を得たことは、大きな収穫でした。

その後、引き続き出かけた中国残留邦人交流の旅でみた「平頂山事件」の跡、「七三一細菌部隊」「九・一八事変歴史博物館」……。戦争の傷痕は、半世紀もたつというのに、そのきびしさ、すごさに言葉もなく、強烈なショックを受け、人間が人間に出来る所業であろうかと体の芯から冷えてしまいました。

それにひきかえ、言葉の上の訴えをどこまで強めていくかを考えさせられました。憲法九条を守る事の大切さをもっともつと真剣にやらなくてはならないと、確信しました。はからずも、二〇〇〇年のこの六月に、戦争は決して起こしてはならないという事柄に二度も遭遇したことは、なんとした因縁かと思っております。

もう一つ、私の心に残された問題は、人と人々が手をつないでやってきたつもりですが、本音でぶつかる事で、自

分を傷つけることになるかわかり、背を向けようとする部分が残り、消化されていない自分に苦しんでいます。まだまだ人間修行を果てしなく続けなければならないと考えております。

日本も「文化を輸出する」時期に来たのでは

荒古悦子

五年前、北京に行かれた人たちの報告会を宇部シルバーふれあいセンターで聞いた時は、まさかその五年後のニューヨーク会議に、自分が参加するようになると思ってもいないことでした。ただその時は、一部の先進国と言っている国々が、地球上での富を独占しているんだなあと強く感じたのを覚えています。先進国になったと喜んでばかりいるのではなく、バランス感覚を忘れず、自分でできる社会活動を心がけたいなという感想を持ちました。

そのことが、カリエンテ山口であったベアテさんの講演会の参加であり、今回に連なっていると思います。

ニューヨークのワークショップでは、夏になると心が痛んでいた幼なじみ一家の被爆体験を語ることができ、多く

の人に訴えることができて大満足しました。日本という国は、島国で世界から受けた影響を工夫して、よりよいものにするという歴史を持っています。それを製品にして輸出するばかりでなく、文化を輸出していく時期にきていると思います。とてもよい経験ができましたので、もう少しいろんな勉強をして五年後も行きたいと思っています。

見て 聞いて 歩いて

北京十5グローバルフェミニストシンポジア

松藤東明子

六月五日から国連本部で開かれた国連特別総会「女性二〇〇〇年会議」に合わせ、日本とアメリカの女性たちが開いたシンポジウムやワークショップに参加しました。

ホスト委員会主催のオープニングセレモニーには、コフィー・アナン国連事務総長をはじめ、メアリー・ロビンソン人権高等弁務官、一九九五年の北京会議事務局長だったグルトリッド・モンゲラ女史も駆けつけての挨拶がありました。世界各国から二〇〇〇人参加があり、その熱気とパワーには圧倒されました。

六月六日に「北京十5グローバルフェミニストシンポジア山口」のメンバー九名が日本国憲法の武力放棄をアピールするために、「山口の女は日本国憲法をどうみるか」のタイトルで平和についてのワークショップを二部構成で開きました。

第一部では「ベアテ・シロタ・ゴードンさんに聞く」と題し講演していただきました。私は世界のモデルになるような素晴らしい日本国憲法を起草されたベアテさんと、ワークショップを開けたことを誇りに思いました。講演を聞いて私は、日本の女性たちはこのすばらしい憲法を世界各国に広めなければならないと思いました。

第二部は、施行から五十三年を迎えた憲法と平和の問題についてワークショップを行いました。

メンバーが戦時下や戦争終結の体験談、原爆惨状などを語り、それらを基に五十名の参加者で活発に意見を交換していました。この時、「あこら」の斎藤千代さんが「ホントにいいお話を頂いて、今日は宝くじで何億円も当たったような嬉しい気分です」と言われました。私は感激し、嬉しく光栄に思いました。

私たちの席を譲らねばならないほど会場は満席で、ワー

クシヨップは大盛況でした。そして、私は、日本国憲法を、たくさんの方が大切に思っておられる事を確認しました。

このような有意義なワークシヨップに参加し、日本をはじめ世界各国の方と出会えました。今回学んだ事を、これから周りの人に伝えていきたいと思っています。最後になりましたが、企画を下さった皆様、お世話になった皆様、ありがとうございました。

「女性問題は人権問題」こそ重要と実感

吉鶴尚美

私のニューヨークへの道は、九八年に参加したシンポジウムでの、あるパネリストの方の「月に一万円貯めて、ニューヨークへ行こう」の一言から始まった。

九五年、私は北京に行きたかった。以前に従軍慰安婦について論文を書いた私は、「生まれた場所と時が違ったら、私も慰安婦になつていたかも知れない」と問題の深刻さに気がついたところだった。

しかも、テレビを見れば慰安婦は決して「歴史」の中だけのことではなく、今も世界各地で同じことが起きていた。

私が惨劇から逃れているのは、「たまたま」で、「場所」さえ違えば分からない。しかし、その時の私は、北京で会議が開催されると知っても、旅費の問題で諦めざるを得なかった。そして、九八年の言葉で、私は自分が経済的な問題で断念する必要があるのに気付き、その日から二〇〇〇年にはニューヨークへと思っていた。

ニューヨークへ行つて、いろいろな人の話を聞いたり、国連総会の状況を聞いたりするにつけ、自分の問題意識の原点がとても重要なことがやっと分かった。地球上で起きているさまざまな人権侵害は、決して他人の問題ではない。もう一人の自分に起きている問題なのだ。ニューヨークでは、いろんな人がそのことを訴え、そのことを話し合っていた。

世界中の人びとが「女性問題は人権問題」と言い、言葉や文化、習慣、宗教の違いを超えて、地球上に住む人は誰でも人として尊重されるべきだと訴えた。そのためにできることを皆が精一杯していた。

もう一つ私が学んだことがこれ、「やること・アクション」。私たちのワークシヨップでも、シンポジウムでも「アクション」という言葉が何度となく聞かれた。シンポジウ

ムで会場からの発言を求められた時、ニューヨークでのシンポジウムで、私の隣にすわっている人が言った。

「最初は何でも夢物語です。このシンポジウムだって最初は夢でした。でも、やればできるのです。どうしたらいいのだろうと悩むより、とにかくやりましょう」。

私はこう自信を持って発言できるのは、なんてすごいことだろうと思った。ニューヨークでも、たくさんの「アクション」を見た。そこからは、信念と、そして何より「とにかくやろう」という意気込みが伝わる。それで充分なのだ。

誰かの問題は、自分の問題。そしてとにかく「アクション！」 ニューヨークにはこんなに大きな宝物があった。

「体感する学習」を学ぶ

益田徳子

六月五日から六月十日まで国連で二〇〇〇年女性会議が開催されました。私たち山口からは九名のメンバーが、それぞれ個として参加しました。

「北京+5グローバルフェミニストシンポジア」という

NGOグループが、ニューヨーク市立大学大学院でシンポジウムを開催し、山口グループもワークショップ「山口の女たちは日本国憲法をどうみるか」を行ないました。

ギャラリーは教室に座れないほど集まり、ゲストに憲法草案に関わったベアテ・シロタ・ゴードンさん。今私たちが抱えている平和に関する問題や、ベアテさんが日本国憲法に関わっていた時代背景など聞きながら、白熱したワークショップとなりました。

チラシを作り、会場でビラ配り、皆との一体感で大満足。事前学習で学んだ事は、私にとっては大変貴重なことでした。机上では学んだ理論だけに頭が働くだけですが、実際に体を動かす学習、すなわち実際この目で見、足を運び体感することは、やはり百聞は一見にしかずです。貴重な体験でした。

人類が同じテーマで考え、行動することは非常に困難なことかもしれません。環境、思想などの違いなどの枠を超えて、世界会議が行われ、共通点を見出そうと努力しています。私もグローバルな視点で考え、見、世界の動きを洞察する力を補っていかねばと思います。情報化の時代と言われている今日、体感することも、なお一層必要だと痛感しました。

女性問題提案の本場に乗っ込んで

中川忍子

女性問題に携わるようになって長いが、女性問題が語られるようになったのは、一九七二年、国連が一九七五年を「国際婦人年」とすることを宣言してからである。

日本は、日本国憲法において、「男女平等」を定めていたが、自分の内にある男女平等についての不条理を表に現すことが大変難しかった。国連は「黒船」で、日本は一九七七年「国内行動計画」を策定、山口県でも、女性問題対策審議会が建議され、一九七九年には「よりよい社会をめざす山口県婦人行動計画」が全国で三番目に策定され、行政も具体的に動き出した。

一九九八年「やまぐち男女共同参画プラン」の策定には直接携わったが、この時も、第四回世界女性会議の北京行動綱領を受けて、「ジェンダーに敏感な視点」「女性の基本的人権の尊重」「女性のエンパワメント」「男女の対等なパートナーシップの確立」等を視点に、山口県の特徴を踏まえながら検討を繰り返したのである。

女性を取り巻く不条理の整理と提言が、女性問題に関する

るNGO活動の原点と思うので、「北京+5」としてニューヨークで開催された国連特別総会女性二〇〇〇年会議に並行して開催された「北京+5グローバルフェミニストシンポジア」へ参加した。

全国から二百五十五人の参加、山口県からも九人が参加した。シンポジウムに併せて開かれたワークショップには当然参加することで、何処も取り上げていない「平和」に取り組むこととし、ちょうど一年前に山口県婦人教育文化会館で開催した「エンパワメントフェスタ」にお招きし、私たちに大変感銘を与えて下さったベアテ・シロタ・ゴードンさんがニューヨーク在住ということで、ワークショップにご参加いただき、日本国憲法の再評価をすることになった。

六月六日ニューヨークは大雨だった。私は雨の中を私たちのワークショップ会場に駆けつけるベアテ・シロタ・ゴードンさんを一時間前からニューヨーク市立大学大学院の玄関で無事に到着されるよう祈りながら待った。後まだ十五分あると思って時計を見たとき、彼女は黒いレインコートで現れた。感激で胸が詰まった。

会場は既に満席で、十五時定刻に、せっかく練習した「英

語を使わずに会はスタートした。日本語で語る気安さから

「平和」に対する想いが十分に語られ、会場から嗚咽が漏れるまで盛り上がり、ワークシヨップは大成功であった。

平和でなければ、男女平等も、女性問題も語れないのである。

ベアテさんは言われた。「この日本国憲法は世界のモデルになるような素晴らしいものだから、五十年改正されなかった。一九九九年オランダのハーグ会議のアジェンダの冒頭に『日本国憲法九条の精神を各国議会が採択すべき』と記入されている。「女性の方が平和的である。日本の女性たちの平和を大事にしている気持ちを聞いて欲しい。また、日本の女性は日本国憲法を世界に広めて欲しい」。私も日本女性として努めていきたい。

「女性二〇〇〇年会議」はスタートから各国の実情の違いから厳しい状況にあると、ブリーフィングで報告されていた。後退だという意見もあった。しかし、NGOの力で、予定を一日延ばして各国政府のとるべき行動目標が「成果文書」として採択された。国内でも、自分の周辺でも、女性を取り巻く状況は厳しい。不条理と感じることを一つ一つ具体的に解決に向かって努力するしか道はない。

女性二〇〇〇年会議を体感して

小柴久子

私は、ナイロビ会議の時も、北京会議の時も、その時々の時、それなりの行けない理由を自分で作っていました。今回のニューヨークでの会議では、NGOフォーラムは開かれないが、国内の何人かの二〇〇〇年会議を見守るべきという声で「北京＋5グローバルフェミニストシンポジウム」なるものが開催されることになり、県内の人に呼びかけるという、後に引けない状況に追い込むことによつて、やっとニューヨークに行く決意ができました。この「北京＋5グローバルフェミニストシンポジウム」は、日本の女性たちが、アメリカの女性たちの協力を得て開催できたシンポジウムです。ちょうど一年前の八月にこの案を聞いた時、夢物語のようでした。これを実現させた実行委員の皆様のご努力には頭が下がる思いです。決して希望を捨ててはいけません。あきらめないんだ、ということ、この会に教えられました。

私たちのワークシヨップは、「女性と紛争」に取り組むことにしました。とても重い課題でしたが、「一般市民の戦争

は嫌だ」という感覚を表現することで取り組みました。私は、今まで出会った斎藤千代さんから学んだ湾岸戦争の実態、横田耕一先生から学んだ憲法問題、カンボジアに派遣されたPKO論議、ベアテ・シロタ・ゴードンさんの日本国憲法に女性の権利を書き入れるまでの話、今の憲法議論などすべてを結びつけて考えましたが、国際的な訴えとしては、不十分に終わってしまいました。

語学力、国際社会に通用する表現方法など多くの課題が見えてきました。

また、ニューヨークという巨大なジャングルの中で彷徨しながら、的確な情報を手し、自分の力で問題を解決していかなければなりませんでした。失敗だらけでしたが、あちこち、さ迷っているうちに、NGOとしての動きかたが少し分かったような気がします。最後の日に国連周辺を歩いていて、NGOとして何をすればいいのかのヒントを得ました。ベトナム戦争で韓国兵たちは、味方の米軍から枯れ葉剤を撒かれ、ガンによって足首切断、下半身切断、皮膚病、子どもが二重胎児、虚弱児等を写真やパネルで訴えていました。このように、国連周辺にパネルを持って立つだけでも、世界各国の女性たちと意見交換、交流、政府

代表团にもアピールすることは十分できることを教えてくれました。シンポジウムやワークショップばかりではなく、時にはこのような行動も必要だということがわかりました。

日本政府とのブリーフィングが企画されましたので、参加しました。二〇〇〇年会議がどのように進み、どこで難航しているのが具体的によくわかりました。しかし、一団体一人という登録者や、登録者以外入れないという限定や、時間に追われて報告中心という傾向がみられました。多くのNGOが参加できる会議にしていくな必要を痛感しました。そのような事を感じた八日間でした。



ニューヨーク市立図書館の前で

国連特別総会「女性二〇〇〇年会議」(二〇〇〇年六月五日～十日)の
アドホック全体会合に関する報告書(二〇〇〇年九月公表)から

総理府仮訳

(二〇〇〇年十一月十五日)

北京宣言及び行動綱領実施のための 更なる行動とイニシアティブ(いわゆる「成果文書」)

第一章 前文

1、今回の特別総会に参集した各国政府は、一九九五年の第四回世界女性会議で採択された北京宣言及び行動綱領―同会議の報告書に記載されている―に掲げられた目標及び目的に対するコミットメント(関与)を再確認した。北京宣言及び行動綱領は、男女平等、開発、平和を目標に掲げ、女性のエンパワーメントに向けた課題を定めている。各国政府は、行動綱領の実施状況の検討と評価を行い、実施に当たって直面した障害及び現在の

課題の特定を行った。各国政府は、行動綱領に掲げられた目標やコミットメント(関与)は十分な実施・達成には至っていないことを認識し、その実施速度を上げ、男女平等・開発・平和というコミットメント(誓約)を完全に実現するため、地方、国内、域内、国際レベルで更なる行動とイニシアティブを進めることに合意した。

2、北京行動綱領には、女性の地位向上とエンパワーメントを達成するために優先的に取り組むべき十二の重大問題領域が明記された。婦人の地位委員会は、こ

の十二の各重大問題領域の実施状況を検討し、その達成の速度を上げるため、一九九六年以来合意結論や勧告を採択してきた。行動綱領は、こうした合意結論や勧告とともに、二十一世紀における男女平等、開発、平和の達成に向けた更なる前進を目指した取組の基礎となるものである。

3、行動綱領の目的はあらゆる女性のエンパワーメントにあり、それはまた国際連合憲章及び国際法の目的や原則に全面的に合致するものである。女性のエンパワーメントのためには、あらゆる女性の

あらゆる人権及び基本的自由の完全な実現が不可欠である。国、地域の特異性及び種々の歴史的、文化的及び宗教的背景の重要性は考慮されなければならないが、あらゆる人権及び基本的自由の保護・促進は、その政治的、経済的及び文化的制度の如何を問わず、国家の義務である。あらゆる人権及び基本的自由に従い、

国内法並びに戦略、政策、事業及び優先開発事項の策定等を通じての、行動綱領の実施は、各々の国家の至上の責任であり、個人及びその属する地域社会の様々な宗教的・倫理的価値観、文化的背景及び哲学的信念の重要性並びにそれらの全面的な尊重は、女性の人権の完全な享受及び、平等、開発、平和の達成に資するものでなければならない。

4、行動綱領では、世界中の男女平等という共通の目標に向けて男性と共に連携して働くことによってのみ取り組むことができる共通の関心事を女性は分かち

持っていることが強調されている。行動綱領は女性の状況及び条件の多様性を全面的に尊重し評価するとともに、そのエンパワーメントを阻む特別の障害に直面している女性たちもいるという認識を表明している。

5、行動綱領は、女性が人種、年齢、言語、民族、文化、宗教又は障害といった要因のため、また先住民女性その他の立場のために、完全な平等及び地位向上を阻む障害に直面していることへの認識を示している。多くの女性が、特にひとり親などのような家庭状況、また、農村地域、孤立した地域若しくは貧困地域における生活状態を含む自らの社会経済的地位に関連した特別の障害に遭遇している。難民女性、国内避難民女性を含むその他の避難民女性並びに移民女性及び移住労働者を含む移民女性に対しては、更なる障害が加わる。多くの女性はまた、環境災害、重病及び感染性疾患、並びに

女性に対する様々な形の暴力によって特別に影響を被っている。

第二章 行動綱領の十二重大問題領域実施に関する成果と障害

6、北京行動綱領及び十二の重大問題領域に関して表明されたコミットメント（誓約）については、各国の報告書に記載されている各国が採った措置やその結果、事務総長の報告書、特別総会の準備のために開催された五つの地域会議の結果・結論・合意及びその他の関連情報の内容の検討を通じて、その成果と障害が評価されなければならない。そして、そうした評価から明らかになったことは、重要な前向きの進展も認められるものの、一方で、障害も依然として存在しており、北京で掲げられた目標やコミットメント（誓約）の更なる実施が必要であるという点である。このように、これまでの成果及びいまだ未解決の、あるいは

新たに生じた障害を概観することによって、障害を克服するためには更にどのような行動やイニシアティブが必要なのかを明らかにし、あらゆる分野・あらゆるレベルにおいて行動綱領を完全に、また一層速度を上げて実施するため、求められる世界規模の枠組みを明らかにすることが可能となりうる。

A 女性と貧困

7、成果…貧困問題にはジェンダーの側面があるということ、及び特に貧困の女性化に関連し、貧困の撲滅には男女平等が非常に重要な要因となっているということについての認識が大きく高まった。

各国政府は非政府組織（NGO）と協力し、貧困撲滅のための政策や計画にジェンダーの視点を組み入れる努力をしてきた。多国籍・国際・地域金融機関も、自らの政策にジェンダーの視点を組み入れることに一層関心を払うようになってい

る。また、女性のための雇用及び所得創出活動の促進並びに教育や保健医療を含む基本的社会サービスへのアクセスの提供という二つのアプローチの採用が成果を上げている。女性を対象としたマイクロクレジット（少額融資）その他の金融手法が経済的エンパワーメントを成功させる戦略として登場してきており、農山漁村を始め貧困の中に暮らす一部の女性の経済的参画の機会が高まっている。政策策定では、女性が世帯主となっている世帯が抱える特有のニーズを考慮するようになってきている。また、調査を通じて、貧困が男女に与える影響の違いに関する理解が深まり、こうした評価に役立つ手法が開発されている。

8、障害…男女間の経済格差の拡大には、所得格差、失業、最も弱く疎外されたグループの貧困レベルの深刻化など、多くの事情が起因している。なかでも債務負担、国家の安全保障に要する以上の

過剰な軍事費、国際法や国際連合憲章に反する一方的措置、武力紛争、他国による占領、テロリズム、低レベルのODA及び先進国のGNPの〇・七%を政府開発援助全体に、そして〇・一五%から〇・二%を後発途上国に拠出するよう努力するという国際的な合意目標の未達成、資源の有効利用の欠如、その他の要因が、国の貧困撲滅努力の制約となっている。

また、経済力の男女不平等や格差、男女間の無償労働の不平等な分布、女性起業家に対する技術支援や金融支援の欠如、特に土地や信用供与といった資本に対するアクセスや管理の不平等、労働市場への参入における不平等、あらゆる有害な伝統的習慣的慣行なども女性の経済的エンパワーメントの達成を阻んでおり、貧困の女性化を悪化させている。基本的な経済の再建が行われている移行期経済の国では、女性のエンパワーメントを目指す貧困撲滅計画に回す資源が欠如するという事態に直面している。

B 女性の教育と訓練

9、成果…教育は、男女平等と女性のエンパワーメント実現のためのもつとも貴重な手段の一つであるという認識が高まっている。特に政治的コミットメント（関与）や資源配分に十分に恵まれているケースでは、あらゆるレベルで女性や少女に対する教育や訓練が進展した。先住民社会その他不利な立場に置かれ疎外された集団の女性や少女に、あらゆる分野の学習、特に非伝統的な分野の学習を行うことを奨励し、また、教育・訓練からジェンダーによる偏見を取り除くための、代替教育・訓練システムに着手する措置があらゆる地域で講じられた。

10、障害…一部諸国では、女性や少女の非識字を一掃し、識字能力を強化し、女性や少女がレベルや種類を問わずあらゆる教育を受ける機会を増やす努力は、資

源の不足や教育の基盤整備改善及び教育改革実施を目指す政治的な意志やコミットメント（関与）の不足、教員研修の場などにおける根強い男女差別や性別による偏見、学校や高等教育機関、地域社会における職業に関する固定的な性別役割分担意識、保育施設の不足、相変わらず教材に登場する固定的な性別役割分担意識、女性の高等教育機関への進学と労働市場のダイナミクスとの関係に対して払われる関心の低さなどが障害となつて十分成果を上げることができなかった。また、一部地域は遠隔地であることや、またある場合には給与や手当が不十分であるために教員を確保し、つなぎとめておくことが難しく、質の低い教育に甘んじている例もある。また、経済的・社会的・構造的障害や伝統的差別慣行が、少女の就学率や学業継続率に影響している国も多い。一部途上国では非識字の一掃にほとんど前進が見られず、経済的、社会的、政治的レベルにおける女性の不平等が悪

化している。こうした国の中には、構造調整政策の内容や適用が不適切であるために、教育基盤整備に対する投資が削減され、教育部門に特に厳しい影響が出ている例もある。

C 女性と健康

11、成果…女性の生涯を通じたあらゆる側面に対応する保健計画の必要性について、政策決定者及び政策立案者間の認識を育む計画が実施され、多くの国で平均寿命が伸びた。マラリアや結核、水を媒介とする疾病、伝染病や下痢、栄養失調に対する関心の高まり、行動綱領のパラグラフ94及び95に記載されている女性のセクシユアル／リプロダクティブ・ヘルス及びリプロダクティブ・ライツへの関心の高まりや、一部諸国では行動綱領パラグラフ96の実施の更なる強調、家族計画や避妊法の知識の高まりや利用の増加、そして家族計画や避妊法やその利用

における男性側の責任に関する男性側の認識の高まり、ヒト免疫不全ウィルス／後天性免疫不全症候群（HIV／AIDS）などの性感染症、及びかかる感染症の予防方法に対する女性や少女の関心の高まり、母乳哺育、栄養、母子の健康に対する関心の高まり、保健及び保健関連教育や身体活動や、たばこ・麻薬・アルコールなどの薬物中毒に対するジェンダー特有の予防・リハビリプログラムへのジェンダーの視点の導入、女性の精神衛生、職場における健康、環境への配慮や女性高齢者特有の健康ニーズの認識に対する関心が高まった。一九九九年六月三十日から七月二日にかけて、ニューヨークにおいて開催された第21回国連特別総会は、女性の健康分野における成果を見直し、ICPD（国際人口・開発会議）行動計画（注8）の更なる実施に向けての主要な行動（注7）の採択を行った。

12、障害…世界的に、富裕国・貧困国間、

及び富裕国・貧困国に乳児死亡率及び妊産婦死亡率・疾病率の格差があること、ヒト免疫不全ウィルス／後天性免疫不全症候群などの性感染症、その他のセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスの問題、マラリアや結核、下痢や水を媒介とする疾病といった風土病や感染症や伝染病、あるいは非伝染性の慢性疾患に対して女性や少女が特に弱い立場にあることを考慮すれば、女性や少女の健康に対する処置に格差があることは、いまだに容認できるものではない。一部諸国では、こうした風土病や感染症・伝染病によっていまだに多くの女性や少女の生命が奪われている。また、心／肺疾患、高血圧、変性疾患といった非伝染性疾患がいまだに女性の死亡や疾病の大きな原因となっている国もある。妊産婦死亡率・疾病率については改善が見られた国もあるが、いまだに大半の諸国で容認できないほど高い。基本的な産科医療に対する投資がいまだに十分でない国も多い。生涯を通

じて可能な限り最高水準の心身の健康を享受するのは女性の権利であるとの前提に立った全体的な取組が、女性や少女の健康や保健医療に関して欠如していることが、この分野における進展を妨げている。考えうる最高水準の心身の健康を享受する女性の権利を侵害する障害に直面している女性もいる。また、保健医療制度が、最善の健康を維持することよりも疾病治療を圧倒的に重視していることも全体的取組の妨げとなっている。一部諸国では、健康が社会的・経済的決定要素として果たす役割に関する配慮が不足している。清潔な水、十分な栄養、安全な衛生設備へのアクセスの欠如、ジェンダーに特化した健康に関する研究や技術の欠如、環境的及び職業的な健康障害関連のものも含む、保健情報や保健医療サービスの提供に際してのジェンダーに対する配慮不足が、途上国及び先進国の女性に影響を与えている。依然として多くの途上国では、貧困と開発の遅

れにより質の高い医療を提供し拡充することができないでいる。特に途上諸国では、財源や人材の不足により、また保健部門の再編や場合によっては医療制度の民営化が進んだことにより、医療サービスの質が低下し、サービスの縮小・不足を招くとともに、最も弱い女性集団の健康に対する関心の低下も招いている。多くの場合、男女の力関係が平等でなく、女性が安全で責任ある性習慣を主張する権限を持たないことや、また特に女性の健康を守るニーズに関する男女間のコミュニケーションや理解が欠如しているといったことが障害となつて、HIV/AIDSを含む性感染症の有病率が高まるなど、女性の健康が脅かされており、またとりわけ予防に関連するヘルスケアや教育への女性のアクセスが難しくなっている。思春期の若者、特に思春期の少女は、依然としてセクシユアル／リプロダクティブ・ヘルスに関する情報、教育サービスを利用することができない。女

性は保健医療の対象として、多くの場合、敬意をもつて扱われることも、プライバシーや秘密保持を保障されることもなく、また、選択肢や利用可能なサービスに関する情報も十分には与えられない。場合によっては、保健サービス及びその従事者が、女性への保健医療サービスの提供時に、人権にのつとつた、倫理的かつ専門的でジェンダーに敏感な基準を遵守しない、あるいは責任ある自発的なインフォームド・コンセントを保証しないという場合もある。また、セクシユアル／リプロダクティブ・ヘルスケア、妊産婦及び産科救急医療に対する十分な注意を含む、適切で、料金が手頃で質の高いプライマリ・ヘルスケアが利用できるかどうか、またどのように利用できるかについての情報がなく、乳癌・子宮頸癌・卵巣癌・骨粗しょう症の予防診断や検診や治療を受けられないという状況が続いている。男性用避妊薬の試験や開発もいまだに十分ではない。行動綱領のパラグ

ラフ106(j)及び106(k)に盛り込まれている、危険な中絶が健康に及ぼす影響と中絶への依存を減らす必要性に関する行動については、一部諸国でいくつかの対策が講じられているものの完全実施に至っていないと言えない。女性、特に若い女性の喫煙率が増加し、癌その他重い病にかかるリスクや、たばこや間接喫煙によるジェンダー特有のリスクが増加している。

□ 女性に対する暴力

13、成果・女性や少女に対する暴力は、それが公共の場で発生するか私的な場で発生するかを問わず、人権の問題であることは広く受け入れられている。女性に対する暴力は、国家またはその機関によつて犯された又は容認されたものであつても、人権侵害であるということが認識されてきている。暴力行為が国家によつて犯されたものであれ私人によつて

犯されたものであれ、しかるべき勤勉さをもって、それらの行為を防止し、調査し、処罰するとともに、被害者を保護する義務を国家が有することが認識されてきている。ドメスティック・バイオレンスなど、女性や少女の人権や基本的自由の享受を侵害するとともに、これを享受することを妨げ、または不可能ならしめる、女性や少女に対する暴力を、特に法律や政策、計画の改善によって防止し、なくそうという認識やコミットメント

(関与) が広がっている。各国政府は、暴力に対処するために部局間委員会、ガイドライン及び規定並びに国内の相互・共同計画といった政策改革や仕組み作りに着手している。また、あらゆる形態の暴力から女性や少女を保護する法律や加害者を訴追できる法律を導入又は改正した政府もある。女性に対するあらゆる形態の暴力は女性や少女の健康に深刻な影響を及ぼすという認識が、あらゆるレベルで浸透してきている。この問題の解決

に当たっては、医療提供者（ヘルスケアプロバイダー）が重要な役割を果たすことみなされている。法的サービスや、シェルター、特別医療サービス、カウンセリング、ホットライン、特別な訓練を受けた警察の部署など、虐待された女性及び子供を対象としたサービスの提供で前進が見られる。法執行官、裁判官、医療提供者、福祉担当者の教育が推進されている。女性向け教材の作成、一般を対象とした意識啓発キャンペーンの展開、さらには暴力の根本原因に関する研究が進められている。男性及び少年の役割を始めとするジェンダーの役割、女性に対するあらゆる形態の暴力、及び暴力が振るわれる家庭で育つ子供の状況や、そうした環境で育つ子供への影響に関する調査や専門研究も増えている。女性に対する暴力防止の領域では、政府とNGOの協力の成功例もある。女性団体やNGOを始めとする市民団体の積極的支援が、意識啓発キャンペーンの推進、暴力の犠牲と

なった女性に対する支援サービスの提供という点で特に重要な役割を果たしている。女性に対する暴力の一形態である女性性器切除など有害な伝統的慣行の撲滅に向けた努力については、国内的、地域的及び国際的な政策支援が行われている。多くの国が、教育・福祉計画、及び有害な伝統的慣行を違法とする法的措置を導入した。また、こうした支援の一環として、国連人口基金によって女性性器切除撲滅特別大使が任命されている。

14、障害…今なお女性は様々な形態の暴力の被害者である。女性や少女に対するあらゆる形態の暴力の根本原因に関する理解が不十分であることが、女性や少女に対する暴力根絶の妨げとなっている。適当な場合には、暴力によらずに問題を解決できるようにする計画を行うなど、加害者を対象とした包括的な計画が欠如している。また、暴力に関するデータも不十分で、情報に基づいた政策や分析が

できない。差別的な社会文化的風潮や経済力の差が、社会において女性を従属的立場に追いやっていく。こうした土壌があるため、女性や少女は、殴打、家庭内の女兒に対する性的虐待、持参金に関連した暴力、夫婦間のレイプ、女性性器の切除その他女性に有害な伝統的習慣、配偶者以外による暴力及び搾取絡みの暴力を含む、家庭内で起こる肉体的、性的及び心理的暴力といった、様々な形の暴力を受けやすくなっている。医療制度、職場、メディア、教育制度、司法制度間の暴力に対する調整を図った学際的取組が、まだあまり進んでいない国が多い。夫婦間の性的暴力を含むドメスティック・バイオレンスがいまだに私的な問題として扱われている国もある。ドメスティック・バイオレンスの影響、その防止方策及び被害者の権利に対する認識がいまだ不足している。改善はしているものの、ドメスティック・バイオレンスや児童ポルノなど女性や子供に対する様々

な形の暴力根絶のための、特に刑事司法における法的及び立法的措置が弱い国が多い。また、依然として予防戦略が統一性を欠き事後対応的である上に、こうした問題に対応する計画が欠如している。また、女性や子供のトラフィックング（人の密輸）やあらゆる形態の経済的・性的搾取のために、新しい情報・通信技術が利用されることから問題が発生している国があることも報告されている。

E 女性と武力紛争

15、成果…男性と女性は、武力紛争により、それぞれ異なる破壊的影響を受けるということ、また国際人権法や国際人道法の適用に当たってはジェンダーに配慮した取組が重要であるということについて認識が高まっている。武力紛争下での女性に対する犯罪が罪に問われないという現状を見直そうとする気運の高まりなど、女性に対する虐待への対策が、国内・

国際レベルで講じられている。旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所及びルワンダ国際刑事裁判所は、武力紛争下での女性に対する暴力を取り上げたという意味で重要な役割を果たした。また、レイプ、性的奴隷、強制的売春、強制的妊娠、強制的不妊その他の形態の性的暴力は、武力紛争の状況下で行われれば戦争犯罪であり、一定の状況では人道に対する罪であると規定した点で、国際刑事裁判所ローマ規程（注9）の採択は歴史的意義を有するものである。平和構築、平和建設、紛争解決への女性の貢献についての認識が高まりつつある。暴力手段によらない紛争解決のあり方についての教育や研修が行われるようになってきた。また、難民女性の保護に関するガイドラインの普及と実施、避難民の女性のニーズに対する対応についても前進が見られる。難民認定の根拠としてジェンダーに基づく迫害を認めている国もある。各国政府、国際社会、国際機関、特に国連は、女性と男

性では経験する人道上の非常事態が異なることを理解しており、ジェンダー特有の虐待被害など、あらゆる形態の虐待の被害者を含む、難民・避難民女性に対する全体的サポートを強化し、適切かつ十分な食糧と栄養、清潔な水、安全な衛生設備、避難所、教育及びリプロダクティブ・ヘルスや母子保健を含む社会・保健サービスへの平等なアクセスを確保することが必要である。また、人道援助の立案、企画、実施にはジェンダーの視点を組み入れ、十分な資源の手当てをすべきであるとの認識も高まっている。人道援助の提供、並びに適当な場合、人道上の緊急事態、紛争下及び紛争後の状況にある難民・避難民の女性や少女を含む女性や少女のニーズに対応する計画の企画や実施の面で、人道援助機関や非政府組織を含む市民社会がますます重要な役割を果たすようになっていく。

16、障害・平和は、女性と男性の平等や

開発と解き離れがたく関連し合っている。武力その他の紛争、侵略戦争、他国による占領、植民地その他外国による支配及びテロリズムが、依然として女性の地位向上の大きな妨げとなっている。武力紛争時の、国家や国家以外の関係者による、女性や子供などの市民の標的化、強制退去、国内法や国際法に違反した子供の徴兵は、男女平等及び女性の人權に特に悪影響をもたらしている。女性が世帯主となっている世帯は、生活が貧しい場合が多いが、武力紛争が発生すると、そうした家族が多数生まれたり、そうした家族の生活が悪化したりする。平和維持、平和構築、紛争後の調停、再建のための事務総長特別使節や特別代表など、あらゆるレベルでの意思決定における女性の参加が少ないこと、及びこうした領域でジェンダーに対する認識が欠如していることが大きな障害になっている。また、十分な資源の供給、資源の適切な配分ができず、増加する難民―女性や子供

がその大半を占める―や、とりわけ大量難民を受け入れている途上国のニーズに対応できないでいる。つまり、増加する難民の数に国際援助が追いついていない状態である。国内避難民の増加、そして特に女性や子供を始めとする国内避難民のニーズに対する対応が、依然として関係国及び関係国の財源に二重の負担となっている。女性の心の深い傷を癒す具体的な計画や技能訓練の不足など、武力紛争下の女性又は難民女性のニーズを扱う担当者の訓練が十分に行われていないことは依然として問題である。

17、国家安全保障上の観点からの、世界的軍事費を含む過剰な軍事支出、武器取引及び武器生産への投資により、社会・経済開発に配分されるべき資金、とりわけ女性の地位向上に向けられるべき資金が配分されてこない。複数の国で、経済制裁が市民、とりわけ女性と子供に社会的・人道的影響をもたらしている。

18、また、一部の国では、国家間の貿易関係の障害となり、影響を被る国の国民、特に女性及び子供の経済的・社会的開発の完全な達成を阻み、彼らの安寧の妨げとなる、国際法及び国連憲章に違反した一方的措置により女性の地位の向上はマインナスの影響を受けている。

19、武力紛争下では、国際人権法及び国際人道法の基本原則に抵触する女性に対する人権侵害が今でも横行している。武力紛争下では、性的奴隷、レイプ、組織的レイプ、性的虐待、強制的妊娠など、女性に対するあらゆる形態の暴力が増加している。強制移住は、家や財産の喪失、貧困、一家の分裂・離散その他武力紛争がもたらす結果とあいまって、国民、特に女性や子供に重大な影響を与えている。また、少女も、国際法に違反して誘拐又は徴用され、戦闘員、性的奴隷、又は家事提供者として武力紛争の場に連れ出されている。

F 女性と経済

20、成果…女性性は労働市場への参入が増えたことに伴い、経済的自立も獲得するようになった。いくつかの国では、女性の経済的・社会的権利や、経済的資源への平等なアクセス・管理、雇用における均等の保障を目的とした様々な対策打ち出している。その他、国際労働条約の批准、国際労働条約に則った法律の制定や強化といった措置も採られてきた。仕事と家族としての責任を両立することの必要性や、母親の出産休暇、父親の配偶者出産休暇、さらには親の休暇、保育や介護サービス、手当といった施策の有効性についての認識も高まってきている。いくつかの国では、職場における差別的で、礼を欠いた行為への対策や、不健全な職場環境を防止する措置を採るとともに、科学的・技術的技能や意思決定などを含む、起業、教育・訓練における女性

の役割を推進するため、必要な資金調達体制を整備した国もある。有償労働と無償労働の関係など、女性の経済的エンパワメントを妨げる障害に関する研究が行われており、この評価を裏付ける手法が開発中である。

21、障害…マクロ経済政策の形成にジェンダーの視点を導入することの重要性について、いまだ広く認識されていない。今でも多くの女性が自給生産者として農山漁村やインフォーマルな分野（非公式経済）で働いたり、社会保障もほとんどない低所得のサービス部門で働いている。男性と同等の技能や経験を持つ女性の多くが、公式部門では男女の賃金格差に直面しているとともに、昇給や昇進で男性に遅れをとっている。男女の同一労働同一賃金又は同一価値労働同一賃金は、まだ完全に実現したと言える状況はない。職場における採用や昇進、及び妊娠検査の実施など妊娠に絡む男女差別、

セクシュアル・ハラスメントも依然として存在する。相続権の取得などから生じる土地その他の財産に対する所有権を、

完全かつ平等に享受する権利を、国内法でまだ女性に認めていない国もある。母性と家庭責任に配慮した体制や施策が欠如しているため、多くの場合、女性が専門的職業を積み重ねることは男性に比べて依然として難しい状況である。根強い固定的な性別役割分担意識が、男性労働者の父親としての地位の低下や、仕事と家庭責任を両立するようにとの男性に対する働きかけの不足を招いている場合もある。仕事の体制に関して家族に優しい政策が採られていないことが、こうした問題を助長している。法律や現実 に即した支援システムがいまだに十分効果的に運用されていない。男性側が仕事や責任の分担を相応に引き受けるようにならない限り、有償労働と家族、世帯、地域の世話との二重負担が女性に不均衡にのしかかる状況は変わらない。いまだに無償

労働の大半を担っているのもまた女性である。

G 権力及び意思決定における女性

22、成果：政府間・政府・非政府部門を含む意思決定及び権力のあらゆるレベルとあらゆる場で女性が全面参加することの社会にとつての重要性が、次第に認識されてきている。こうした場で、女性がより高い地位を獲得している国もある。一部の国におけるクオータ割当て制度、自発的同意や、評価可能なゴールやターゲット（目標）の設定を含め、ますます多くの国が、積極的改善措置（アフアーマティブ・アクションやポジティブ・アクション）政策の適用、女性のリーダーシップ養成のための研修計画の策定、そして男女がともに家庭と仕事の責任を両立するための手段の導入を進めている。女性の地位向上を担当する国内体制・国内本部機構や、女性の政治家、議員、活動家

及び各分野の専門家による国内・国際ネットワークが、設立され、あるいは充実強化されてきている。

23、障害：あらゆるレベルの意思決定機関におけるジェンダーバランスの必要性について一般的に認識が定着してきているにもかかわらず、法律上の平等と事実上の平等の間にはいまだに開きがある。法律上、男女平等には目覚ましい改善が見られるが、実際には、国内的にも国際的にも、最高レベルの意思決定の場への女性の参加は一九九五年の第四回世界女性会議の時からそれほど変わっていない。また、とりわけ、政治、紛争防止・紛争解決機構、経済、環境及びメディアなどあらゆる領域における意思決定の場への女性の参加は極めて少なく、こうした影響力の大きい分野へジェンダーの視点を組み入れる上での妨げとなっている。また、立法機関、大臣、次官レベル及び企業その他経済・社会機関の最高レベルに

H 女性の地位向上のための制度的な仕組み

位置する女性は依然として少ない。伝統的な性別役割分担意識が、女性の教育やキャリアの選択を狭め、家事責任の負担を女性に課している。あらゆる女性をあらゆる政治的意思決定の場に参加できるようにする組織や政治機構のほかに、政治家養成の訓練や啓発に必要な人材や財源、社会における女性に対するジェンダーに敏感な態度や、場合によっては意思決定に携わろうとする女性の意識、選挙によって選ばれた公務員及び政党の、男女平等推進及び公共生活への女性参加の促進に向けての説明責任、意思決定過程へのジェンダーバランスの取れた参加の重要性に対する社会の認識、男性側の女性と権力を分かち合う意思、女性NGOとの十分な対話や協力の欠如が、意思決定過程への女性の参加促進を目指すイニシアティブ（先導的取組）や計画の障害となってきた。

24、成果…国内本部機構は男女平等やジェンダーの主流化を促進し、行動綱領や、また多くの場合女子差別撤廃条約（注10）の実施状況を監視する「触媒」的機能を果たす制度的基盤として設置され、強化され、位置付けられてきた。多くの国で、国内本部機構の認知度、地位、範囲、活動の調整に前進が認められた。ジェンダーの主流化は、男女平等推進政策の効果を高めるための戦略として広く認知されてきた。この戦略の目標は、あらゆる立法政策、計画、プロジェクトにジェンダーの視点を組み入れることにある。国内本部機構は、財源が限られているにもかかわらず、ジェンダーの研究分野における人材育成に多大な貢献をしており、また、性別・年齢別データの作成や普及、ジェンダーを意識した研究やドキュメンテーション

ション（文書管理）への取組強化に貢献をしてきた。国連システムにあつては、手法の開発や、ジェンダーに関するフォーカル・ポイントの設置など、ジェンダーの視点の主流化に大きな進展を見ている。

25、障害…多くの国の国内本部機構では、財源不足、人材不足、政治的意志やコミットメント（関与）の欠如という大きな障害に直面している。政府組織内の男女平等やジェンダーの主流化に関する理解不足、固定的な性別役割分担意識のまん延、差別的態度、政府内の優先事項の競合、また国によっては不明確な権限、国の政府組織における中心から外れた位置付け、多くの分野における性別・年齢別データ不足、進ちよく状況の評価方法の不徹底な適用、及び権限不足と市民社会との不十分な連携が状況をさらに悪化させている。また、政府部局内及び政府部局間の構造的な問題やコミュニケーション

シヨンの問題も、国内本部機構の活動を妨げる要因となった。

Ⅰ 女性の人権

26、成果…あらゆる形態の差別を禁止する法律改正が実施され、婚姻や家族関係あらゆる形態の暴力、女性の財産権や所有権、女性の政治、職業、雇用権を規定した民法、刑法、属人法の差別的条項が撤廃された。政策的措置の採用、執行・監視体制の改善、あらゆるレベルにおける法識字・啓発キャンペーンの実施などの環境作りを通じて、女性が自らの人権を事実上享受することが可能となるよう、各種措置が講じられてきた。女子差別撤廃条約の批准・加盟国は一六五か国に上り、女子差別撤廃委員会は、同条約の完全実施の促進を図ってきた。第54回総会では、女子差別撤廃条約の選択議定書（注11）が採択され、同条約が規定するあらゆる権利に関し、締約国に権利を侵害

されたと主張する女性は、女子差別撤廃委員会に申し出ることができることとなったが、非政府組織による意識啓発や支援活動がこの選択議定書の採択の実現に貢献をした。また、女性NGOは、女性の権利は人権であるという認識の啓発にも貢献している。彼らは国際刑事裁判所ローマ規程へのジェンダーの視点の組み入れにも支援活動を展開した。また国連人権高等弁務官や人権委員会の活動を含む、国連組織への女性の人権の統合、ジェンダーの視点の主流化についても成果があった。

27、障害…男女差別その他あらゆる形態の差別、特に人種主義及び人種差別、排外主義やそれに関連する不寛容により、女性による人権及び基本的自由の享受が脅かされる状況が続いている。武力紛争や他国による占領下で、女性の人権は広範囲にわたって侵害されている。多くの国が女子差別撤廃条約を批准したが、二

〇〇〇年までにあらゆる国による批准を実現するとした目標は達成されておらず、同条約へは依然として大量の留保が付されている。男女平等を受け入れる土壌は着実に育っているものの、同条約の条項を完全実施していない国も多く、また差別的な法律や有害な伝統的習慣的慣行、男女の固定的役割意識は依然として存在している。家族法、民法、刑法、労働法及び商法並びに行政規則や規定へジェンダーの視点が完全に組み入れられたとはいまだ言えない。法律や規制にギャップがあり、また法律や規制の実施や執行がなされないため、事実上も形式上も不平等や差別が永続化している。多くではないが、女性に差別的な法律が施行された例もある。また、多くの国では、非識字、法識字や情報・資源の欠如、ジェンダーの視点の欠如や女性への偏見、女性の人権や人間の尊厳・価値に対する敬意の念に欠けがちな法執行官や裁判官の、女性の人権に対する認識の欠如と

いった理由により、女性が法律を十分に活用することが難しい状況にある。リブログクティブ・ライツについては行動綱領パラグラフ95の記述にもあるように、人権の一部を成す権利であるが、女性や少女のリブログクティブ・ライツへの認識はいまだ不十分であり、彼らによるこの権利の完全享受を実現するには、多くの障害が立ちはだかつている。また自らの人種、言語、民族、文化、宗教、障害又は社会経済階級等といった要因のために、あるいは先住民、女性移住労働者を含む移民、避難民又は難民であるがゆえに、正義や自らの人権を享受することができない女性や少女がいる。

J 女性とメディア

28、成果…地方、国内及び国際の各レベルで女性によるメディア・ネットワークが構築され、世界的な情報普及や意見交換、さらにメディアの仕事に携わる女性

団体への支援推進等に貢献をしている。情報通信技術、とりわけインターネットの発達により、知識の共有やネットワークキング、電子商取引活動の分野で貢献できる女性が増え、コミュニケーションの機会が改善され、女性や少女のエンパワメントも高まった。また、女性によるメディア組織やプログラムが増え、メディアへの女性の参加や、メディアにおける積極的な女性像の描写の促進という目的が達成されやすい状況となった。職業上の指針や自主規制を設けてメディアの番組で公正な男女の描写や性差別的意味合いのない用語の使用を奨励するなどして、否定的な女性像を排除する試みに成果を見た。

29、障害…ボルノグラフィや固定的性別意識に基づいた描写など、女性に関する否定的で、暴力的、品のないイメージが、時には新しい通信技術を利用して様々な形ではびこっており、また女性に対する

偏見が今なおメディアに残っている。女性によるインターネットを含む情報通信技術へのアクセスは、貧困、アクセスや機会の欠如、非識字、コンピュータを使いこなす能力の不足、言語の壁などのため、困難な状況となっている。特に途上国、その中でも女性にとつては、インターネットの基盤の開発やそれへのアクセスは限られている。

K 女性と環境

30、成果…国内の環境政策や計画にジェンダーの視点が組み入れられた例が複数ある。複数の政府が、男女平等、貧困撲滅、持続可能な開発、環境保護が相互に関連するものであることを認識し、国の開発戦略に天然資源管理、環境保護に関する訓練だけでなく、女性のための所得創出を目指した事業計画を盛り込んでいる。生態に関して先住民女性が有している伝統的知識等、女性の生態についての

伝統的知識を保護・活用し、天然資源の管理や生物多様性の保存に利用しようというプロジェクトが実施に移されている。

31、障害…女性が直面している環境面でのリスクについて、また環境保護の推進には男女平等がプラスに作用するということについての一般市民の認識がまだ低い。特に途上国では、とりわけ男女差別などが原因となって、女性が技術的スキルや資源や情報を利用する機会に恵まれず、そのために女性は、持続可能な環境に関しての、国際レベルを含む意思決定に効果的に参加できていない。また、女性と男性に対する環境問題の影響や意味合いの違いについての研究、行動、ターゲット(目標)を定めた戦略、一般市民の意識啓発は依然として限られたものとなっている。環境悪化などの環境問題を根本的に解決するには、他国による占領といった問題の根本原因の解決に努力す

る必要がある。環境政策・計画におけるジェンダーの視点が欠けており、環境の持続性へ向けて女性が果たす役割や貢献への考慮がされていない。

Ｌ 女児

32、成果…よりジェンダーに配慮した学校環境の整備、教育基盤の改善、就学率・学業継続率の向上、思春期の妊婦や母親を支援する仕組みの整備、ノンフォーマル教育機会の増大、科学技術の授業への受講拡大が進んだおかげで、初等教育、そしてそれには及ばないものの中等教育や高等教育においても、少女に対する教育にある程度の前進が得られた。思春期世代のセクシユアル／リプロダクティブ・ヘルスなど、女児の健康に一層注意が払われるようになった。また、女性性器切除を禁止する法律を制定し、性的虐待、トラフィッキングその他商業目的のものも含め、女児に対するあらゆる形態

の搾取に関わった関係者に対する罰則を強化する国も増えた。最近の成果としては、児童の権利に関する条約の「武力紛争への児童の参加」(注12)及び「児童売買・児童買春及び児童ポルノ」に関する二本の選択議定書(注13)が採択されたことが挙げられる。

33、障害…依然として続く貧困、女性や少女に対する差別的態度、少女に対する否定的な文化的態度や慣行、少女の潜在能力を閉じ込める固定的な性別役割分担意識、女児が置かれている具体的な状況及び児童労働、並びに少女にのしかかる家庭内の重い負担に対する認識不足、栄養不良、保健サービスへの不十分なアクセス、教育や訓練の受講・修了を妨げることも多い資金不足といった要因が、少女が自信を持ち、自立・独立した大人になる機会や可能性を奪っている。貧困、親の支援や指導の欠如、情報や教育の欠如、女児に対する虐待及びあらゆる形態の搾

取や暴力は、多くの場合望まない妊娠や HIV/AIDSなどの性感染症への感染につながり、それらがまた教育への機会を制限している。女児を対象とした計画は、財源や人材の欠如・不足によって実施を妨げられている。女児を対象とした政策や計画を実施する既存の国内体制はほとんどなく、担当機関相互の調整についても場合によっては十分といえるものではない。思春期の若者のセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスのニーズなど、健康のニーズに関する認識は高まってはいるが、必要な情報やサービスを提供するまでには至っていない。また、法律による保護は進展しているが、女児に対する性的虐待や性的搾取は増加している。思春期の若者が、自分のセクシュアリティに積極的に、かつ責任を持って対処できるようになるため必要な教育とサービスがいまだ不足している。

第3章 北京宣言及び行動綱領完全実施に際して直面する新たな課題

34、急速な変化を遂げる世界情勢の中で、北京宣言及び行動綱領の実施状況に関する見直し及び評価が行われた。一九九五年以来、数多くの問題が顕在化し、また、男女平等、開発、平和の実現を指して、行動綱領を完全にまた速度を上げて実施しようとする各国政府、政府間機関、国際機関、民間部門や適当な場合 NGO に、更なる課題を突きつけるような新たな局面が台頭した。行動綱領の完全実施には、あらゆるレベルにおいて男女平等の達成に向けた政治的コミットメント(関与)が引き続き求められている。

35、グローバリゼーションは第四回世界女性会議の目標へのコミットメント(誓約)の実施や実現に新たな課題を突きつけた。グローバリゼーションによって、

いくつかの国では、より開かれた貿易と金融の流れ、国有企業の民営化がもたらされたが、多くの場合、特に社会サービスへの公共支出の削減をもたらした。これにより、生産パターンが変化し、情報通信分野での技術進歩の速度が速まり、女性は労働者としてだけでなく消費者としても生活に影響を受けた。多くの国特に途上国や後発開発途上国ではこうした変化が女性の生活にマイナスの影響を与えるとともに、男女の不平等を拡大した。こうした変化の男女に与える影響について系統立った評価がなされてこなかった。グローバリゼーションはまた文化的価値、ライフスタイル、コミュニケーションの形態、持続的開発の達成の意味合いにまで及ぶ文化的政治的社会的影響をもたらした。拡大化する世界経済の恩恵は公平に分配されたわけではなく、経済格差や貧困の女性化、男女不平等を加速し、特に非公式経済や過疎地域での労働条件や労働環境を悪化させた。グロー

バリゼーションにより、一部の女性はより大きな経済的機会や自立を得たが、その他の多くの女性は国内及び国家間における不平等が深刻化したため、この恩恵にあずかることなく疎外されていった。多くの国において、女性の労働力率が上昇しているものの、中には経済政策がマインナスに作用し、女性の雇用増大が給与や昇進、労働条件の改善を伴うまでには至っていない場合もある。多くの女性は依然として不安定で安全衛生上の危険を抱える低賃金労働、パートタイム雇用、契約労働に従事している。多くの国で女性、特に労働市場へ新規参入をする女性は、最初に解雇され、最後に再雇用される存在であり続けている。

36、国内及び国家間の経済情勢の格差の拡大が、経済の相互依存及び国家の外部の要因への依存の増大並びに経済危機とあいまって、近年、多くの国における経済の見通しに変化をもたらすとともに、

経済不安定要因を引き起こしており、その結果女性の生活に大きな影響をもたらしている。こうした難しい状況により、社会保護や社会保障を提供する国家の能力、並びに行動綱領を実施するための国の資金調達能力が阻害されてきた。このような問題は、社会保護・社会保障経費その他の福祉手当の負担が公的部門から家計に移転していることにも反映されている。国際協力による資金調達の度合いが低下しており、女性が最貧困層を占める多くの途上国や移行期経済の国がさらに顧みられなくなる状況を助長している。ODA総額を先進諸国のGNP比〇・七%にするという国際的に合意された目標はまだまだ達成されていない。その結果、ますます貧困の女性化が進行し、男女平等を達成するための努力が弱体化している。国レベルの資金調達が限られているため、政府のみならずNGOや民間部門にとっても既存資源の配分に革新的なアプローチを採用することが不可欠

となっている。こうした革新的アプローチの一つが公的予算のジェンダー分析であり、既存の資源を均等に配分するため、支出が男女にどのように異なる影響を与えるかを見定めるための重要な手法として浮上している。この分析は男女平等の推進に当たって不可欠なものである。

37、グローバリゼーション、構造調整計画、多額な対外債務、貿易条件の低下によっていくつかの途上国において開発への立ちはだかる障害がさらに悪化し、貧困の女性化が一層深刻化している。構造調整計画のマイナスの影響は、その不適切な計画と運用に起因しており、特に教育や保健分野等、基礎的社会サービスへの予算削減により女性は不均衡に重い負担を担う状況が続いている。

38、途上国のほとんどが直面している債務負担の増加は持続可能性を否定するものであり、人を中心に据えた持続可能な

開発や貧困撲滅を進める際の重大な障害のひとつとなっているという認識が広まっている。多くの途上国や移行期経済の国にとって、重債務は、社会開発を進め基礎的サービスを提供する国の能力を厳しく制約するものとなっており、行動綱領の完全実施に影響を与えている。

39、移行期経済の国では女性には経済再編の余波を受け、また不況時には最初に職を失う者として最も厳しい苦境に直面している。これら女性には急速な成長分野から締め出されている。これらの国の女性には、国営の職場の廃止や民営化に起因する育児施設の不足、高齢者介護の必要性の増大と対応施設の不足、再雇用のための訓練機会やビジネス参入、あるいは事業拡大に必要な生産用資産の利用機会への継続的不平等という障害に直面している。

40、開発の基本的構成要素である科学技

術は、生産パターンを変容させ、雇用創出や、新しい職種、働き方を生み出し、知識を基盤とする社会の確立に貢献している。技術変化は、平等なアクセスの機会と十分な研修さえ受けられれば、あらゆる分野であらゆる女性に新たな機会をもたらさう。女性自身もまた、こうした技術変化に関連する政策の定義、立案、開発、実施、ジェンダーの視点からの影響評価に積極的に関与することが求められる。世界中の多くの女性はいまだ、ネットワーク作り、啓発、情報交換、ビジネス、教育、メディア・コンサルテーション、電子商取引事業の領域で新しい通信技術を有効に活用している状況にはない。例えば、世界の何百万という最貧困層の女性及び男性は、依然として科学技術へのアクセスを持つておらず、またその恩恵にあずかることもなく、この新分野とそれがもたらす機会から排除されている状況である。

41、移住者の労働移動パターンが変化しつつある。農業や家事労働、何らかの形の娯楽産業を中心に、いろいろな仕事を求めて、国内的、地域的、国際的労働移住を行う女性や少女の数はますます増加している。このような状況は、女性の所得を得る機会を増やし、自立を助ける一方で、とりわけ女性が貧しく、教育も技能もなく、不法移民として入国している場合は、これらの女性を不十分な労働条件や、健康上の危険増大、トラフィックや経済的・性的搾取、人種主義、人種差別、排外主義、その他の形態の虐待の危険にさらすものであり、また彼らの人権の享受を損ない、時には人権侵害をもたらすことにさえる。

42、男女平等政策の推進及び実施に、最大の責任を有するのは各国政府であることを認める一方、政府と市民社会のいろいろな部門とのパートナーシップがこの目標達成への重要な仕組みであることへ

の認識が一層高まっている。この連携を強化するため新たな革新的アプローチの更なる開発が考えられよう。

43、いくつかの国においては、現在、少子化、平均寿命の伸びと死亡率の低下といった人口統計上の傾向が見られ、それが高齢化の進展や慢性的な健康問題を招いており、保健医療制度や保健医療に関する支出の問題、非公式な保健制度や研究の必要性を示唆するものとなっている。男女の平均寿命に格差があることから、夫に先立たれた妻や高齢の独身女性の数は大幅に増加しており、こうした女性達の社会的孤立やその他の社会的問題が生じている。社会が高齢女性の知識及び人生経験から得るものは大きい。また一方、現在の若い世代が人口に占める比率は歴史上最も高くなっている。思春期の少女や若い女性が有する特有のニーズへ一層関心を払っていくことが求められよう。

44、とりわけ開発途上諸国におけるHIV/AIDSの急速なまん延は、女性に多大な影響を及ぼしている。この予防には責任ある行動と男女平等が、最も重要な前提の一つとなる。女性が自らのセクシュアリティに関する事柄を管理して自由かつ責任ある決定を行い、HIV/AIDS等の性感染症への感染をもたすような危険で無責任な行動から自らを守り、男性の責任ある、安全で敬意を払うべき行動を促し、また男女平等を押し進めるためには、女性に力を付与するより効果的な戦略も必要である。HIV/AIDSは緊急な公衆衛生上の問題であり、これを封じ込めようとする努力をしのぐ勢いでまん延しており、多くの国では苦勞して築いてきた開発の恩恵を台無しにしている。問題に対応するための基盤整備が不十分ことから、HIV/AIDS感染者やHIV/AIDSにより孤児となった子供の世話の負担は特に女性に重くのしかかっている。HIVに感

染した女性は、差別や恥辱に苦しむことが多く、またしばしば暴力の対象となる。HIVの予防や母子感染、母乳哺育、特に若者に対する情報・教育、危険度の高い行動の抑制、麻薬の静脈注射、支援グループ、カウンセリング及び任意の検査、パートナーへの告知、基礎薬品の提供とそれに掛かる高額な費用といった問題について必ずしも十分に組み立ててきていない。いくつかの国ではHIV/AIDSとの闘いにおいて良い兆候も見られており、若者の行動に変化が起き始めるとともに、若者に対する教育プログラムは男性と女性の関係や男女平等に対するより前向きな見方の芽生え、初体験年齢のアップ、性感染症の危険の低減をもたらしうることが経験的に示されている。

45、先進国・途上国を問わず、若い女性や少女による麻薬や薬物の乱用は深刻化しており、麻薬や向精神薬の違法な生産や供給、売買への需要削減や根絶への闘

いに向けた努力が一層求められている。

46、自然災害による犠牲者や損害の増大により、こうした緊急事態に対応する既存のアプローチや介入方法の非効率性や不十分さが認識されるようになった。かかる事態においては、男性に比べ、女性の方が、家族の日常生活の当面のニーズに対応する責任を負う場合が多い。このような状況に伴い、防災・災害緩和・災害復興戦略を策定・実施する際には必ずジェンダーの視点を組み入れなければならないとの認識がますます高まってきている。

47、女性と男性の関係性の変化や、男女平等に関する議論の台頭に伴い、ジェンダーに基づく役割を再評価する動きが高まった。これはさらに、男女平等に向けた男女の役割と責任、また女性の潜在的能力の十分な発揮を阻んでいる固定的・伝統的性別役割を変革すべきであるとの

議論を一層促進した。無償労働と有償労働への男女のバランスの取れた参加が必要である。国民経済計算の中で忘れられがちな女性の無償労働の質的評価と測定が欠如しているため、社会的経済的發展へ女性が十分に貢献していることがいまなお過小評価されている。仕事と責任の男女の負担割合が不十分であり続ける限り、有償労働と(家族の)世話の負担は男性に比べて女性に不均衡に重くのしかかる状態は今後も続くことになる。

第四章 行動綱領の完全かつ更なる実施の達成及び障害克服のための行動とイニシアティブ

48、上記第二章に記述された、第4回世界女性会議以降の5年間における北京宣言及び行動綱領の実施状況の評価及び同じく第三章に概説された、北京宣言及び行動綱領の完全実施に影響を及ぼす現在の課題を踏まえ、各国政府は北京宣言及

び行動綱領に再び最大限の努力を投じ、障害を克服し、課題に取り組むための更なる行動やイニシアティブに取り組むことを公約するものである。各国政府は、綱領で掲げられている目標達成を目指して更なる努力を続けるに当たり、発展の権利を始め、市民的、文化的、経済的、政治的、社会的権利を含むあらゆる人権は、普遍的・不可分なものであり、相互に依存し関連しあうものであり、21世紀における男女平等、開発、平和の実現に不可欠なものであると認識する。

49、国連機関、ブレトン・ウッズ機関、世界貿易機関、その他の国際的・地域的政府間機関、議会、民間部門やNGOを含む市民社会、労働組合、その他の関係方面に対し、行動綱領の完全かつ効果的な実施を達成するため、政府の努力を支援すること、及び適当な場合、政府の努力を補完する計画を策定することを要請する。

50、政府及び政府機関は、NGOの自主性を十分に尊重しつつ、行動綱領の効果の実施にNGOが果たしている貢献や補完的役割を認識し、行動綱領の効果的実施とフォローアップに寄与すべく、引き続きNGO、特に女性団体とのパートナーシップを強化すべきである。

51、経験上、男女平等の目標は、あらゆるレベルの様々な人々相互の関係が新しくなるという流れの中において、初めて十分に達成されるものであることが証明されている。この目標の達成には、社会のあらゆる局面で平等を基礎とした女性の効果的な完全参加こそが必要である。

52、男女平等と女性のエンパワーメントを実現するためには、女性と男性及び少女と少年の間に存在する不平等を是正し、両者の平等の権利、責任、機会、可能性を確保することが求められる。男女平等とは、あらゆる領域のあらゆる活動

における企画、実施、国内の監視、国際レベルを含むフォローアップや評価に当たって、男性だけではなく、女性のニーズ、利益、関心、経験、優先事項が不可欠の要素であることを意味している。

53、各国政府及び国際社会は、行動綱領の採択を通じて、男女平等と女性のエンパワーメントを基本原則とし、共通の開発課題とすることを合意した。開発への女性の参加を確保する様々な試みが強化されてきたが、今後は平等な権利とパートナーシップ、あらゆる人権と基本的自由の保護・促進に基づいた全体的アプローチをもつて、女性の置かれている状況や基本的ニーズに焦点を当てた取組に臨む必要がある。人間中心の持続可能な開発という目標の達成、生活の保障やセーフティー・ネット及び家族の財産・経済資源への平等なアクセス・管理を保障するような支援体制の強化等の十分な社会保障措置の確保、女性の中で増え続

け、不均衡に女性にのしかかる貧困の撲滅を目指すような政策や計画の策定も行われなければならない。あらゆる経済政策や制度、また資源配分の責任者は平等の原則に基づいて開発の恩恵の分配が行われるようジェンダーの視点を取り入れるべきである。

54、多くの諸国、とりわけ開発途上国において、女性への貧困の重荷が持続し増大していることから、特に教育や手頃な料金で入手可能な質の良い保健医療サービスといった社会サービスに万人が分け隔てなく平等にアクセスできるようになり、また経済的資源に平等にアクセスし管理することが可能になるために、ジェンダーの視点から、特に構造調整や対外債務に関する問題に対する政策や事業といった、総合的なマクロ経済・社会に関する政策や計画を検討、修正、実施し続けることが不可欠である。

55、特にHIV/AIDSのまん延とい

う状況下、教育、保健医療及び社会サービスへの平等なアクセスの提供、並びに教育、生涯を通じて得られる最高水準の心身両面の健康と安寧、及び万人が分け隔てなく利用できる、十分かつ手頃な料金によるセクシャル／リプロダクティブ・ヘルスを含む保健医療サービスに対する女性や少女の権利の保障に向け、更に努力しなければならない。また高齢女性人口が増加する中でこのような取組への必要性は一層高まっている。

56、世界の大多数の女性が環境資源の供給の生産者及びユーザーであることから、環境資源の持続可能性を確保するためには、女性の知識と優先事項を認識し、これらを環境資源の保全・管理に統合する必要がある。環境、生活の安全、及び日常生活の基本的要件の管理を脅かす災害や緊急事態に効果的に対応するため、ジェンダーに配慮した計画や基盤整備が

求められる。

57、小島しょ開発途上国など、資源が限られていたりほとんど資源に恵まれない国にあつては、国民の生計は環境の保全や保護に大きく依存する。生物多様性について女性が習慣的に獲得している知識や管理の仕方、持続可能な利用方法について認識をする必要がある。

58、あらゆる領域での、包括的かつ行動志向的政策の採用・実施にジェンダーの視点を主流に据えるためには、あらゆるレベルにおける政治的意志とコミットメント（関与）が極めて重要である。女性が、経済的・財政的資源、訓練、サービス、制度に平等にアクセスするとともに、これらを管理し、また意思決定や管理に参加するためには必要な枠組みを更に発展させるためには政策のコミットメント（関与）が不可欠である。政策決定過程には、あらゆるレベルにおける男女のパ

トナリシップが必要である。また、行動綱領の目標達成とその実施に向けたあらゆる取組に、男性や少年も積極的に関与すべきであり、またそれが奨励されるべきである。

59、女性や少女に対する暴力は、男女平等、開発及び平和という目標の達成を阻む障害である。女性に対する暴力は、女性の人権及び基本的自由を侵害すると同時に、女性がこれを楽しむことを妨げ、又は不可能ならしめるものである。殴打その他のドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性的奴隷化及び搾取、女性及び子供の国際的トラフィックキング、強制売春並びにセクシュアル・ハラスメントなどのジェンダーに基づく暴力、並びに文化的偏見、人種主義及び人種差別、排外主義、ポルノグラフィ、民族浄化、武力紛争、他国による占領、宗教的及び反宗教的過激主義並びにテロリズムから起る女性に対する暴力は、人間の尊厳や価

値とは相容れないものであり、その根絶に向けて闘っていかなければならない。

60、女性 は 家族 中 で 重要 な 役 割 を 担 っ て いる。 家 族 は 社 会 の 基 本 的 単 位 で あ る と 同 じ に 社 会 的 な 結 束 と 統 合 へ の 強 力 な 力 と して 機 能 し て お り、 こ の 点 か ら も 強 化 す べ き も の で あ る。 女 性 に 対 す る 支 援 や、 家 庭 に 対 す る 保 護 や 支 援 が 不 十 分 だ と、 社 会 全 体 に 影 響 を 与 え、 男 女 平 等 達 成 に 向 け た 努 力 に も 水 を 差 す こ と に な り か ね ない。 様 々 な 文 化 的、 政 治 的、 社 会 的 体 制 が 存 在 す る な か、 家 族 の 形 態 も い ろ い ろ で あ り、 家 族 の 一 人 一 人 の 権 利、 能 力、 責 任 が 尊 重 さ れ な け れ ば な ら ない。 家 族 の 安 寧 に 女 性 が 果 た す 社 会 的・ 経 済 的 貢 献、 及 び 母 性・ 父 性 の 社 会 的 重 要 性 に つ い て は、 依 然 と して 十 分 に 適 切 な 扱 い を 受 け て いる と は 言 い 難 い。 家 族 や 育 児 に お け る 母 性、 父 性 及 び 親 や 法 的 保 護 者 の 役 割 並 び に 家 族 の 安 寧 へ の 家 族 全 員 の 重 要 性 に つ い て も 認 識 し、 差 別 の 根 拠

と して は な ら ない。 ま た、 女 性 は 今 な お 家 事 の 責 任 や 子 供、 病 人、 高 齢 者 の 世 話 に お け る 責 任 を 過 重 に 引 き 受 け て いる。 こ う し た 不 均 衡 問 題 に つ い て は、 と り わ

け 教 育 と い っ た 適 切 な 政 策・ 計 画 を 通 じ、 ま た 適 当 な 場 合 に は 法 的 手 段 を 通 じ て 絶 え 間 な く 取 り 組 む 必 要 が あ る。 公 的・ 私 的 な 場 で 完 全 な パ ー ト ナ ー シ ッ プ を 実 現 す る た め、 男 女 が 職 業 生 活 と 家 庭 生 活 を 両 立 し、 そ の 責 任 を 平 等 に 負 担 で き る よ う に な ら ね ば な ら ない。

61、 国 内 本 部 機 構 を 女 性 の 地 位 向 上 と 男 女 平 等 の 推 進 力 と して 強 固 な も の に す る た め に は、 同 機 構 が 女 性 の エ ン パ ワ ー メ ン ト の た め の 政 策、 立 法、 計 画 及 び 能 力 開 発 の 強 化、 採 択 及 び 監 視 を 率 先 し、 勧 告 し、 促 進 す る と 同 じ に、 社 会 的 な 目 標 と し て の 男 女 平 等 に つ い て 開 か れ た 公 の 対 話 が な さ れ る た め の 触 媒 的 機 能 を 果 た す こ と が で き る よ う、 最 高 レ ベ ル で の 政 治 的 コ ミ ッ ト メ ン ト (関 与) と、 必 要 な

あ ら ゆ る 人 材 や 財 源 の 動 員 が 不 可 欠 で あ る。 こ れ に よ り 国 内 本 部 機 構 は、 あ ら ゆ る 領 域 に お け る 女 性 の 地 位 向 上 及 び 政 策 や 計 画 に お け る ジ ェ ン ダ ー の 視 点 の 主 流 化 を 推 進 し、 唱 導 的 役 割 を 果 た し、 あ ら ゆ る 部 門 の 女 性 に あ ら ゆ る 制 度 と 資 源 へ の 平 等 な ア ク セ ス と、 よ り 増 進 さ れ た 能 力 開 発 を 保 証 す る こ と が で き る よ う に な る。 制 度 や 組 織 へ の 平 等 な ア ク セ ス を 女 性 に 確 保 す る た め に は、 世 界 の 変 化 に よ っ て 生 じ る 様 々 な 課 題 に 立 ち 向 か う た め の 改 革 が 必 要 で あ る。 制 度 や 概 念 の 変 革 は、 行 動 綱 領 の 実 施 環 境 を 整 え る た め の 戦 略 的 か つ 重 要 な 側 面 で あ る。

62、 女 性 の 機 会 や 可 能 性、 活 動 の 拡 大 を 目 指 し た 計 画 支 援 に は 二 つ の 焦 点 が 必 要 で あ る。 一 方 で は、 能 力 開 発、 組 織 開 発、 エ ン パ ワ ー メ ン ト に 向 け て 女 性 の 基 本 的 ニ ー ズ 及 び 特 有 の ニ ー ズ を 満 た す こ と を ね ら っ た 計 画 と す る こ と、 も う 一 方 で は、 あ ら ゆ る 計 画 の 策 定 及 び 実 施 活 動 に お い

てジェンダーの主流化を図ることである。新しい課題に対応して男女平等を推進するために、新分野のプログラム策定への展開を図ることが特に重要である。

63、障害のある少女や女性は、年齢やその障害の種類を問わず一般的に弱者であり、社会的に不利な状況に置かれやすい。したがって、政策や計画策定の際には、常に障害のある少女や女性の意向があらゆる分野で最大限尊重されるよう配慮する必要がある。また、あらゆるレベルで彼らを開発の主流に組み込む特別な措置が必要である。

64、行動綱領の完全実施に向けての計画やプログラムを効果的で相互調整の取れたものにするためには、女性や少女が置かれている状況についての明確な知識、研究に基づいた明確な知識や性別データ、短・長期のタイムバウンドターゲット(期限付の目標)や評価可能なゴール、

進捗よく状況を評価するフォローアップ体制が必要となる。こうした目標を達成するには、あらゆる関係者の能力開発を進める努力が求められる。また国内レベルでは透明性と説明責任を高める努力も必要である。

65、男女平等、開発及び平和の目標を実現・達成するためには、国際協力を一層強化するとともに、地方、国、地域、国際レベルで、男女平等の達成のための具体的で焦点を絞った活動に、必要な人的・財的・物的資源の手当てを行うことが必要である。国、地域及び国際レベルの予算編成の段階で、こうした目標への明確な注意の喚起が不可欠である。

A 国内レベルで取るべき行動

各国政府により..

66、(a) 公的生活のあらゆる分野・あら

ゆるレベル、特に、政党や政治的な活動あらゆる省庁や主要な政策立案機関及び地方の開発機関や地方公共団体において意思決定・政策立案を行う地位に関して、女性の平等な参画の機会と男性との平等を原則とした全面的参画を含め、ジェンダーバランスへの前進を促進するため、適当な場合にはクォータ(割当て)を定めることも含め、明確な長期・短期のタイムバウンドターゲット(期限付の目標)又は評価可能なゴールを設定し、その利用を奨励する。

(b) 訓練の欠如、有償・無償の労働の二重負担、社会が抱いている偏見や固定観念など、女性、特に先住民女性その他の疎外された女性が、政策や意思決定にアクセス、参加する際に直面する障壁に取り組む。

67、(a) 特に農山漁村や貧しい地域における少女の職業訓練や科学技術へのアクセス及び基礎教育の修了を始め、教育へ

の平等な機会の提供や教育における男女格差の撤廃を保障する政策を確保するとともに、あらゆる女性や少女に対するあらゆるレベルの教育継続の機会提供を保障する。

(b) 少年・少女に対する教育の質の確保や就学率・学業継続率の改善と同時に、教育課程・教材・教育の過程における男女差別や固定的な性別役割分担意識の撤廃を目指したプランや行動計画の実施を支援する。

(c) 複数の国際会議が提唱しているように、2005年までに初等及び中等教育における性別格差を解消し、2015年までに少女及び少年に対する無償初等教育の義務化を実現するための行動を促進し、政治的コミットメント（関与）を強化するとともに、格差を助長・恒常化させてきた政策を撤廃する。

(d) 労働における性別分業の根本原因の一つとなっている固定的な性別役割分担意識の問題に対処するため、幼稚園から

小学校、職業訓練、大学に至るまで、ジェンダーに配慮したカリキュラムを開発する。

68、(a) 女性があらゆる人権と基本的自由を享受することを保護・促進し、女性及び少女に対する権利侵害を容認しない環境を作るための諸施策を立案して実施に移す。

(b) できる限り早く、望むらくは2005年までに、差別的条項の撤廃に努めることを目的として法律の検討を行い、女性や少女が自らの権利を保護されず、ジェンダーに基づく差別に対抗出来る有効な救済手段を持たない状況下に放置されるといった法的ギャップを除去することによって、差別のない、ジェンダーに配慮した法的環境を構築し維持する。

(c) 女子差別撤廃条約を批准し、同条約に対する留保を制限し、同条約の目標及び目的に反する、あるいは国際条約と相容れない留保を撤回する。

(d) 女子差別撤廃条約の選択議定書の署名及び批准を検討する。

(e) 国際刑事裁判所ローマ規程の署名及び批准を検討する。

(f) 女性や少女に対するあらゆる形態の差別を禁止・撤廃する法律・手続きの策定・検討・実施を行う。

(g) 母性（マタニティ）、母であること（マザーフッド）、親であること（ペアレンティング）、及び出産における女性の役割が差別的根拠となったり、女性の完全な社会参加を制限することがないよう、計画や政策を含む各種措置を講じる。

(h) 土地改革、地方分権、経済再編など、国の立法・行政改革が、女性、とりわけ農山漁村の女性や貧困の中で暮らす女性の権利を推進するものとなることを確保し、土地、財産権、相続権、信用、女性銀行や協同組合といった伝統的貯蓄方式などの経済的資源への女性の平等なアクセス・管理を通じて、女性のこれらの権利を促進し、女性が権利を享受できるよ

うな施策を講じる。

(i) 難民の地位及び庇護を認める根拠の評価に当たり、ジェンダーに関連した迫害や暴力を認定する措置を考慮するなど、あらゆる女性の権利を保護・促進するために、適当な場合には国の出入国管理及び庇護に関する政策、規則及び運用にジェンダーの視点を組み込む。

(j) 個人、組織又は企業による女性や少女に対する差別や暴力を根絶するあらゆる適切な措置を講じる。

(k) 民間部門や教育機関が差別を禁じた法律の遵守を促進・強化するよう、必要な対策を講じる。

69、(a) 優先事項として、適当な場合には女性に対する暴力などに対する有効な立法措置を導入することを念頭に置いて、法律の再検討や改正を行うとともに、その他の必要な措置を採って、あらゆる女性や少女があらゆる形態の肉体的、精神的及び性的暴力から保護され、裁判に

訴える手段が与えられるようにする。

(b) 女性や少女に対するあらゆる形態の暴力の加害者を訴追して適切に処罰する。また、加害者に対し、暴力の繰り返しを断ち切る助けを行い、またそのように動機付けすることを目的とした措置を導入するとともに、被害者に救済の道を開くための対策を講じる。

(c) あらゆる形態の差別に基づく暴力を含め、年齢を問わず、女性や少女に対するあらゆる形態の暴力を法律による処罰対象となる刑事犯罪として扱う。

(d) 夫婦間レイプ、女性や少女の性的虐待を含むあらゆる形態のドメスティック・バイオレンスに関する犯罪に対処するため、法律の制定及び適切な制度の強化あるいはそのいずれかの措置を採り、こうした犯罪を速やかに訴追できるようにする。

(e) 法律や適当な場合、政策や教育計画等その他の施策を策定、適用、完全実施して、女性や少女に対する人権侵害であ

り、女性が人権や基本的自由を全面的に享受する時の障害となる女性性器切除、若年強制結婚、いわゆる名誉犯罪などの有害な慣習や伝統的慣行を一掃し、地域の女性団体と協力し、これらの有害な伝統的慣習の慣行がどれほど女性の人権を侵害しているかについて集団及び個人の意識を啓発することに尽力する。

(f) 女性に対するあらゆる形態の暴力の根絶に向けた計画を立案し、必要な措置を講じるため、女性に対するあらゆる形態の暴力の根本原因への理解を深める研究を引き続き実施する。

(g) 政策や計画を通じ、女性や少女に対する人種主義や人種の差別に基づいた暴力への対策を講じる。

(h) あらゆる形態の暴力根絶のための適切かつ効果的な計画やサービスを実施するため、優先事項として、また先住民女性の完全に自発的な参加を得て、先住民女性に対する暴力が及ぼす影響に対処するための具体的措置を講じる。

(i) 女性や少女の精神的安寧を促進し、精神面の保健サービスを基礎的保健医療（プライマリ・ヘルスケア）体制に組み込み、ジェンダーに配慮した支援事業を開発する。またジェンダーに基づく暴力を認識し、いかなる形態であれ暴力を経験してきた少女及びあらゆる年齢の女性のケアをする保健従事者を養成する。

(j) 障害のある少女や女性及び弱い立場にある社会的に疎外された女性や少女を含むあらゆる年齢の少女や女性に対するあらゆる形態の暴力及び虐待に対処するため全体的取組を採用・推進し、こうした女性の教育、適切な保健医療サービス及び基礎的社会サービスを含む多様なニーズにこたえる。

(k) 生涯にわたる、またあらゆる状況における女性に対する暴力を根絶するため全体的取組を採用し推進する。

70、(a) 女性のトラフィッキング（人の密輸）を根絶するために、女性や少女の

権利に対する保護の改善及び刑事・民事双方の措置を通じた加害者の処罰を目的として既存の法律を強化することも含め、売春その他の形態の性の商品化、強制結婚及び強制労働を目的とした女性や少女のトラフィッキングを助長する、外的要因を含む根本原因に対処する適切な施策を講じる。

(b) 法的措置、防止キャンペーン、情報交換、被害者の支援・保護及びその回復仲介者を含む関係加害者全員の訴追を内容とする包括的なトラフィッキング禁止戦略を実施し、女性や少女のあらゆる形態のトラフィッキングをなくすよう努め、その撲滅のための効果的対策を策定し、実施し、また強化する。

(c) トラフィッキングの被害者が搾取の被害者であることを考慮し、国内法の枠組みの範囲内で、かつ国内政策が許す限りにおいて、女性や少女を始めとするトラフィッキングの被害者を不法入国や不法在留により処罰しないことを検討す

る。

(d) トラフィッキングを始めとする女性に対する暴力に関し、データ、根本原因、要素や傾向に関する情報交換の推進及び報告を目的とした、NGOを含む市民団体の参加による国内ラポルトゥール（報告機関）や機関間組織といった国内調整体制の設立又は強化を検討する。

(e) 女性及びその家族を保護・支援し、家族の安全確保を支援する政策を策定・強化する。

71、(a) 伝統的な薬物、生物多様性、先住民固有の技術に関する、先住民社会・地方社会の女性の知識、革新的技術、慣行を保護するため、適当な場合は、生物の多様性に関する条約（注14）を遵守した内容の国内法を採択することを検討する。

(b) 必要に応じて、環境や農業分野における政策や体制にジェンダーの視点を組み入れるとともに、市民社会と協力して

農民、特に農業女性や農山漁村に住む女性を、教育及び訓練のプログラムの提供を通じて支援する。

72、(a) 極めて疾病率・死亡率が高い疾病を含む、マラリアや結核、HIV/AIDSその他女性の健康に不均衡に大きな影響をもたらす疾病など、新しく出現した、また現在も続いている健康上の問題におけるジェンダーの側面に、優先順位に基づいて対処する政策を採用し、対策を実施する。

(b) 妊産婦の罹患率・死亡率の低減を保健部門の優先事項とし、また、とりわけ母胎の安全確保を推進し、乳癌、子宮頸癌、卵巣癌、骨粗しょう症、HIV/AIDSなど性感染症の防止、発見、治療に優先的に対処するため、女性が基本的な産科医療、設備と十分な人員が整った妊産婦医療サービス、熟練した分娩介助サービス、救急産科医療、必要に応じた高度医療施設への効果的な照会サービス

や搬送、産後ケア、家族計画に容易にアクセスできるようにする。

(c) 良質の家族計画サービスや避妊についていまだ充足されていないニーズを満たす対策、すなわち、サービスと供給と利用の間に現在存在するギャップを埋める対策を講じる。

(d) 女性の死亡率や罹患率に関する最新かつ信頼のできるデータを収集し普及するとともに、社会的・経済的要因があらゆる年齢の少女や女性の健康に与える影響についての詳しい研究、及び少女や女性に対する保健医療サービス提供、かかるサービスの利用パターン、女性を対象とした疾病予防・健康増進計画の価値に関する研究を行う。

(e) 男女を問わず誰でも、生涯を通して、教育、清潔な水、安全衛生設備、栄養、食料安全保障、健康教育計画など、保健医療関係の社会サービスを平等に利用できるようにする。

(f) 保健医療従事者に安全な労働環境を

提供するようにする。

(g) 必要に応じ、また適当な場合には、女性団体やその他の市民社会の関係者と協議し、保健関連の法律、政策、計画を採択、実施、検討、改定するとともに、あらゆる女性に生涯を通じての包括的でしつかりした内容で、料金が手頃な保健医療、情報、教育、サービスの提供を行うことで、達成可能な最高水準の心身の健康を確保し、HIV/AIDSの流行や女性特有の精神的・職業的保健計画の必要性や加齢に関する新しい知識が得られた結果女性や少女から新たに寄せられるようになったサービスやケアの要請にこたえ、また適当な場合は、取り締りや法的体制の設立又は強化により、あらゆる保健サービスや保健従事者が、女性を対象とした多様な保健サービスの中で倫理的、専門職業的かつジェンダーに配慮した基準に沿って人権を保護・促進するよう、必要な予算措置を行う。

(h) 保健情報、教育、保健医療サービス

へのアクセスに関して、あらゆる女性や少女に対する差別を撤廃する。

(i) リプロダクティブ・ヘルスとは、人間の生殖システム、その機能と(活動)過程のあらゆる側面において、単に疾病障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを指す。したがって、リプロダクティブ・ヘルスは、人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力を持ち、子供を産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由を持つことを意味する。この最後の条件は、男女とも自ら選択した安全かつ効果的で、経済的にも無理がなく、受け入れやすい家族計画の方法並びに法に反しない他の出生調節の方法についての情報を得、その方法を利用する権利、及び女性が安全に妊娠・出産でき、またカッブルが健康な子供を持てる最善の機会を与えるよう適切なヘルスケア・サービスを利用できる権利について示唆している。上記のリ

プロダクティブ・ヘルスの定義にのっとり、リプロダクティブ・ヘルスケアは、リプロダクティブ・ヘルスに関わる諸問題の予防・解決を通して、リプロダクティブ・ヘルスとその良好な状態に寄与する一連の方法、技術、サービスの総体と定義される。リプロダクティブ・ヘルスは、個人の生と個人的人間関係の高揚を目的とする性に関する健康も含み、単に生殖と性感染症に関連するカウンセリングとケアにとどまるものではない。

(j) 上記の定義を念頭に置くと、リプロダクティブ・ライツは、国内法、人権に関する国際文書並びに国連で合意したその他関連文書で既に認められた人権の一部をなす。これらの権利は、あらゆるカッブルと個人が自分たちの子供の数、出産間隔及び出産する時期を責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利並びに最高水準の性に関する健康及びリプロダクティブ・ヘルスを得る権利を認める

ことにより成立している。その権利には、人権に関する文書にうたわれているように、差別、強制、暴力を受けることなく、生殖に関する決定を行える権利も含まれる。この権利を行使するに当たっては、現在の子供と将来生まれてくる子供のニーズ及び地域社会に対する責任を考慮に入れなければならない。あらゆる人々がこれらの権利を責任を持って行使できるよう推進することが、家族計画を含むリプロダクティブ・ヘルスの分野において政府及び地域が支援する政策と事業の根底になければならない。このような取組の一環として、相互に尊敬しあう対等な男女関係を促進し、特に思春期の若者が自分のセクシュアリティに積極的に、かつ責任を持って対処できるよう、教育とサービスのニーズを満たすことに最大の関心を払わなければならない。セクシュアリティに関する知識不足、リプロダクティブ・ヘルスについての不適切または質の低い情報とサービス、危険性の

高い性行動のまん延、差別的な社会慣習、女性や少女に対する否定的な態度、自らの性と生殖に関し限られた権限しか持つことが出来ない多くの女性や少女の現状といった諸事情のため、世界の多くの人はリプロダクティブ・ヘルスを享受できないでいる。思春期の若者は特に弱い立場にある。これは大部分の国では情報と関連サービスが不足しているためである。高齢の男女は性に関する健康及びリプロダクティブ・セクシアル・ヘルスについて特有の問題を抱えているが、十分な対応がなされていない場合が多い。

(k) 女性の人権には、強制や差別や暴力を受けることのないセクシアル・リプロダクティブ・ヘルスを含む、自らのセクシユアリティに関する事柄を自ら管理し、それらについて自由かつ責任ある決定を行う権利が含まれる。全人格への全面的な敬意を含む、性的関係及び性と生殖に関する事柄における女性と男性の平

等な関係には、性行動とその結果に対する相互の尊重と同意、及び責任の共有が必要である。

(l) 男性が安全で責任ある性と生殖に関する行動を取り、望まない妊娠や HIV/AIDS などの性感染症を予防する方法を効果的に取り入れることを奨励し、それを可能とするような計画を立案・実施する。

(m) 女性に対する有害かつ医学的に不要な又は強制的な医療の介入並びに不適切かつ過剰な投薬を排除するために、あらゆる適切な措置を講じ、また、適切な訓練を受けた職員から、あらゆる女性に対し、見込まれる利益と副作用の可能性なども含め、自らの選択に関して、十分知らされることを保障する。

(n) 女性や若者など、HIV/AIDS や性感染症を抱えて生活している人々が差別されず、そのプライバシーが尊重されるような施策を講じ、HIV/AIDS や性感染症の更なる感染を防止するた

めに、こうした人々が必要な情報に接する機会を封じられることがないように、また非難や差別や暴力の対象となる不安を伴うことなく治療や介護が受けられるようにする。

(o) 国際人口・開発会議の行動計画のパラグラフ 8.25 は以下のように述べている。「いかなる場合も、妊娠中絶を家族計画の手段として奨励すべきでない。全ての政府、関連政府間組織及び NGO は、女性の健康への取組を強化し、安全でない妊娠中絶（注解 20）が健康に及ぼす影響を公衆衛生上の主要な問題として取り上げ、家族計画サービスの拡大と改善を通じて、妊娠中絶への依存を軽減するよう強く求められる。望まない妊娠の防止は常に最優先課題とし、妊娠中絶の必要性をなくすためにあらゆる努力がなされなければならない。望まない妊娠をした女性には、信頼できる情報と思いやりのあるカウンセリングが何時でも利用できるようにすべきである。健康に関する制度の

中で、妊娠中絶に関わる施策の決定又はその変更は、国の法的手順に従い、国または地方レベルでのみ行うことができる。妊娠中絶が法律に反しない場合、その妊娠中絶は安全でなければならない。妊娠中絶による合併症に対しては、いかなる場合も女性が高質のサービスを利用できるようにしなければならない。また、妊娠中絶後にはカウンセリング、教育及び家族計画サービスが即座に提供される必要があるが、それらの活動は妊娠中絶が繰り返されることを防ぐことにも役立つ。」

(注解20) 安全でない妊娠中絶とは、必要な技術を持たない者により、あるいは最低限の医学水準に達していない環境、若しくはその両方の状況の下で、望まない妊娠を中絶させる措置と定義される。(世界保健機関技術作業グループ報告「安全でない妊娠中絶の防止と管理」ジュネーブ、一九九二年四月(WHO/MSM/92.5)による。)

この記載を勘案し、違法な妊娠中絶を受けた女性に対する懲罰措置を含んでいる法律の見直しを考慮する。

(D) あらゆる女性、特に思春期の少女及び妊婦を対象として、男女別の包括的なたばこ防止・抑制戦略を推進・改善する。この戦略には、特に教育、たばこ防止・禁煙事業、たばこの煙にさらされる環境の改善、世界保健機関の国際たばこ対策枠組条約の支援などが含まれる。

(Q) 薬物が健康に与えるリスクやその他の影響、家族に及ぼす影響に関する情報キャンペーンを始め、女性や思春期の少女に広がる薬物乱用の撲滅を目指した情報計画や治療を含む処置を推進し、又は改善する。

73、(a) 主要なマクロ経済・社会開発政策、及び国家開発計画へのジェンダーの視点の主流化を図る。

(b) 公正で、効果的かつ適切な資源配分を推進すること、そして女性のエンパ

ワメントを強化するとともに、監視や評価に必要な分析的及び方法論的手法や仕組みを開発する、男女平等と開発を目的とした施策の支援を目指して適切な予算配分編成を行うため、適当な場合には、あらゆる予算過程における立案、開発、採用、執行作業にジェンダーの視点を取り入れる。

(c) 開発と貧困撲滅対策の中心的戦略として、男女平等と女性のエンパワメントを達成するため、社会部門、特に教育と保健の分野への財源その他の資源を適当な場合には増やし、その有効利用を図る。

(d) 短・長期目標を含め、ジェンダーの視点及び女性のエンパワメントを重視した国内における貧困を撲滅するための計画を実施し、貧困層に女性、特に農山漁村の女性が不均衡に多い状態を減らすよう努力する。

74、(a) 持続可能な開発を推進すると

もに、技能訓練、資源や融資、マイクロクレジット（少額融資）を含む信用供与、情報、技術、市場への平等なアクセスや管理の提供により、特に女性を対象とした貧困を撲滅するための計画を支援・確保する社会経済政策を実施し、農山漁村の女性、先住民女性、女性が世帯主の家庭を含む、特に貧困の中で暮らす女性や社会的に疎外された女性等、あらゆる年齢の女性に資するようにする。

(b) グローバリゼーションがもたらす労働条件の不確実さや変化からの保護を目的とした措置を採るため、貧困や人口統計学上の変化、社会の変化の中で暮らすあらゆる女性に特有のニーズを考慮しつつ、社会的保護制度を構築し、こうした制度への平等な利用機会を提供するとともに、新しく出現している柔軟性を有した労働形態が、十分に社会的保護の対象となるよう努める。

(c) 特にジェンダーの視点から構造調整や対外債務問題の分析を行うなど、引き

続きマクロ経済・社会政策・施策の検討、修正、実施を継続し、女性が資源への平等なアクセスや基本的社会サービスへの普遍的なアクセスを確保できるようにする。

75、特に、適当な場合には十分な社会的保護の手当、行政手続きの簡素化、財政的な障害の除去、その他の措置、例えばベンチャー・キャピタルや信用の仕組み、マイクロクレジット（少額融資）やその他の資金供与へのアクセスなどを通じて、零細企業や中小企業設立の気運を促し、これらにより女性の雇用促進を図る。

76、(a) 市民社会、特に女性NGOと協力し、男女平等に対する社会的支援の強化に向けて、国内本部機構と協力するためのあらゆるレベルでの制度的仕組みを構築し、又は既存の仕組みを強化する。

(b) ジェンダーの視点を主流化して、あらゆる領域における女性のエンパワーメ

ントを促進し、男女平等政策に対するコミットメント（関与）を確保するために、特に国内本部機構を強化し、継続的な女性の地位向上に向けた最高レベルでの措置を講じる。

(c) 革新的な資金計画の検討も含め、国内本部機構に必要な人的・財的資源を投入し、あらゆる政策、計画、プロジェクトにジェンダーの主流化が組み込まれるようにする。

(d) 機会均等を推進するため、効果的な委員会その他の組織の設立を検討する。

(e) 北京行動綱領の実施に向けて策定された国内行動計画を全面实施する努力を強化し、必要な場合には修正又は将来に向けた国内計画を策定する。

(f) 政府のあらゆる情報政策や戦略をジェンダーに配慮したものとする。

77、(a) 特にジェンダーに基づく分析、監視、影響評価を行う場合に、一般の人や政策決定者が利用しやすい様式で、性

別、年齢別及び適当な場合にはその他の要因別のデータを収集、編集、普及するために、国の統計担当部局に制度的・財政的支援を行うとともに、統計や指標、特に情報が不足している分野での統計や指標を開発するための新しい業務について支援する。

(b) 定期的に犯罪に関する統計を編集・公表し、またより効果的な政策を策定するために、女性及び少女に対する権利侵害に関する法の執行状況の傾向を監視する。

(c) ジェンダー分野の専門知識に基づいた政策決定を可能にするために、大学や国の研究・研修機関において政策志向的でかつジェンダーに関連した研究や影響調査を実施できるような、国の能力を開発する。

B 国内レベルで取るべき更なる行動

各国政府・民間部門・NGO・その他市民社会により..

78、(a) 研修や法識字プログラムの策定を奨励し、女性団体の、女性や少女の人權と基本的自由を保護する団体としての能力を開発・支援する。

(b) 女性や少女のあらゆる人權や基本的自由、人間としての尊厳や価値、及び女性と男性の平等な権利の保護・促進を旨指して、政府の様々なレベル、NGO、草の根組織、伝統的な地域の指導者の連携を、そして適当な場合にはこれらそれぞれの中での連携を奨励する。

(c) 法律が差別的にならないよう、政府当局、国会議員その他関係当局、適切な場合には、NGOを含む女性団体間の協力を促す。

(d) 警察官、検察官、裁判官を含むあら

ゆる関係者に対し、特に女性や少女の、性的暴力を含む暴力被害者に対応するための、ジェンダーに配慮した研修を行う。

79、(a) 女性の生涯を通じた心身の健康への全体的取組を行い、保健情報やサービスの設計見直しや、保健従事者をジェンダーに敏感にする研修の実施といった更なる措置を採り、保健医療制度のあらゆるレベルでジェンダーバランスの維持を推進して、女性の視点や女性のプライバシー、秘密保持、自発的なインフォームド・コンセントに対する権利を反映する。

(b) 2015年までに、生涯を通じて誰でもセクシャル／リプロダクティブ・ヘルスケアを含む質の高いプライマリ・ヘルスケアを広く受けられるよう一層努力する。

(c) 第21回国連特別総会で採択された国際人口・開発会議の行動計画の実施を進めるための主要行動の実施に向けて、妊

産婦の死亡率の低減、熟練した介助者の援助による出産の比率の増加、できる限り広範囲な安全かつ効果的な家族計画・避妊法の提供、若者によるHIV/AIDS感染リスクの低減といった具体的基準（ベンチマーク）の達成に特に注意を払いつつ、国内政策、計画、法律の検討・改正を行う。

(d) 栄養に関する男女格差の解消に特別な関心を払いながら、学校給食計画、母子栄養計画、微量栄養補助など、栄養失調対策プログラムへの支援の推進・拡大を通じて、重度・中程度の栄養失調の影響、生涯にわたる栄養の影響、母子の健康の関係を認識しつつ、あらゆる女性や少女の栄養状態を改善する対策を強化する。

(e) 女性の全面的な参加の下、とりわけ地方及び都市部の貧困女性に対する保健サービスの提供に関して、保健部門の改革の取組が女性の健康や人権享受に及ぼす影響を検討し、監視するとともに、こ

の改革が女性の多様なニーズに配慮しながら、あらゆる女性が利用でき、料金が手頃で、質の高い保健医療サービスに完全かつ平等にアクセスできることを保障したものとなるようにする。

(f) プライバシー、秘密保持、尊厳及びインフォームド・コンセントに対する思春期の若者の権利とともに、児童の権利に関する条約(注15)に認められ、また女子差別撤廃条約に則った権利を子供が行使する際に、発達する子供の能力に合わせて適切な指導及び手引きを与える、親及び法定保護者の責任、権利及び義務を考慮し、子供に関するあらゆる行動において、子供の最善の利益をまず第一に考えなければならないことを確認したうえで、適当な場合には思春期の若者の全面参加を得て、彼らが効果的にリプロダクティブ/セクシュアル・ヘルスのニーズに対応できるように、教育、情報、及び適切かつ具体的で使い勝手がよく、利用可能なサービスを、いかなる差別もなし

に提供する計画を開発し、実施する。こうした計画は、特に思春期の少女に自尊心を植え付けて自分の人生に責任を取ることを手助けし、男女平等と責任ある性行動を推進し、HIV/AIDSなどの性感染症や性暴力、性的虐待についての認識を高めてこれを防止し、またこれに対処し、望まない妊娠や若年妊娠の回避に関して思春期の若者の相談に乗るべきものでなければならない。

(g) 妊娠中あるいは子供を持つ思春期世代の女性については、特に教育を継続・修了できるように、社会サービスや支援を提供する計画を立案・実施する。

(h) 心肺疾患、高血圧、骨粗しょう症、乳癌・子宮頸癌・卵巣癌、及び男女を対象とした家族計画や避妊法など、女性の健康のニーズにこたえる、改良された技術や新技術及び安全で値段の手頃な薬や治療へのアクセスの開発や改善に特別の関心を払う。

80、ジェンダーに基づく研究や分析手法や方法論、研修、ケーススタディ、統計や情報を含む、ジェンダーの主流化の速度を上げるための枠組みやガイドラインその他の実地的な手法や指標を開発して利用する。

81、(a) 女性の政界進出やあらゆるレベルでの参加を奨励することにより、年齢や背景を問わず男性と同じ条件の下で、女性に対する平等な機会と望ましい条件を提供する。

(b) 女性議員の比率を上げて、公共政策の策定への寄与を高めるため、特に政党を通じて、クオータ（割当て）や評価可能なゴールの設定、あるいは議会その他の立法機関の選挙への、その他適当な手段を含め、より多くの女性候補を推薦するよう奨励する。

(c) あらゆる女性、特に公的生活への参加に特に障壁がある女性が、自分達の生活に影響を及ぼすような決定に全面関与

し、このような決定について情報提供を受けることができるような協議過程や仕組みを、NGOや地域団体を含む女性団体と協力して開発するとともに、その維持を図る。

82、(a) 特に、採用時の性別に基づく偏見、労働条件、職業上の差別や嫌がらせ、社会保障給付上の差別、職場における女性の健康と安全、昇進機会の不平等、不十分な男性の家事分担について取り組みなど、女性労働者の権利を保護・促進し、構造的・法的障壁や職場における固定的な性別役割分担意識を除去する行動を起こす。

(b) 男女が自分の仕事と家族の責任を両立することができるとともに、男性が家事や育児の責任を女性と同等に分担することを奨励する計画を推進する。

(c) 様々な形で家族の幸福に寄与している女性のいくつもの役割を支援するため、母性（マタニティ）や母であること（マ

ザーフッド）、親であること（ペアレニング）、親や法的保護者が、子供及び子供以外の家族の世話に果たす役割の社会的重要性を評価する政策や計画を開発又は強化する。この点からも、こうした政策や計画は、親や女性及び男性、そして社会全体による責任の共同分担を推進するものであるべきである。

(d) 子供やその他の扶養家族のための、料金が手頃で利用しやすく質の高いケアサービス、親その他の休暇制度、男女の雇用及び家族の責任の公平な分担に関して世論その他関係者の意識を喚起するキャンペーンを含む、ファミリー・フレンドリーな政策やサービスを立案し、実施し、推進する。

(e) 特に開発途上国において、生涯の様々な段階で女性がエンパワーメントされることを支援するため、情報通信技術や起業家に求められる技能等に関するフォーマル・ノンフォーマル訓練や職業訓練、生涯学習・再訓練、遠隔地教育を

受けられる機会を増やして、女性が雇用される可能性や質の良い仕事を得る可能性を高める政策や計画を推進する。

(f) 特に女性のキャリア開発や昇進を支援する制度的ネットワークの構築や拡充を奨励するなど、労働市場のあらゆる分野や職種において女性の参加を高め、フランスの取れた男女比率を実現する措置を講じる。

(g) 情報、職業訓練を含む訓練、新技術ネットワーク、信用貸付け・金融サービスへのアクセスを通じて、新規事業を起こそうと志す女性起業家を含む女性起業家を支援するための計画や政策の策定及び強化、あるいはそのいずれかに取り組む。

(h) 同一労働同一賃金又は同一価値労働同一賃金を推進し、男女の所得格差を縮小するための積極的措置に着手する。

(i) 少女に対して科学、数学、情報技術を含むニューテクノロジー、技術分野への教育を奨励・支援し、女性に対してキャ

リアに関する助言等を通じて、高成長・高賃金の分野や仕事に求職することを奨励する。

(j) 男女平等及びジェンダーに対する前向きな態度や行動を推進するために、とりわけ男性や少年を対象とした男女別の役割や責任に対する固定的な態度や行動を変えることを目的とした政策や施策を実施する。

(k) 根強い有害な固定概念を払拭するため、女性・男性、少女・少年を対象としたジェンダー啓発キャンペーンや男女平等研修を強化する。

(l) 移行期経済及びグローバルゼーションを含む経済の構造化に伴う雇用創出過程や企業縮小が男女に異なる影響を及ぼす主な理由を、必要に応じ分析し対応する。

(m) とりわけ、労働時間の管理、ジェンダーを意識した情報や啓発キャンペーンの普及を通じ、民間部門におけるジェンダーに対する意識を高め、またその社会

的責任を高める。

83、(a) 男女平等の実現に向けた国内政策、計画、基準（ベンチマーク）の実施の進捗よく状況を監視するため、NGO、特に女性団体の参加のもと、国の協同作業による定期報告体制を強化又は適当な場合には構築する。

(b) 不利な立場にある女性、とりわけ農山漁村の女性が、事業やその他の持続性のある生計手段を立ち上げる際に、金融機関を活用できるよう援助活動を行って、NGO及び地域に根差した団体を支援する。

(c) 高齢女性が、生活のあらゆる局面に積極的に関わり、地域や公的生活、意思決定レベルで多様な役割を引き受けることができるような施策を講じる。また、高齢女性が、人権や質の高い生活を全面的に享受できるようにすると同時に、これら女性のニーズに対応する政策や計画を策定・実施し、あらゆる年齢層の人々

のための社会の実現を目指す。

(d) 障害のある女性や少女特有のニーズに完全に対応し、技術・職業訓練や十分なリハビリ計画を含むあらゆるレベルでの教育及び保健医療サービスや雇用機会への平等なアクセスを確保し、これらの女性や少女の人権を保護・促進し、障害のある男女間に存在する不平等の撤廃が適切な場合には、これらを撤廃する政策や計画を策定・実施する。

C 国際レベルで取るべき行動

国連システム及び適当な場合は国際・地域機関により…

84、(a) 政府の要請があつた場合、政府が、行動綱領の実施に向けて、制度的能力を構築し、国内行動計画の策定または既存の行動計画の更なる実施に取り組むことを支援する。

(b) NGO、特に女性団体が、行動綱領を擁護し、実施し、評価し、フォローアップ

プする能力を開発することを支援する。

(c) 行動綱領の十二重大問題領域を実施するため、十分な資源を地域や国の計画に對し措置する。

(d) 移行期経済の国の政府による、女性の経済的・政治的エンパワーメントを目標としたプランや計画の策定・実施への一層の取組に對して支援を行う。

(e) 経済社会理事會が地域委員會に對し、それぞれの権限や資源の範囲で、各地域で国連の機関や組織が実施しているあらゆるプロジェクトや計画を掲載したデータベースを作成し、定期的に更新するとともに、その普及の便宜を図り、またそれが行動綱領の実施を通じた女性のエンパワーメントに与える影響の評価の実施を進めるよう要請することを奨励する。

85、(a) 国連システム、経済社会理事會の合意結論、その他プログラムやイニシアティブから得られるあらゆる専門知識

を動員し、国連のあらゆる主要會議やサミットのフォローアップを総合的調整の下に行うなど、国連システムのあらゆる政策・計画・企画立案にジェンダーの視点の主流化を図ると同時に、この目標達成のための十分な資源配分やジェンダー関連部局・フォーカルポイントの維持を確保するため、引き続き国連機関に託された任務を実施し、評価し、フォローアップする。

(b) 国からの要請があつた場合、社会や経済に對する女性と男性の貢獻、並びにとりわけ貧困及びあらゆる部門における有償・無償労働との関連での女性と男性の社会的経済的状況に関する統計の取り方の開發や集計について国を支援する。

(c) 國際婦人調査訓練研修所(INSTRAW)が開發しているジェンダー啓発情報ネットワーク・システム等の利用を含む共同研究、訓練や情報普及の環境として、新しい情報技術へのアクセス拡大を図る国、特に途上国の取組を支援

すると同時に、従来の情報普及、研究、訓練の方法も支援する。

(d) 本部やフィールド(出先)、特に現場の任務に就いているあらゆる国連職員が、ジェンダーの影響分析など、それぞれの仕事にジェンダーの視点の主流化を図る訓練を受けるとともに、こうした訓練のフォローアップが適切に行われるようにする。

(e) 国連婦人の地位委員会がその権限内で、北京行動綱領及びそのフォローアップの実施を評価し、前進を図るのを支援する。

(f) 政府の要請があつた場合、政府がジェンダーの視点を開発の一つの側面として、国家開発計画に組み入れることを支援する。

(g) 締約国の要請があつた場合、女子差別撤廃条約の履行能力の開発に向けてこれらの国を支援し、またこれに関連し、締約国が女子差別撤廃委員会の一般勧告と同時に最終コメントに注意を払うこと

を奨励する。

86、(a) 政府の要請があつた場合、政府が援助の実施や、適当な場合には、武力紛争や自然災害がもたらす人道への危機に対応する際に用いる、ジェンダーに配慮した戦略を策定することを支援する。

(b) 紛争の防止・解決、紛争後の再建、平和建設、平和維持、平和構築を始めとする開発活動や平和プロセスのあらゆるレベルで、意思決定や実施過程への女性の全面的参加を確保・支援し、またこれに関し、女性団体や地域に根差した組織、NGOの関与を支援する。

(c) あらゆるレベルの意思決定への女性の関与を奨励するとともに、特使や特別代表として、そして特に、平和維持、平和構築及び常駐調整官などの業務活動に関連して事務総長に代わつて周旋する場合などを含め、女性及び男性の任命に当たっては、公平な地理的配分の原則を十分尊重のうえ、女性と男性の均衡を実現

させる。

(d) 適切な場合には、平和維持活動のあらゆる関係者に対し、特に女性や少女の、性的暴力を含む暴力被害者に対応するためのジェンダーに配慮した研修を行う。

(e) 人々、特に植民地下や他国による占領下で暮らす人々の自決権の実現に向けて、依然としてこうした人々の経済的・社会的開発に悪影響を与えている障害を排除するため更に効果的な対策を講じる。

87、(a) 女性ネットワークや国連機関の活動への支援を含め、女性や少女に対するあらゆる形態の暴力の根絶を目指す活動を支援する。

(b) 女性に対する暴力に対し、これを一切容認しない(ゼロトランス)国際キャンペーンの実施を検討する。

88、専門職やそれ以上のレベル、特に、平和維持使節団や和平交渉団、及びあらゆる活動における事務局上層部を含むあ

らゆるポストの男女比を、50対50とするという目標を達成するための実施を措置し、適当な場合にはその結果を報告し、管理に関する説明責任の仕組みを強化することを奨励する。

89、女性の全面的な参加のもとに、あらゆるレベルで世界平和の実現・維持につながるような環境を創出する対策を講じ、国連憲章や国際法に準じ、国家の主権、領土保全、政治的独立、及び国内管轄事項不干渉の原則を全面的に尊重して、民主主義と紛争の平和的解決を実現するとともに、発展の権利を含むあらゆる人権及び基本的自由の保護・促進を図ることを目指す。

D 国内・国際レベルで取るべき行動

各国政府や国連システム、国際金融機関を含む地域、国際機関及び適当な場合、その他により、

90、国際法及び国連憲章に違反するいかなる一方的措置も回避し、またそのような措置を差し控えさせる処置を講じる。

それらの措置は、影響を被る国の国民、特に女性及び子供の経済的・社会的開発の完全な実現を阻み、彼らの安寧を妨げ、健康と安寧を保障するに十分な生活水準の確保という万人に与えられた権利並びに食糧、医療及び必要な社会サービスを受ける権利を含む、人権の全面的享受に対し、障害を生み出している。食料や薬品を政治的圧力の手段に使ってはならないことを確認する。

91、経済制裁が女性や子供に与えるマイナスの影響を軽減するため、国際法に則って緊急かつ有効な措置を採る。

92、(a) ジェンダー関連の分析や統計の開発及び使用に向けた地域並びに国の取組を支援するための国際協力を促進する。とりわけ、国の統計担当部局が通常

の戦略的な調査を実施できるよう、また監視や政策・施策の影響評価のための、ジェンダーに敏感な統計指標を作成する際に、政府が使用する性別及び年齢別データの提供を統計担当部局が要請された場合、それに対応できるよう、同部局に対して要望に応じて、制度的・財政的支援を行う。

(b) 全ての国の全面的な参加の下、女性に対する暴力を測定する指標及び方法に関する国際的合意を醸成し、また女性移住労働者を始めとする女性に対するあらゆる形態の暴力に関し、容易に利用できる、統計、立法、研修モデル、良い事例、教訓及びその他の情報資料に関するデータベースの構築を検討する。

(c) 適切な場合には、関連機関との連携の下、HIV/AIDSの女性に対する生涯を通じた影響に関する包括的な情報を始め、保健及び保健サービスの利用についての性別、年齢別及びその他適切な要因別のデータの収集を促進し、改善

し、体系化し、またそれに資金を提供する。

(d) 女性の人權を尊重し、國際的に受け入れられている法律、倫理、医療、安全及び科学の基準に嚴格に従い、女性の参加を得た任意の臨床試験を実施することなどによって、生物医学、臨床及び社会研究におけるジェンダーバイアス（性別による偏り）を取り除く。また、避妊法や性感染症の予防法を始め、薬剤の適用量、副作用及び効用に関するジェンダー特有の情報を収集・分析し、また適正な機関及び一般の人が利用できるようにする。

93、(a) 政策策定者への情報提供、並びに行動綱領の完全実施及びそのフォローアップの促進を目的として、大学、国の研究機関や研修機関、その他関連研究機関がジェンダーに関連し、かつ政策志向の研究を実施できるよう、それら機関の能力を開発し、及び支援する。

(b) とりわけ、女性のエンパワーメント、ジェンダーに関する問題及び行動綱領の十二重大問題領域に関するジェンダーの主流化のための方法論や取組に関して、国内本部機構の専門的知識、経験及び知識を共有することにより、女性を対象とした国内本部機構の能力開発を支援することを目的とした、南々協力のプログラムを開発する。

(c) タイムバウンドターゲット（期限付の目標）また／あるいは評価可能なゴール及びジェンダー影響評価を始めとする評価手法を以って、進ちよく状況の測定及び分析に対する女性の完全な参加を得て、行動綱領の完全実施を加速するための行動志向的施策及び措置を策定するための政府の取組を支援する。

(d) 先住民女性が利用でき、文化的にも言語的にも適切な政策、計画及びサービスを促進するために、先住民女性に関する適切なデータ収集や研究を、これら女性の完全な参加を得て実施する。

(e) 政策実行の基盤を提供するために、新たな男女の不平等を引き起こす可能性のある現在のあらゆる動向について、引き続き研究する。

94、(a) 女性の起業家精神や民間のイニシアティブを刺激することを目的とした、ジェンダーに敏感な施策を開発・実施するための措置を講じ、また女性が所有する事業がとりわけ国際貿易、技術革新及び投資に関与し、またそれらから恩恵を得られるよう支援する。

(b) 国際労働機関の職場における基本原則と権利に関する宣言及びそのフォローアップ文書に記載されている原則を尊重、促進、実現するとともに、特に女性の職場における権利確保に係る国際労働機関条約の批准と完全実施の本格的検討を行う。

(c) 国際金融機関の支援等を通じて、既存あるいは新しいマイクロクレジット（少額融資）制度及びその足腰の強化を

図って、自営業や所得創出活動のために必要な信用供与その他の関連サービスを受けられる貧困の中で生活する人々、特に女性の人数を増やし、適当な場合には他のマイクロファイナンス（少額財源手当）制度を開発する。

(d) ジェンダーに配慮した開発へのコミットメント（関与）を再確認するとともに、持続可能で生態学的に健全な消費・生産パターンや手法による天然資源管理に向けて、女性が果たす役割を支持する。

(e) 農山漁村の女性は食料の安定的生産や栄養の確保に極めて重要な役割を果たしており、彼女たちの経済的安定、生産要素・信用の仕組み及びサービス並びに給付へのアクセスやコントロールを行う機会、また彼女たちのエンパワーメントを高めるために、農業生産や、農業、漁業、資源を活用した事業や、内職など特にインフォーマルな分野に従事している彼女たちの働きがきちんと認識され、評

価されるような対策を講じる。

95、(a) 公務員を十分にジェンダーについて敏感にさせるため、公務員研修カリキュラムの見直しを奨励・実施する。

(b) 若い女性が青年団体に参加するのを支援する制度を強化・推進し、先進国・途上国内及び先進国・途上国間の青年の対話を奨励する。

(c) 女性や少女を対象としたフォーラム・ノンフォーマル教育、指導・助言のプログラムを推進する国内取組を支援し、女性や少女が知識を獲得し、自尊心を育み、リーダーシップ、意見の主張、紛争解決に求められる技術を習得できるようにする。

(d) あらゆるレベルの女性や少女を対象とした技能訓練実施のための包括的活動に取り組み、国内及び国際的努力を通じて、貧困の撲滅、特に貧困の女性化への取組を行う。

(e) 先住民女性の完全で自主的な参加を

得て、これら女性の歴史、文化、精神、言語、志を尊重する教育・訓練計画を作成・実施するとともに、先住民女性が高等教育を含むあらゆるレベルのフォーラム・ノンフォーマル教育を受けられるようにする。

(f) 国際協力により、国内、域内及び国際的な成人識字プログラムを引き続き支援・強化し、特に女性を中心として、2015年までに成人の非識字率を半減させ、あらゆる成人に公平に基礎教育と継続教育へのアクセスを保障する。

(g) 引き続き、一部諸国における初等・中等教育レベルでの少女・少年の入学率低下及び中退率悪化について検証し、関連する国際会議で設定された教育に関する国際的な目標の達成を視野に入れ、国際協力のもとに、根本原因を解決し、女性や少女の生涯学習を支援する適切な国内計画を策定する。

(h) 文化、娯楽、スポーツにおいて、また国内、域内、国際レベルのスポーツや

体育活動の参加に当たり、これらへのアクセス、トレーニング、競技、報酬、賞などへの平等な機会を女性や少女に確保する。

(i) 女性のエンパワメント及びあらゆる女性のあらゆる人権と基本的自由の完全実現を目指した行動綱領の実施に貢献するとともに、男女平等と女性によるあらゆる人権の完全享受が損なわれることがないような形で、文化的多様性の尊重及び文明間・文明内の対話の促進に向けての努力を継続する。

(i) 能力開発や訓練計画をあらゆる女性、特に先住民女性が平等に活用できるような積極的対策を適用・支援し、あらゆる分野、あらゆるレベルにおける意思決定へのこれら女性の参加の度合いを高めるようにする。

96、(a) 女性や子供のトラフィッキング、少女の間引き、名譽の名の下に行われる犯罪、熱情の名の下に行われる犯罪、人

種を動機とする犯罪、子供の誘拐や売買、持参金絡みの暴力や殺人、酸を使用した暴力、女性性器切除、早婚・強制結婚などの有害な伝統的慣習的慣行を含む、あらゆる形態の商業的性的搾取や経済的搾取を始めとする、女性や少女に対する暴力の根絶を目指し、協力、政策対応、国内法及びその他保護・防止策の効果的実施を推進する。

(b) レイプ、性的奴隷、強制的売春、暴力を受けての妊娠、不妊の強制その他の形態の性的暴力は戦争犯罪であり、一定の状況では人道に対する罪であるとした国際刑事裁判所ローマ規程についての認識と知識を広めて、このような犯罪の発生を防止し、犯罪にかかわった関係者全員の訴追を支援する措置を講じ、被害者に救済の道を開く。さらに、こうした犯罪がどの程度まで戦争の手段として利用されるかについての認識を深める。

(c) 特に地域や国際協力を通じ、国連機関と協力して女性団体や地域団体を含む

NGOへの支援を行うことにより、女性や少女に対する人種や民族を根拠とした暴力と闘うプログラムなど、女性や少女に対するあらゆる形態の暴力への取組を推進する。

(d) 女性に対する暴力はあつてはならないこと及び女性に対する暴力がもたらす社会的コストについての一般の意識を啓発するために、適切な場合には、一般に対するキャンペーン活動を奨励・支援する。また、男女平等に基づく健全でパランスの取れた関係を推進するための防止活動を実施する。

97、(a) 女性や子供を始めとする人のトラフィッキングを防止し、抑止し、処罰するために、送り出し国、通過国、目的国の間の協力を強化する。

(b) 女性や子供を始めとする人のトラフィッキングを防止し、抑止し、処罰するための、国連国際組織犯罪条約案(注16)を補足する、継続中の議定書草案交渉

を支持する。

(c) 適切と認めた場合には以下の措置を採ることとする：難民・避難民を含む女性や少女及び女性移住労働者がトラフィッキングの被害者になるリスクを低減するための国内、地域、国際戦略を追求・支援する。トラフィッキング罪のあらゆる要素の定義付けを進め、それに従って処罰を強化することにより国内法を強化する。女性や子供を始めとする人のトラフィッキングを防止・撲滅するため、社会・経済政策や計画及び情報・意識啓発の取組に着手する。トラフィッキングの加害者を訴追する。送り出し国、目的国におけるトラフィッキングの被害者を支援、援助、保護する対策を整備する。トラフィッキングの被害者が祖国へ帰還するのを容易にし、そうした人々が祖国に再度落ち着けるよう支援する。

98、(a) 女性が人権侵害にあった場合に受けられる救済についての知識や認識を

深める。

(b) あらゆる移民女性の人権を保護・促進し、合法的移民女性については、その特有のニーズにこたえるために政策を実施し、必要に応じて、男女平等を確保するために、移民男女の間に存在する不平等に取り組む。

(c) 女性及び男性の思想、良心、宗教の自由に対する権利尊重を推進する。また、宗教や精神、信念が多数の女性及び男性の人生に果たしている中心的な役割を認識する。

(d) メディアその他の手段を通じ、一部の伝統的又は習慣的慣行が、HIV/AIDSその他の性感染症への抵抗力を低めるケースも認められるなど、女性の健康に有害な影響を及ぼすことについて十分な認識を喚起することを奨励し、このような慣行の根絶に向け努力を傾注する。

(e) 女性の人権の保護・促進に携わる個人、グループ、社会的組織を保護するため必要な措置を講じる。

(f) 締約国に対し、引き続き条約体への報告書にジェンダーの視点を盛り込むよう奨励する。また、こうした条約体に対し、作業の不要な重複を回避する必要性を考慮しつつ、引き続きジェンダーの視점에配慮して、その機能行使するよう奨励する。さらに、人権メカニズム（機構）に対し、その任務遂行に当たっては引き続きジェンダーの視点に考慮することを奨励する。

(g) 高齢女性のエンパワーメントを高め、開発及び貧困撲滅に対する取組への貢献度を増すとともに、高齢女性がこれらの取組の成果の恩恵に浴することができるとような革新的計画を支援する。

99、(a) とりわけ、適切な場合には、教育機関、人権機関、市民社会の関係者、殊にNGOやメディア・ネットワークと協力して、包括的な人権教育計画を推進し、特に女性や少女の人権に関するものを始め、人権文書に関する幅広い情報普

及を確保する。

(b) 特に女性の人權を侵害する加害者に対し、訴追をする既存の仕組みを支援・強化し、不処罰を撤廃するような措置を講じる。

(c) 国際法や国連憲章の規定の侵害を排除する対策を講じる。こうした侵害の多くは、女性の人權の保護・促進に負の影響を与えるものである。

(d) 包括的にかつ粘り強く武力紛争の根本原因を探ると同時に、武力紛争が男女に及ぼす影響の違いも究明する。そしてこれらを踏まえて、特に女性や子供を始めとする一般市民の保護を強化するための関連施策や計画を策定する。

(e) 後日収監された者を含む武力紛争の人質、特に女性と子供を解放するようにする。

(f) 戦時下の子供、特に少女を保護する政策や計画を策定・支援し、あらゆる関係者による子供の強制徴用・利用を防止し、子供のリハビリや子供が自分を取り

戻す制度を推進・強化する。この時、少女特有の体験やニーズを勘案する。

(g) 難民・避難民の女性など、紛争の影響を受けた女性の能力を、特に、そうした女性を人道的活動の立案や管理にかかわらせることにより改善し、また向上させ、こうした女性が男性と平等の土台に立つて人道的活動の恩恵を受けるようにする。

(h) 国連難民高等弁務官事務所その他関連の国連機関はそれぞれの権限内で、またその他関連の人道機関や政府は、難民や避難民の女性や子供のニーズに特に配慮し、その保護や援助に努めている大量の難民・避難民受入れ国に対し、十分な支援を継続するよう、これら機関・政府に要請する。

(i) とりわけ、平和の文化に関する宣言及び行動計画（注17）を完全実施し、平和推進への女性の完全かつ平等な参加を実現するよう努める。

(j) 紛争下や紛争後の家庭にあつて、家

族の安定要素として重要な役割を果たしている女性を支援し、また力をつけ（エンパワー）させる。

(k) 軍縮に関して国連が定めた優先順位に基づき、厳格かつ有効な国際的管理の下で全面完全軍縮に向けての努力を強化し、その結果余った資源を、女性や少女に資する社会・経済計画に特に振り向けるようにする。

(l) 社会・経済開発、特に女性の地位向上のために追加資金の配分ができるよう、国家安全保障の要件を考慮に入れつつ、中でも世界の軍事費への投資を含む、過度な軍事費、武器貿易、武器生産・武器取得への投資の妥当な削減を通じて、公共及び民間の新財源を生み出す新たな方法の模索に着手する。

(m) 難民、特に女性や少女を保護し、彼らが教育や保健を始め、ジェンダーに配慮した適切な基本的社会サービスにアクセスし、その提供を受けられるような対策を講じる。

100、(a) メディアや情報業界に対し、表現の自由に矛盾しない範囲で男女の固定の役割分担意識を払拭し、バランスの取れた男女の描写を進めるための行動規範、職業上の指針その他自主規制型の指針を採用し、又は策定することを奨励するなどして、男女が生産者及び消費者として特に情報通信技術分野への平等なアクセスを確保できるよう、国内・国際レベルで、民間部門の関係機関やメディア・ネットワークと協力する。

(b) 特に、新情報通信技術の活用を通じ、女性がネットワークを構築・推進し、ネットワークにアクセスできるよう、その能力開発を支援する計画を策定する。この点における、女性NGOの能力開発プログラムの開発及び支援も含まれる。

(c) 男女平等・開発・平和の実現に関する「女性の視点からの歴史(Herstory)」(注18)など、女性の体験についての情報や、研究、長所や教訓の世界的な共有を一層進めるため、インターネットな

どの新しい情報技術に資本を投入するとともに、新技術がこうした目標達成のために果たしうるその他の役割について研究する。

101、(a) 国際経済政策の決定過程への開発途上国の効果的な参加を高めることにより、グローバル化の課題への効果的な取組を行い、とりわけ途上国の女性を始めとする女性が、マクロ経済政策の決定過程へ平等に参加できるよう保障する。

(b) 女性が全面的かつ効果的に参加し、グローバル化した世界経済への開発途上国の参加を増やし、かつ開発途上国が効果的に参加・統合されることにより、安定、成長、平等に基づいた国際開発協力への新しい取組が、人間を中心とした持続可能な開発の実現という全体の枠組みの中で、貧困撲滅、ジェンダーに基づく不平等の削減に向かうようにする。

(c) 女性の全面的かつ効果的な参加を得

て、貧困の女性化を改善し、女性の能力を向上させ、グローバル化による社会的・経済的な負の影響に立ち向かえるように女性に力を付与するような貧困撲滅戦略を立案・強化する。

(d) 貧困撲滅計画の実施へ一層の努力を行うとともに、女性の参加を得て、質の高い訓練・教育、心身両面のヘルスケア、雇用、基本的社会サービス、相続、土地の利用・管理、住宅、所得、マイクロクレジット(少額融資)その他の金融商品・サービスなどへ、どれだけアクセスしやすいかとの観点から、これら貧困撲滅計画が貧困の中で暮らす女性のエンパワメントにどの程度力となっているかを評価し、その評価を参考にして貧困撲滅計画に修正を加える。

(e) 男女平等と貧困撲滅が相互補完的な関連性にあることを踏まえ、適切な場合には、市民社会と協議の上、社会的、構造的、マクロ経済的問題を対象とした、ジェンダーに配慮した包括的な貧困撲滅

戦略を立案・実施する。

- (f) 適当な場合には民間の金融機関と協力し、「貸付制度」その他あらゆる女性の預金、信用、保険のニーズにかなうように特に考えられた、手続きが簡単で利用可能な金融サービスの設立を奨励する。
- (g) 女性や少女の全面的かつ効果的な参加を得て策定された戦略に基づき、あらゆるレベルの女性や少女に対し質の高い技能訓練を実施し、またそれを支援するような包括的活動を展開して、国内、域内及び国際的努力により貧困撲滅ととりわけ貧困の女性化を一掃するという合意目標を達成する。このため国はリスクに立ち向かい、課題を克服し、グローバルゼーションがもたらす機会が、特に開発途上国の女性に利益をもたらすことができるよう、強力な地域協力や国際協力によって国の取組を補完する必要がある。
- (h) 女性の全面的・効果的な参加の下、時宜にかなった方法で市民社会、特にNGOと協議しつつ、構造調整プログラム

や貿易自由化が女性に及ぼす負の影響や、貧困の中で暮らす女性が負っている不均衡な負担を軽減するため、適切な場合には、社会開発基金を設定する。

(i) 特に、ODAの債務帳消しの可能性も含めた債務救済等、後発開発途上国を含む途上国の対外債務や債務能力の問題に対し、ジェンダーの視点を組み入れた開発志向型でかつ持続性のある解決策を見出して実施し、女性の地位向上を含む、開発を目的とした計画やプロジェクトへの資金の割り振りが可能となるよう、これらの国を支援する。

(j) ケルン債務削減イニシアティブ、特に拡大HIPC（重債務貧困国）イニシアティブの早期実施を支持し、その実施のために十分な資金を手当てするとともに、これにより節減となった資金が、ジェンダーの側面に配慮した貧困削減計画の支援に使われるようにする。

(k) あらゆる人々、特に女性や少女に完全に資することを目的に、ジェンダーの

視点を統合する20/20イニシアティブの実施を推進し促進する。

(l) 先進国の国民総生産の〇・七%を政府開発援助全体に充てるよう努力するといういまだ達成されていない国際的合意目標の、できるだけ早期の実現に向けた努力の再確認等を行い、男女平等、開発平和への資源の流れを増加するよう、国際協力の継続を要請する。

(m) 途上国及び移行期経済の国に対し、新しい現代技術を始めとする適正技術の移転を促進し、男女平等、開発、平和の目標達成の速度を上げるために、国の取組を補足する効果的な手段として、かかる移転に対する制限撤廃措置に向けての国際社会の取組を奨励する。

(n) 国連ミレニアム総会準備委員会に対し、国連におけるジェンダー主流化の方針に基づき、貧困撲滅の検討を含む、ミレニアム総会やサミット関連のあらゆる活動や資料に、ジェンダーの視点を組み入れることを勧告する。

(c) 男女平等、開発、平和を実現する努力の一環として、あらゆる人権―発展の権利を含む、市民的、文化的、経済的、政治的、社会的権利―及び基本的自由の享有を保護・促進する環境を整えるとともに、そうした政策を策定・実施する。

102、(a) 女性NGOがその開発活動を持続的に行うのに必要な諸資源を動員できるように、国内法にのっとり、これら団体の能力を支援できるような環境を創出し強化する。

(b) 第四回世界女性会議の目標を支援するため、NGO等関連の市民社会、民間部門や労働組合、女性団体その他のNGO、通信、メディア・システム等の参加のもと、国際的組織や政府間組織のあらゆるレベルにおいて、複数の関係方面とのパートナーシップ・協力関係を構築し強化することを奨励する。

(c) 女性や少女に焦点を合わせた貧困撲滅イニシアティブを支援するため、各国

政府、とりわけ国際金融機関、多国間機関といった国際機関、民間部門の機関、特に女性団体や地域に根ざした組織といったNGOを含む市民社会相互のパートナーシップや協力を奨励する。

(d) 持続可能な環境・資源管理の仕組み作り、計画、基盤整備の開発・設計・実施にジェンダーの視点を統合することにより、アジェンダ21(注19)の実施に女性及び女性のNGO及び地域に根差した団体が果たす極めて重要な役割を認め、これら団体を支援する。

103、(a) 高齢女性の自立、平等、参加、安全確保を重視した、健康で活発な高齢者向けプログラムを推進し、高齢女性のニーズを踏まえた、ジェンダー特有の研究やプログラムを実施する。

(b) 感染被害の大きい国では特に優先事項として、また可能な場合にはNGOとの連携の下、あらゆる年齢の女性をHIVその他の性感染症から保護する教育、

サービス、地域動員戦略への取組を進める。そのために性感染症やHIV/AIDSを防止する殺菌剤や女性用コンドームといった方法など、安全かつ廉価で、効果があり、簡単に入手できるような、女性がコントロールする方法の開発、任意かつ守秘が保障されたHIV検査やカウンセリングの実施、性的抑制やコンドームの使用を含む、責任ある性行動の奨励、性感染症を対象としたワクチンの開発、簡単に廉価な診断法、単回投与の治療の開発などの措置を採る。

(c) HIV/AIDS及びそれに伴う結核等の日和見感染など、性感染症に感染したり、命を脅かす疾病に罹患している、あらゆる人々、とりわけ女性や少女に、適切かつ廉価な料金での治療、モニター、看護を受ける機会を提供する。妊娠期間中や授乳期を含め適切な住宅や社会的保護などを含む諸サービスを提供し、HIV/AIDSの流行で孤児になった少女を支援し、HIV/AIDSなど、

重病人の介護にかかわる女性やその他の家族に対するジェンダーに配慮した支援システムを整備する。

(d) 世界で発生している麻薬の問題の様々な側面が女性や少女に及ぼす影響に関して、世界及び国内の世論を活性化させる効果的かつ迅速な措置を講じ、そのために十分な資源が割り当てられるようにする。

104、21世紀に向けて男女平等、開発、平和を推進するため、第4回世界女性会議その他の国連主催による世界会議やサミットで表明されたコミットメント（誓約）の実施に向けて政府とNGOのパートナーシップを促進する。

注

注7 総会決議 S-21/22 付属文書参

照

注8

「国際人口・開発会議（カイロ、1994年9月5日）13日報告」（国連出版物、販売番号E.95.XIII.16）、第1章、決議1、付属文書

注9

A/CONF.183/9

注10

総会決議 34/180

注11

総会決議 54/4 付属文書

注12

総会決議 54/263 付属文書I

注13

同書 付属文書II

注14

国連環境計画 「生物の多様性に関する条約」（環境法・制度プログラム活動センター）、1992年6月 参照

注15

総会決議 44/25 付属文書

注16

総会決議 54/126 参照

注17

総会決議 54/243

注18

「Herstories」とは、歴史的出来

事や現代の出来事を女性の視点から物語ることを意味した広く使われている用語。

注19

「国連環境開発会議（リオ・デ・ジャネイロ、1992年6月3日）14日報告」、第1巻「会議採択決議（国連出版物、販売番号E.93.I.8及び正誤表決議1、付属文書II

◆お問い合わせ先

内閣府男女共同参画局

（省庁再編に伴い、総理府男女共同参画室から名称を変更）

〒100-8904

千代田区永田町1-6-1

TEL 03-3581-5003

FAX 03-3581-9566



〔編集後記〕

◆ミレニアムの国際女性フォーラムの中で、何といっても最高の圧巻は、年末の「女性国際戦犯法廷」でした。二十世紀の世界の女性の最大の行事と言ってもいい、すばらしい催しだったと思います。

そこで開陳された日本帝国軍人の残虐それを現実に謝罪し、補償し、戦争の原因と経過を精密に追求することこそ、二十一世紀の日本女性が第一に実行しなければならぬことだと思えます。戦犯法廷の概要は、次号にでも、ぜひともご報告したいと思っています。

(千)

◆発行が遅くなりまして、たいへん申し訳ございませんでした。今回はページ数の関係上、内容を報告と成果文書に限らせていただきました。「TOPICS」「集会から」など、通常のページを掲載できなかったことをお詫び申し上げます。なお、皆様からいただいた年始広告は、次号に掲載いたしますので、何卒ご了承くださいませ。今世紀も「あごろ」をよろしくお願い申し上げます。

(礼)

あごろ 264号 ミレニアムの国際女性フォーラム

●発行2001年1月10日

●編集 あごろ山口・あごろ新宿

●発行所 あごろ MINI 編集部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.ne.jp.

●定価 本体1143円+税 ●振替 00100-0-5264



9784893061119



1920036011438

ISBN4-89306-111-9

C0036 ¥1143E

女による女のBOC出版部
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体1143円＋税

企画・調査・翻訳…
何でもご相談ください

NPOウイン女性企画

〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-2

☎052-251-9109 066261-8778

創業1960年 —
女性専門職集団

BOC

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354・3941 03354・9014

E-mail XLV05467@nifty.ne.jp.

へあごらん
人と人の出会いひろば
へあごらん
人と人の共生きるひろば

だれもが だれをも
ふみしだくことなく
胸の底まで深く息をし
ああ 生きててよかったねと
ほほえみあえる地球にしよう

思いきりのびやかに生きよう
だから
たった一度の人生
たった一つの地球
だから

わたしも
地球も
かけがえのない地球
かけがえのないわたし
かけがえのないあなただから
たいせつにたいせつにしよう
あなたも

戦時下勤労働員少女の会編
¥3990

斎藤千代著
¥1575

茨城県立日立高女・昭和18年入学生会の会編
¥1890

あごら編集部編
¥1575

山下智恵子著
¥1995

塚崎直樹編
¥1575

この ひろい宇宙に
たった一つの地球
その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

声なき虐殺 戦争は精神「障害者」に何をしたのか

幻の塔 ハウスキーパー熊沢光子の場合

女と戦争 戦争に女たちはなぜ組み込まれたか

十四歳の戦争
そのとき日立は戦場だった

記録——少女たちの勤労働員
女子学徒・挺身隊勤労働員の実態

見えない戦争 湾岸戦争直後の現地イラクで見た真実

BOC 平和シリーズ